

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2001年 1月26日

出 願 番 号

Application Number:

特願2001-018386

出 願 人

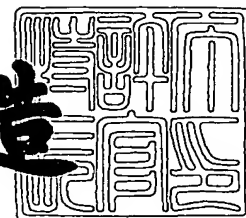
Applicant(s):

三共株式会社

2001年11月 9日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3098963

【書類名】 特許願

【整理番号】 2000238SL

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 C07C 37/00

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区広町1丁目2番58号 三共株式会社内

【氏名】 小山 和男

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区広町1丁目2番58号 三共株式会社内

【氏名】 丸本 真志

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区広町1丁目2番58号 三共株式会社内

【氏名】 戸田 成洋

【発明者】

【住所又は居所】 東京都品川区広町1丁目2番58号 三共株式会社内

【氏名】 古源 寛

【特許出願人】

【識別番号】 000001856

【氏名又は名称】 三共株式会社

【代理人】

【識別番号】 100081400

【弁理士】

【氏名又は名称】 大野 彰夫

【選任した代理人】

【識別番号】 100092716

【弁理士】

【氏名又は名称】 中田 ▲やす▼雄

【選任した代理人】

【識別番号】 100096666

【弁理士】

【氏名又は名称】 室伏 良信

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 010216

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9704937

【包括委任状番号】 9704935

【包括委任状番号】 9704936

【ブルーフの要否】 要

【書類名】明細書

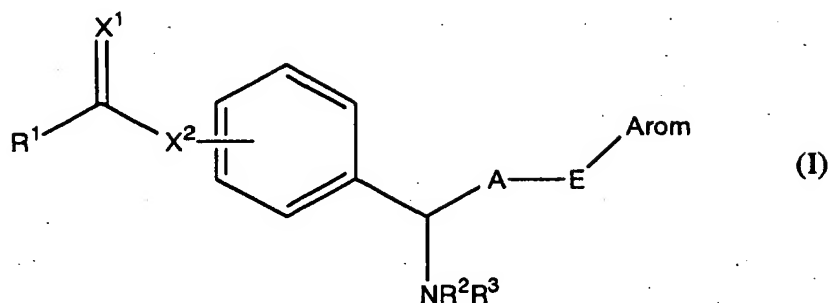
【発明の名称】ヒドロキシベンジルアミン誘導体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

下記一般式 (I)

【化 1】



〔式中、 R^1 は、 C_1 - C_6 アルキル基、アミノ基、(C_1 - C_6 アルキル)アミノ基、ジ(C_1 - C_6 アルキル)アミノ基又は含窒素飽和複素環基を示し、

R^2 及び R^3 は、同一又は異なって、水素原子又は C_1 - C_6 アルキル基を示し、

Aromは、アリール基、置換基群 α より選択される同一又は異なる置換基で1乃至3置換されたアリール基、ヘテロアリール基、又は、置換基群 α より選択される同一又は異なる置換基で1乃至3置換されたヘテロアリール基を示し、

Aは、 C_1 - C_6 アルキレン基を示し、

Eは、単結合、酸素原子、硫黄原子又は式 $-NR^4$ -基(式中、 R^4 は水素原子又は C_1 - C_7 アルカノイル基を示す。)を示し、

X^1 及び X^2 は同一又は異なって、酸素原子又は硫黄原子を示す。〕で表される化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステル。

<置換基群 α >

ハロゲン原子、 C_1 - C_6 アルキル基、ハロゲン C_1 - C_6 アルキル基、 C_1 - C_6 アルコキシ基、 C_1 - C_3 アルキレンジオキシ基、 C_1 - C_7 アルカノイル基、 C_2 - C_7 アルキルオキシカルボニル基、アミノ基、 C_1 - C_7 アルカノイルアミノ基、水酸基、シアノ基、ニトロ基、及び、カルボキシ基。

【請求項 2】式 $R^1-C(=X^1)-$ で表される基が、カルバモイル基、(C_1 - C_4 アルキ

ル) カルバモイル基、ジ (C_1-C_4 アルキル) カルバモイル基、チオカルバモイル基、(C_1-C_6 アルキル) チオカルバモイル基、又は、ジ (C_1-C_4 アルキル) チオカルバモイル基である請求項1の化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステル。

【請求項3】式 $R^1-C(=X^1)-$ で表される基が、(C_1-C_4 アルキル) カルバモイル基、ジ (C_1-C_4 アルキル) カルバモイル基、(C_1-C_4 アルキル) チオカルバモイル基、又は、ジ (C_1-C_4 アルキル) チオカルバモイル基である請求項1の化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステル。

【請求項4】式 $R^1-C(=X^1)-$ で表される基が、(C_1-C_4 アルキル) カルバモイル基、又は、ジ (C_1-C_4 アルキル) カルバモイル基である請求項1の化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステル。

【請求項5】式 $R^1-C(=X^1)-$ で表される基が、ジ (C_1-C_4 アルキル) カルバモイル基である請求項1の化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステル。

【請求項6】式 $R^1-C(=X^1)-$ で表される基が、ジメチルカルバモイル基又はエチルメチルカルバモイル基である請求項1の化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステル。

【請求項7】式 $R^1-C(=X^1)-$ で表される基が、ジメチルカルバモイル基である請求項1の化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステル。

【請求項8】式 R^2R^3N- で表される基が、(C_1-C_6 アルキル) アミノ基、又は、ジ (C_1-C_6 アルキル) アミノ基である請求項1乃至6の何れか1項に記載の化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステル。

【請求項9】式 R^2R^3N- で表される基が、メチルアミノ基、エチルアミノ基、ジメチルアミノ基、又は、ジエチルアミノ基である請求項1乃至6の何れか1項に記載の化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステル。

【請求項10】式 R^2R^3N- で表される基が、メチルアミノ基、又は、ジメチルアミノ基である請求項1乃至6の何れか1項に記載の化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステル。

【請求項11】Aromが、フェニル基、置換基群 α より選択される同一又は異なる

置換基で1乃至3置換されたフェニル基、ピリジル基、又は、置換基群 α より選択される置換基で1置換されたピリジル基である請求項1乃至10の何れか1項に記載の化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステル。

<置換基群 α >

ハロゲン原子、 C_1-C_6 アルキル基、ハロゲン C_1-C_6 アルキル基、 C_1-C_6 アルコキシ基、 C_1-C_3 アルキレンジオキシ基、 C_1-C_7 アルカノイル基、 C_2-C_7 アルキルオキシカルボニル基、アミノ基、 C_1-C_7 アルカノイルアミノ基、水酸基、シアノ基、ニトロ基、及び、カルボキシ基。

【請求項12】Aromが、フェニル基、又は、置換基群 α より選択される同一又は異なる置換基で1乃至3置換されたフェニル基である請求項1乃至10の何れか1項に記載の化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステル。

<置換基群 α >

ハロゲン原子、 C_1-C_6 アルキル基、ハロゲン C_1-C_6 アルキル基、 C_1-C_6 アルコキシ基、 C_1-C_3 アルキレンジオキシ基、 C_1-C_7 アルカノイル基、 C_2-C_7 アルキルオキシカルボニル基、アミノ基、 C_1-C_7 アルカノイルアミノ基、水酸基、シアノ基、ニトロ基、及び、カルボキシ基。

【請求項13】Aromが、置換基群 $\alpha 1$ より選択される同一又は異なる置換基で1乃至2置換されたフェニル基、又は、ハロゲン原子で3置換されたフェニル基である請求項1乃至10の何れか1項に記載の化合物、又は、その薬理学上許容される塩。

<置換基群 $\alpha 1$ >

ハロゲン原子、 C_1-C_4 アルキル基、1乃至3個のフッ素原子で置換された C_1-C_4 アルキル基、 C_1-C_4 アルコキシ基、メチレンジオキシ基、エチレンジオキシ基、 C_1-C_4 アルカノイル基、シアノ基及びニトロ基。

【請求項14】Aromが、置換基群 $\alpha 2$ より選択される同一又は異なる置換基で1乃至2置換されたフェニル基、又は、フッ素原子若しくは塩素原子で3置換されたフェニル基である請求項1乃至10の何れか1項に記載の化合物、又は、その薬理学上許容される塩。

<置換基群 $\alpha 2$ >

フッ素原子、塩素原子、メチル基、トリフルオロメチル基、メトキシ基、アセチル基、シアノ基及びニトロ基。

【請求項 15】Aromが、置換基群 $\alpha 3$ より選択される同一又は異なる置換基で1乃至2置換されたフェニル基、又は、フッ素原子で3置換されたフェニル基である請求項 1 乃至 10 の何れか 1 項に記載の化合物、又は、その薬理学上許容される塩。

<置換基群 $\alpha 3$ >

フッ素原子、塩素原子、アセチル基、シアノ基及びニトロ基。

【請求項 16】Aromが、置換基群 $\alpha 4$ より選択される同一又は異なる置換基で1乃至2置換されたフェニル基、又は、フッ素原子で3置換されたフェニル基である請求項 1 乃至 10 の何れか 1 項に記載の化合物、又は、その薬理学上許容される塩。

<置換基群 $\alpha 4$ >

フッ素原子、塩素原子及びニトロ基。

【請求項 17】Aromが、フッ素原子、塩素原子、若しくは、ニトロ基で1置換されたフェニル基、又は、フッ素原子で2置換されたフェニル基である請求項 1 乃至 10 の何れか 1 項に記載の化合物、又は、その薬理学上許容される塩。

【請求項 18】Aromが、4-フルオロフェニル基、4-クロロフェニル基、4-ニトロフェニル基、又は、3, 4-ジフルオロフェニル基である請求項 1 乃至 10 の何れか 1 項に記載の化合物、又は、その薬理学上許容される塩。

【請求項 19】Aが C_1-C_4 アルキレン基である請求項 1 乃至 18 の何れか 1 項に記載の化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステル。

【請求項 20】Aがメチレン基又はエチレン基である請求項 1 乃至 18 の何れか 1 項に記載の化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステル。

【請求項 21】Aがエチレン基である請求項 1 乃至 18 の何れか 1 項に記載の化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステル。

【請求項 22】Eが酸素原子又は単結合である請求項 1 乃至 21 の何れか 1 項に記載の化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステル。

【請求項 23】Eが酸素原子である請求項 1 乃至 22 の何れか 1 項に記載の化合

物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステル。

【請求項 24】 X^2 が酸素原子である請求項 1 乃至 23 の何れか 1 項に記載の化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステル。

【請求項 25】 請求項 1 乃至 24 の何れか 1 項に記載の化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルを含有する医薬。

【請求項 26】 請求項 1 乃至 24 の何れか 1 項に記載の化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルを含有する、アセチルコリンエステラーゼ及び選択的セロトニン再取込の阻害剤。

【請求項 27】 請求項 1 乃至 24 の何れか 1 項に記載の化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルを含有する、アルツハイマー病、鬱病、ハンチントン舞蹈病、ピック病、晩発生運動異常症、脅迫性障害若しくはパニック障害の治療薬又は予防薬。

【請求項 28】 請求項 1 乃至 24 の何れか 1 項に記載の化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルを含有する、アルツハイマー病の治療薬又は予防薬。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、優れたアセチルコリンエステラーゼ阻害作用及び選択的セロトニン再取込阻害作用を併せ持ち、アルツハイマー病、鬱病、ハンチントン舞蹈病、ピック病、晩発生運動異常症、脅迫性障害又はパニック障害の治療薬又は予防薬として有用な、化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステル、及びそれらを含有する医薬に関する。

【0002】

【従来の技術】

高齢人口の急激な増加の中で、アルツハイマー病に代表される高齢痴呆の治療法確立が渴望されており、種々の方向からアルツハイマー病治療薬の開発研究が行われている。アルツハイマー病患者では、患者脳内のアセチルコリン濃度が低下しており、コリン作動性機能の低下が認められることから、コリン作動性機能

の賦活化を目的として、アセチルコリン前駆体物質、アセチルコリンエステラーゼ阻害剤、アセチルコリン作動薬等によるアルツハイマー病治療の検討が行われている。軽度から中等度のアルツハイマー病治療に、中枢コリン作動性神経系の活性化が有効であることは、アセチルコリンエステラーゼ阻害剤の臨床応用によって証明されている [Rev. Contemp. Pharmacother., 6, 335 (1995).]。初期のアセチルコリンエステラーゼ阻害剤で見られた重大な副作用、すなわち肝毒性は、アセチルコリンエステラーゼとブチルコリンエステラーゼに対する化合物の阻害作用特異性を確保することによって大幅に改善され、現在、第 2 世代のアセチルコリンエステラーゼ阻害剤が開発されつつある [Neurology, 50, 136 (1998).]

【 0 0 0 3 】

さて、初期のアルツハイマー病患者では周辺症状として鬱症状が多く報告されている。認知機能における障害が軽度である内は、鬱症状を軽減することによって認知機能等の中核症状の改善も期待できると考えられ、抗鬱剤による処置も試みられている [Ann. N. Y. Acad. Sci., 695, 254 (1993).]。現在、鬱症状には脳セロトニン系が関与していることが広く確認されており、セロトニン受容体に作用する薬剤あるいはセロトニン再取込阻害剤についての研究が行われており、選択的セロトニン再取込阻害剤は副作用の少ない抗鬱剤であると報告されている [Drugs, 32, 481, (1986).]。アセチルコリンエステラーゼ阻害作用と選択的セロトニン再取込阻害作用を併有する薬剤は、両作用の相乗効果により、鬱症状を軽減し、アルツハイマー病の中核症状である認知機能の改善も期待できると考えられ、アセチルコリンエステラーゼ阻害作用のみを有する化合物よりも有効なアルツハイマー病治療薬に成り得ると考えられる。しかしながら、本発明の化合物に化学構造が類似し、かつ、アセチルコリンエステラーゼ阻害作用及び選択的セロトニン再取込阻害作用を併せ持つ化合物はこれまで知られていなかった。

【 0 0 0 4 】

【発明が解決しようとする課題】

本発明者は、優れたアセチルコリンエステラーゼ阻害作用と選択的セロトニン再取込阻害作用を併せ持つ化合物の開発を目指し、種々のベンゼン誘導体の合成

とその薬理活性について、永年に亘り鋭意研究を行った結果、ベンジル位にアミンを有するヒドロキシベンジルアミン誘導体が、優れたアセチルコリンエステラーゼ阻害作用及び選択的セロトニン再取込阻害作用を併せ持ち、アルツハイマー病、鬱病、ハンチントン舞踏病、ピック病、晩発性運動異常症、脅迫性障害又はパニック障害（特にアルツハイマー病）の治療薬又は予防薬（特に治療薬）として有用であることを見だし、本発明を完成するに至った。

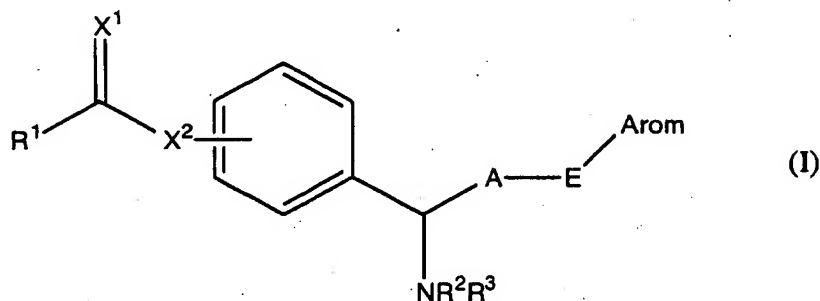
【0005】

【課題を解決するための手段】

本発明の新規ヒドロキシベンジルアミン誘導体は、
一般式(I)

【0006】

【化2】



【0007】

〔式中、 R^1 は、 C_1 - C_6 アルキル基、アミノ基、(C_1 - C_6 アルキル)アミノ基、ジ(C_1 - C_6 アルキル)アミノ基又は含窒素飽和複素環基を示し、

R^2 及び R^3 は、同一又は異なって、水素原子又は C_1 - C_6 アルキル基を示し、

Aromは、アリール基、置換基群 α より選択される同一又は異なる置換基で1乃至3置換されたアリール基、ヘテロアリール基、又は、置換基群 α より選択される置換基で1置換されたヘテロアリール基を示し、

Aは、 C_1 - C_6 アルキレン基を示し、

Eは、単結合、酸素原子、硫黄原子又は式- NR^4 -基（式中、 R^4 は水素原子又は C_1 - C_6 アルカノイル基を示す。）を示し、

X^1 及び X^2 は同一又は異なって、酸素原子又は硫黄原子を示す。〕で表される、

化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルである。

<置換基群 α >

ハロゲン原子、 C_1-C_6 アルキル基、ハロゲン C_1-C_6 アルキル基、 C_1-C_6 アルコキシ基、 C_1-C_3 アルキレンジオキシ基、 C_1-C_7 アルカノイル基、 C_2-C_7 アルキルオキシカルボニル基、アミノ基、 C_1-C_7 アルカノイルアミノ基、水酸基、シアノ基、ニトロ基、及び、カルボキシ基。

【0008】

上記一般式(I)で表される化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルにおいて、好適には、

(1) 式 $R^1-C(=X^1)-$ で表される基が、カルバモイル基、(C_1-C_4 アルキル)カルバモイル基、ジ(C_1-C_4 アルキル)カルバモイル基、チオカルバモイル基、(C_1-C_4 アルキル)チオカルバモイル基、又は、ジ(C_1-C_4 アルキル)チオカルバモイル基である化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルであり、

(2) 式 $R^1-C(=X^1)-$ で表される基が、(C_1-C_4 アルキル)カルバモイル基、ジ(C_1-C_4 アルキル)カルバモイル基、(C_1-C_4 アルキル)チオカルバモイル基、又は、ジ(C_1-C_4 アルキル)チオカルバモイル基である化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルであり、

(3) 式 $R^1-C(=X^1)-$ で表される基が、(C_1-C_4 アルキル)カルバモイル基、又は、ジ(C_1-C_4 アルキル)カルバモイル基である化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルであり、

(4) 式 $R^1-C(=X^1)-$ で表される基が、ジ(C_1-C_4 アルキル)カルバモイル基である化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルであり、

(5) 式 $R^1-C(=X^1)-$ で表される基が、ジメチルカルバモイル基又はエチルメチルカルバモイル基である化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルであり、

(6) 式 $R^1-C(=X^1)-$ で表される基が、ジメチルカルバモイル基である化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルであり、

(7) 式 R^2R^3N- で表される基が、(C_1-C_6 アルキル)アミノ基、又は、ジ(C_1-C

6アルキル) アミノ基である化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルであり、

(8) 式 R^2R^3N- で表される基が、メチルアミノ基、エチルアミノ基、ジメチルアミノ基、又は、ジエチルアミノ基である化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルであり、

(9) 式 R^2R^3N- で表される基が、メチルアミノ基、又は、ジメチルアミノ基である化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルであり、

(10) Aromが、フェニル基、置換基群 α より選択される同一又は異なる置換基で1乃至3置換されたフェニル基、ピリジル基、又は、置換基群 α より選択される置換基で1置換されたピリジル基である化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルであり、

(11) Aromが、フェニル基、又は、置換基群 α より選択される同一又は異なる置換基で1乃至3置換されたフェニル基である化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルであり、

(12) Aromが、置換基群 α 1より選択される同一又は異なる置換基で1乃至2置換されたフェニル基、又は、ハロゲン原子で3置換されたフェニル基である化合物、又は、その薬理学上許容される塩であり、

(13) Aromが、置換基群 α 2より選択される同一又は異なる置換基で1乃至2置換されたフェニル基、又は、フッ素原子若しくは塩素原子で3置換されたフェニル基である化合物、又は、その薬理学上許容される塩であり、

(14) Aromが、置換基群 α 3より選択される同一又は異なる置換基で1乃至2置換されたフェニル基、又は、フッ素原子で3置換されたフェニル基である化合物、又は、その薬理学上許容される塩であり、

(15) Aromが、置換基群 α 4より選択される同一又は異なる置換基で1乃至2置換されたフェニル基、又は、フッ素原子で3置換されたフェニル基である化合物、又は、その薬理学上許容される塩であり、

(16) Aromが、フッ素原子、塩素原子、若しくは、ニトロ基で1置換されたフェニル基、又は、フッ素原子で2置換されたフェニル基である化合物、又は、その薬理学上許容される塩であり、

(17) Aromが、4-フルオロフェニル基、4-クロロフェニル基、4-ニトロフェニル基、又は、3,4-ジフルオロフェニル基である化合物、又は、その薬理学上許容される塩であり、

(18) Aが C_1-C_4 アルキレン基である化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルであり、

(19) Aがメチレン基、又は、エチレン基である化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルであり、

(20) Aがエチレン基である化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルであり、

(21) Eが酸素原子又は単結合である化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルであり、

(22) Eが酸素原子である化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルであり、

(23) X^2 が酸素原子である化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルであり、

(24) 式 $R^1-C(=X^1)-X^2$ で表される基が、パラ位に置換している化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルである。

<置換基群 $\alpha 1$ >

ハロゲン原子、 C_1-C_4 アルキル基、1乃至3個のフッ素原子で置換された C_1-C_4 アルキル基、 C_1-C_4 アルコキシ基、メチレンジオキシ基、エチレンジオキシ基、 C_1-C_4 アルカノイル基、シアノ基、及び、ニトロ基。

<置換基群 $\alpha 2$ >

フッ素原子、塩素原子、メチル基、トリフルオロメチル基、メトキシ基、アセチル基、シアノ基、及び、ニトロ基。

<置換基群 $\alpha 3$ >

フッ素原子、塩素原子、アセチル基、シアノ基、及び、ニトロ基。

<置換基群 $\alpha 4$ >

フッ素原子、塩素原子、及び、ニトロ基。

【0009】

本発明の医薬は、上記一般式 (I) で表される化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルを有効成分として含有する。

【0010】

本発明のアセチルコリンエステラーゼ及び選択的セロトニン再取込の阻害剤は、上記一般式 (I) で表される化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルを含有する。

【0011】

本発明のアルツハイマー病、鬱病、ハンチントン舞踏病、ピック病、晩発性運動異常症、脅迫性障害若しくはパニック障害(好ましくは、アルツハイマー病である。)の治療薬又は予防薬は、上記一般式 (I) で表される化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルを含有する。

【0012】

上記一般式 (I) 中、 R^1 乃至 R^3 、及び、＜置換基群 α ＞における「 C_1 - C_6 アルキル基」としては、例えば、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、s-ブチル、t-ブチル、ペンチル、イソペンチル、2-メチルブチル、ネオペンチル、1-エチルプロピル、ヘキシル、イソヘキシル、4-メチルペンチル、3-メチルペンチル、2-メチルペンチル、1-メチルペンチル、3, 3-ジメチルブチル、2, 2-ジメチルブチル、1, 1-ジメチルブチル、1, 2-ジメチルブチル、1, 3-ジメチルブチル、2, 3-ジメチルブチル、2-エチルブチルのような炭素数1乃至6個の直鎖又は分枝鎖アルキル基を挙げることができ、好適には炭素数1乃至4個の直鎖又は分枝鎖アルキル基であり、更に好適には、メチルである。

【0013】

上記一般式 (I) 中、 R^1 における「(C_1 - C_6 アルキル) アミノ基」としては、例えば、メチルアミノ、エチルアミノ、プロピルアミノ、イソプロピルアミノ、ブチルアミノ、イソブチルアミノ、s-ブチルアミノ、t-ブチルアミノ、ペンチルアミノ、イソペンチルアミノ、2-メチルブチルアミノ、ネオペンチルアミノ、1-エチルプロピルアミノ、ヘキシルアミノ、イソヘキシルアミノ、4-メチルペンチルアミノ、3-メチルペンチルアミノ、2-メチルペンチルアミノ、1

ーメチルペンチルアミノ、3, 3-ジメチルブチルアミノ、2, 2-ジメチルブチルアミノ、1, 1-ジメチルブチルアミノ、1, 2-ジメチルブチルアミノ、1, 3-ジメチルブチルアミノ、2, 3-ジメチルブチルアミノ、2-エチルブチルアミノのような炭素数1乃至6個の直鎖又は分枝鎖アルキルアミノ基を挙げることができ、好適には、メチルアミノである。

【0014】

上記一般式 (I) 中、 R^1 における「ジ (C_1 - C_6 アルキル) アミノ基」としては、例えば、ジメチルアミノ、ジエチルアミノ、エチルメチルアミノ、ジプロピルアミノ、ジイソプロピルアミノ、ジブチルアミノ、ジイソブチルアミノ、ジ s-ブチルアミノ、ジ t-ブチルアミノ、ジペンチルアミノ、ジイソペンチルアミノ、ジネオペンチルアミノ、ジ1-エチルプロピルアミノ、ジヘキシルアミノ、ジイソヘキシルアミノのような炭素数2乃至12個の直鎖又は分枝鎖ジアルキルアミノ基を挙げることができ、好適には、ジメチルアミノ又はエチルメチルアミノであり、更に好適には、ジメチルアミノである。

【0015】

上記一般式 (I) 中、 R^1 における「含窒素飽和複素環基」としては、例えばモルホリニル、チオモルホリニル、ピロリジニル、イミダゾリジニル、ピラゾリジニル、ピペリジル、ピペラジニルのような窒素原子を1個含有し、且つ、硫黄原子、酸素原子又は／及び窒素原子を0乃至3個含む5乃至7員飽和複素環基を挙げることができ、好適には、モルホリニルである。

【0016】

上記一般式 (I) 中、 R^1 の好適な基は、(C_1 - C_6 アルキル) アミノ基又はジ (C_1 - C_6 アルキル) アミノ基であり、より好適にはジ (C_1 - C_6 アルキル) アミノ基である。

【0017】

上記一般式 (I) 中、Aromにおける「アリール基」、及び、「置換基群 α より選択される同一又は異なる置換基で1乃至3置換されたアリール基」の「アリール基」としては、例えば、フェニル、インデニル、ナフチル、フェナンスレニル、アントラセニルのような炭素数5乃至14個の芳香族炭化水素基を挙げること

ができ、好適にはフェニル基である。

【0018】

上記一般式 (I) 中、Aromにおける「ヘテロアリール基」、及び、「置換基群 α より選択される置換基で1置換されたヘテロアリール基」の「ヘテロアリール基」としては、例えば、フリル、チエニル、ピロリル、アゼピニル、ピラゾリル、イミダゾリル、オキサゾリル、イソキサゾリル、チアゾリル、イソチアゾリル、1, 2, 3-オキサジアゾリル、トリアゾリル、テトラゾリル、チアジアゾリル、ピラニル、ピリジル、ピリダジニル、ピリミジニル、ピラジニルのような硫黄原子、酸素原子又は/及び窒素原子を1乃至3個含む5乃至7員芳香族複素環基を挙げることができ、好適には、ピリジルである。

【0019】

上記一般式 (I) 中、Aにおける「 C_1 - C_6 アルキレン基」としては、例えば、メチレン、エチレン、プロピレン、トリメチレン、テトラメチレン、ペンタメチレン、ヘキサメチレンのような炭素数1乃至6個の直鎖アルキレン基を挙げることができ、好適には、炭素数1乃至4個の直鎖アルキレン基であり、更に好適には、メチレン又はエチレンであり、更により好適にはエチレンである。

【0020】

上記一般式 (I) 中、 R^4 及び<置換基群 α >における「 C_1 - C_7 アルカノイル基」としては、例えば、ホルミル、アセチル、プロピオニル、ブチリル、イソブチリル、ペンタノイル、ヘキサノイルのような炭素数1乃至7個のアルキルカルボニル基を挙げることができ、好適には、アセチル基である。

【0021】

上記一般式 (I) 中、 X^1 の好適な基は、酸素原子である。

【0022】

上記一般式 (I) 中、<置換基群 α >における「ハロゲン原子」とは、フッ素原子、塩素原子、臭素原子又はヨウ素原子であり、好適には、フッ素原子、塩素原子である。

【0023】

上記一般式 (I) 中、<置換基群 α >における「ハロゲン C_1 - C_6 アルキル基」と

は、前記「 C_1-C_6 アルキル基」にハロゲン原子が置換した基をいい、例えば、トリフルオロメチル、トリクロロメチル、ジフルオロメチル、ジクロロメチル、ジブロモメチル、フルオロメチル、2, 2, 2-トリフルオロエチル、2, 2, 2-トリクロロエチル、2-ブロモエチル、2-クロロエチル、2-フルオロエチル、2-ヨードエチル、3-クロロプロピル、4-フルオロブチル、6-ヨードヘキシル、2, 2-ジブロモエチルを挙げることができ、好適には、トリフルオロメチルである。

【0024】

上記一般式 (I) 中、＜置換基群 α ＞における「 C_1-C_6 アルコキシ基」とは、前記「 C_1-C_6 アルキル基」が酸素原子に結合した基をいい、例えば、メトキシ、エトキシ、 n -プロポキシ、イソプロポキシ、 n -ブトキシ、イソブトキシ、 s -ブトキシ、 $tert$ -ブトキシ、 n -ペントキシ、イソペントキシ、2-メチルブトキシ、ネオペントキシ、 n -ヘキシルオキシ、4-メチルペントキシ、3-メチルペントキシ、2-メチルペントキシ、3, 3-ジメチルブトキシ、2, 2-ジメチルブトキシ、1, 1-ジメチルブトキシ、1, 2-ジメチルブトキシ、1, 3-ジメチルブトキシ、2, 3-ジメチルブトキシのような炭素数1乃至6個の直鎖又は分枝鎖アルコキシ基を示し、好適にはメトキシである。

【0025】

上記一般式 (I) 中、＜置換基群 α ＞における「 C_1-C_3 アルキレンジオキシ基」とは、メチレンジオキシ、エチレンジオキシ又はプロピレンジオキシのことであり、好適にはメチレンジオキシである。

【0026】

上記一般式 (I) 中、＜置換基群 α ＞における「 C_2-C_7 アルキルオキシカルボニル基」としては、例えば、メトキシカルボニル、エトキシカルボニル、 $tert$ -ブトキシカルボニル、イソブトキシカルボニルのような炭素数2乃至8個のアルキルオキシカルボニル基を挙げることができ、好適には、メトキシカルボニルである。

【0027】

上記一般式 (I) 中、＜置換基群 α ＞における「 C_1-C_7 アルカノイルアミノ基」

とは、前記「 C_1 - C_7 アルカノイル基」がアミノ基に置換した基をいい、例えば、ホルミルアミノ、アセチルアミノ、プロピオニルアミノ、ブチリルアミノ、イソブチリルアミノ、ペンタノイルアミノのような炭素数1乃至7個のアルキルカルボニルアミノ基を挙げることができ、好適には、アセチルアミノである。

【0028】

上記において、「そのエステル」とは、本発明の化合物は、エステルにすることができるので、そのエステルをいい、そのようなエステルとしては、「水酸基のエステル」と「カルボキシ基のエステル」を示し、各々のエステル残基が「一般的保護基」又は「生体内で化学的又は酵素的な加水分解によって開裂し得る保護基」であるエステルをいう。

【0029】

「一般的保護基」とは、加水素分解、加水分解、電気分解、光分解のような化学的方法により開裂し得る保護基をいい、「水酸基のエステル」に斯かる「一般的保護基」としては、例えば、ホルミル、アセチル、プロピオニル、ブチリル、イソブチリル、ペンタノイル、ピバロイル、バレリル、イソバレリル、オクタノイル、ノナノイル、デカノイル、3-メチルノナノイル、8-メチルノナノイル、3-エチルオクタノイル、3,7-ジメチルオクタノイル、ウンデカノイル、ドデカノイル、トリデカノイル、テトラデカノイル、ペンタデカノイル、ヘキサデカノイル、1-メチルペンタデカノイル、14-メチルペンタデカノイル、13,13-ジメチルテトラデカノイル、ヘプタデカノイル、15-メチルヘキサデカノイル、オクタデカノイル、1-メチルヘプタデカノイル、ノナデカノイル、アイコサノイル及びヘナイコサノイルのようなアルキルカルボニル基、スクシノイル、グルタロイル、アジポイルのようなカルボキシ基化アルキルカルボニル基、クロロアセチル、ジクロロアセチル、トリクロロアセチル、トリフルオロアセチルのようなハロゲン原子で1又は2以上置換された低級アルキル基カルボニル基、シクロプロピルカルボニル、シクロブチルカルボニル、シクロペンチルカルボニル、シクロヘキシルカルボニル、シクロヘプチルカルボニル、シクロオクチルカルボニルのような飽和環状炭化水素-カルボニル基、メトキシアセチルのような低級アルコキシ低級アルキル基カルボニル基、(E)-2-メチル-2-

ブテノイルのような不飽和アルキルカルボニル基等の「脂肪族アシル基」；ベンゾイル、ナフトイル、ピリドイル、チエノイル、フロイルのようなアリールカルボニル基、2-ブロモベンゾイル、4-クロロベンゾイルのようなハロゲン原子で1又は2以上置換されたアリールカルボニル基、2, 4, 6-トリメチルベンゾイル、4-トルオイルのような低級アルキル基化アリールカルボニル基、4-アニソイルのような低級アルコキシ化アリールカルボニル基、2-カルボキシ基ベンゾイル、3-カルボキシ基ベンゾイル、4-カルボキシ基ベンゾイルのようなカルボキシ基化アリールカルボニル基、4-ニトロベンゾイル、2-ニトロベンゾイルのようなニトロ化アリールカルボニル基、2-(メトキシカルボニル)ベンゾイルのような低級アルコキシカルボニル化アリールカルボニル基、4-フェニルベンゾイルのようなアリール化アリールカルボニル基等の「芳香族アシル基」；フェニルアセチル、 α -ナフチルプロピオニル、 β -ナフチルブチリル、ジフェニルイソブチリル、トリフェニルアセチル、 α -ナフチルジフェニルイソブチリル、9-アンスリルペンタノイルのような1乃至3個のアリール基で置換された低級アルキル基カルボニル基、4-メチルフェニルアセチル、2, 4, 6-トリメチルフェニルホルミル、3, 4, 5-トリメチルフェニルブチリル、4-メトキシフェニルイソブチリル、4-メトキシフェニルジフェニルピバロイル、2-ニトロフェニルアセチル、4-ニトロフェニルプロピオニル、4-クロロフェニルブチリル、4-ブロモフェニルアセチル、4-シアノフェニルペンタノイルのような低級アルキル基、低級アルコキシ基、ニトロ基、ハロゲン原子、シアノ基でアリール環が置換された1乃至3個のアリール基で置換された低級アルキル基カルボニル基等の「アラルキルカルボニル基」；テトラヒドロピラン-2-イル、3-ブロモテトラヒドロピラン-2-イル、4-メトキシテトラヒドロピラン-4-イル、テトラヒドロチオピラン-2-イル、4-メトキシテトラヒドロチオピラン-4-イルのような「テトラヒドロピラニル又はテトラヒドロチオピラニル基」；テトラヒドロフラン-2-イル、テトラヒドロチオフラン-2-イルのような「テトラヒドロフラニル又はテトラヒドロチオフラニル基」；トリメチルシリル、トリエチルシリル、イソプロピルジメチルシリル、*t*-ブチルジメチルシリル、メチルジイソプロピルシリル、メチル *tert*-ブチルシリル

、トリイソプロピルシリルのようなトリ低級アルキル基シリル基、ジフェニルメチルシリル、ジフェニルブチルシリル、ジフェニルイソプロピルシリル、フェニルジイソプロピルシリルのような1乃至2個のアリール基で置換されたトリ低級アルキル基シリル基等の「シリル基」；メトキシメチル、1，1－ジメチル－1－メトキシメチル、エトキシメチル、プロポキシメチル、イソプロポキシメチル、ブトキシメチル、*t*－ブトキシメチルのような低級アルコキシメチル基、2－メトキシエトキシメチルのような低級アルコキシ化低級アルコキシメチル基、2，2，2－トリクロロエトキシメチル、ビス（2－クロロエトキシ）メチルのようなハロゲン原子で1又は2以上置換された低級アルコキシメチル等の「アルコキシメチル基」；1－エトキシエチル1－（イソプロポキシ）エチルのような低級アルコキシ化エチル基、2，2，2－トリクロロエチルのようなハロゲン原子化エチル基等の「置換エチル基」；ベンジル、 α －ナフチルメチル、 β －ナフチルメチル、ジフェニルメチル、トリフェニルメチル、 α －ナフチルジフェニルメチル、9－アンスリルメチルのような1乃至3個のアリール基で置換された低級アルキル基、4－メチルベンジル、2，4，6－トリメチルベンジル、3，4，5－トリメチルベンジル、4－メトキシベンジル、4－メトキシフェニルジフェニルメチル、2－ニトロベンジル、4－ニトロベンジル、4－クロロベンジル、4－ブromoベンジル、4－シアノベンジルのような低級アルキル基、低級アルコキシ基、ニトロ基、ハロゲン原子、シアノ基でアリール環が置換された1乃至3個のアリール基で置換された低級アルキル基等の「アラルキル基」；メトキシカルボニル、エトキシカルボニル、*t*－ブトキシカルボニル、イソブトキシカルボニルのような低級アルコキシカルボニル基、2，2，2－トリクロロエトキシカルボニル、2－トリメチルシリルエトキシカルボニルのようなハロゲン原子又はトリ低級アルキル基シリル基で置換された低級アルコキシカルボニル基等の「アルコキシカルボニル基」；ビニルオキシカルボニルアリルオキシカルボニルのような「アルケニルオキシカルボニル基」、又は、ベンジルオキシカルボニル、4－メトキシベンジルオキシカルボニル、3，4－ジメトキシベンジルオキシカルボニル、2－ニトロベンジルオキシカルボニル、4－ニトロベンジルオキシカルボニルのような、1乃至2個の低級アルコキシ基又はニトロ基でアリール環が置

換されていてもよい「アラルキルオキシカルボニル基」を挙げることができ、

一方、「カルボキシ基のエステル」に斯かる「一般的保護基」としては、好適には、メチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、s-ブチル、t-ブチル、ペンチル、イソペンチル、2-メチルブチル、ネオペンチル、1-エチルプロピル、ヘキシル、イソヘキシル、4-メチルペンチル、3-メチルペンチル、2-メチルペンチル、1-メチルペンチル、3, 3-ジメチルブチル、2, 2-ジメチルブチル、1, 1-ジメチルブチル、1, 2-ジメチルブチル、1, 3-ジメチルブチル、2, 3-ジメチルブチル、2-エチルブチルのような「低級アルキル基」；エテニル、1-プロペニル、2-プロペニル、1-メチル-2-プロペニル、1-メチル-1-プロペニル、2-メチル-1-プロペニル、2-メチル-2-プロペニル、2-エチル-2-プロペニル、1-ブテニル、2-ブテニル、1-メチル-2-ブテニル、1-メチル-1-ブテニル、3-メチル-2-ブテニル、1-エチル-2-ブテニル、3-ブテニル、1-メチル-3-ブテニル、2-メチル-3-ブテニル、1-エチル-3-ブテニル、1-ペンテニル、2-ペンテニル、1-メチル-2-ペンテニル、2-メチル-2-ペンテニル、3-ペンテニル、1-メチル-3-ペンテニル、2-メチル-3-ペンテニル、4-ペンテニル、1-メチル-4-ペンテニル、2-メチル-4-ペンテニル、1-ヘキセニル、2-ヘキセニル、3-ヘキセニル、4-ヘキセニル、5-ヘキセニルのような「アルケニル基」；エチニル、2-プロピニル、1-メチル-2-プロピニル、2-メチル-2-プロピニル、2-エチル-2-プロピニル、2-ブチニル、1-メチル-2-ブチニル、2-メチル-2-ブチニル、1-エチル-2-ブチニル、3-ブチニル、1-メチル-3-ブチニル、2-メチル-3-ブチニル、1-エチル-3-ブチニル、2-ペンチニル、1-メチル-2-ペンチニル、2-メチル-2-ペンチニル、3-ペンチニル、1-メチル-3-ペンチニル、2-メチル-3-ペンチニル、4-ペンチニル、1-メチル-4-ペンチニル、2-メチル-4-ペンチニル、2-ヘキシニル、3-ヘキシニル、4-ヘキシニル、5-ヘキシニルのような「アルキニル基」；トリフルオロメチル、トリクロロメチル、ジフルオロメチル、ジクロロメチル、ジブロモメチル、フルオロメチル、2, 2, 2-トリフルオロエチル、2, 2, 2-

ートリクロロエチル、2-ブロモエチル、2-クロロエチル、2-フルオロエチル、2-ヨードエチル、3-クロロプロピル、4-フルオロブチル、6-ヨードヘキシル、2, 2-ジブロモエチルのような「ハロゲン原子で1又は2以上置換された低級アルキル基」；2-ヒドロキシエチル、2, 3-ジヒドロキシプロピル、3-ヒドロキシプロピル、3, 4-ジヒドロキシブチル、4-ヒドロキシブチルのような「ヒドロキシ低級アルキル基」；アセチルメチルのような「脂肪族アシル」-「低級アルキル基」；ベンジル、フェネチル、3-フェニルプロピル、 α -ナフチルメチル、 β -ナフチルメチル、ジフェニルメチル、トリフェニルメチル、6-フェニルヘキシル、 α -ナフチルジフェニルメチル、9-アンスリルメチルのような1乃至3個のアリール基で置換された「低級アルキル基」、4-メチルベンジル、2, 4, 6-トリメチルベンジル、3, 4, 5-トリメチルベンジル、4-メトキシベンジル、4-メトキシフェニルジフェニルメチル、2-ニトロベンジル、4-ニトロベンジル、4-クロロベンジル、4-ブロモベンジル、4-シアノベンジル、4-シアノベンジルジフェニルメチル、ビス(2-ニトロフェニル)メチル、ピペロニル、4-メトキシカルボニルベンジルのような低級アルキル基、低級アルコキシ基、ニトロ基、ハロゲン原子、シアノ基、アルコキシカルボニル基でアリール環が置換された1乃至3個のアリール基で置換された低級アルキル基等の「アラルキル基」、又は、トリメチルシリル、トリエチルシリル、イソプロピルジメチルシリル、 ι -ブチルジメチルシリル、メチルジイソプロピルシリル、メチル γ -ブチルシリル、トリイソプロピルシリル、メチルジフェニルシリル、イソプロピルジフェニルシリル、ブチルジフェニルシリル、フェニルジイソプロピルシリルのような「シリル基」を挙げることができる。

【0030】

「生体内で化学的又は酵素的な加水分解によって開裂し得る保護基」とは、人体内で加水分解等の生物学的方法により開裂し、フリーの酸又はその塩を生成する保護基をいい、そのような誘導体か否かは、ラットやマウスのような実験動物に静脈注射により投与し、その後の動物の体液を調べ、元となる化合物又はその薬理学的に許容される塩を検出できることにより決定できる。

【0031】

「水酸基のエステル」に斯かる「生体内で化学的又は酵素的な加水分解によって開裂し得る保護基」としては、例えば、ホルミルオキシメチル、アセトキシメチル、ジメチルアミノアセトキシメチル、プロピオニルオキシメチル、ブチリルオキシメチル、ピバロイルオキシメチル、バレリルオキシメチル、イソバレリルオキシメチル、ヘキサノイルオキシメチル、1-ホルミルオキシエチル、1-アセトキシエチル、1-プロピオニルオキシエチル、1-ブチリルオキシエチル、1-ピバロイルオキシエチル、1-バレリルオキシエチル、1-イソバレリルオキシエチル、1-ヘキサノイルオキシエチル、1-ホルミルオキシプロピル、1-アセトキシプロピル、1-プロピオニルオキシプロピル、1-ブチリルオキシプロピル、1-ピバロイルオキシプロピル、1-バレリルオキシプロピル、1-イソバレリルオキシプロピル、1-ヘキサノイルオキシプロピル、1-アセトキシブチル、1-プロピオニルオキシブチル、1-ブチリルオキシブチル、1-ピバロイルオキシブチル、1-アセトキシペンチル、1-プロピオニルオキシペンチル、1-ブチリルオキシペンチル、1-ピバロイルオキシペンチル、1-ピバロイルオキシヘキシルのような1-（「脂肪族アシル」オキシ）「低級アルキル基」；ホルミルチオメチル、アセチルチオメチル、ジメチルアミノアセチルチオメチル、プロピオニルチオメチル、ブチリルチオメチル、ピバロイルチオメチル、バレリルチオメチル、イソバレリルチオメチル、ヘキサノイルチオメチル、1-ホルミルチオエチル、1-アセチルチオエチル、1-プロピオニルチオエチル、1-ブチリルチオエチル、1-ピバロイルチオエチル、1-バレリルチオエチル、1-イソバレリルチオエチル、1-ヘキサノイルチオエチル、1-ホルミルチオプロピル、1-アセチルチオプロピル、1-プロピオニルチオプロピル、1-ブチリルチオプロピル、1-ピバロイルチオプロピル、1-バレリルチオプロピル、1-イソバレリルチオプロピル、1-ヘキサノイルチオプロピル、1-アセチルチオブチル、1-プロピオニルチオブチル、1-ブチリルチオブチル、1-ピバロイルチオブチル、1-アセチルチオペンチル、1-プロピオニルチオペンチル、1-ブチリルチオペンチル、1-ピバロイルチオペンチル、1-ピバロイルチオヘキシルのような1-（「脂肪族アシル」チオ）「低級アルキル基」；

シクロペンチルカルボニルオキシメチル、シクロヘキシルカルボニルオキシメチル、1-シクロペンチルカルボニルオキシエチル、1-シクロヘキシルカルボニルオキシエチル、1-シクロペンチルカルボニルオキシプロピル、1-シクロヘキシルカルボニルオキシプロピル、1-シクロペンチルカルボニルオキシブチル、1-シクロヘキシルカルボニルオキシブチルのような1-（「シクロアルキル」カルボニルオキシ）「低級アルキル基」、ベンゾイルオキシメチルのような1-（「芳香族アシル」オキシ）「低級アルキル基」等の1-（アシルオキシ）「低級アルキル基」；メトキシカルボニルオキシメチル、エトキシカルボニルオキシメチル、プロポキシカルボニルオキシメチル、イソプロポキシカルボニルオキシメチル、ブトキシカルボニルオキシメチル、イソブトキシカルボニルオキシメチル、ペンチルオキシカルボニルオキシメチル、ヘキシルオキシカルボニルオキシメチル、シクロヘキシルオキシカルボニルオキシメチル、シクロヘキシルオキシカルボニルオキシ（シクロヘキシル）メチル、1-（メトキシカルボニルオキシ）エチル、1-（エトキシカルボニルオキシ）エチル、1-（プロポキシカルボニルオキシ）エチル、1-（イソプロポキシカルボニルオキシ）エチル、1-（ブトキシカルボニルオキシ）エチル、1-（イソブトキシカルボニルオキシ）エチル、1-（*t*-ブトキシカルボニルオキシ）エチル、1-（ペンチルオキシカルボニルオキシ）エチル、1-（ヘキシルオキシカルボニルオキシ）エチル、1-（シクロペンチルオキシカルボニルオキシ）エチル、1-（シクロペンチルオキシカルボニルオキシ）プロピル、1-（シクロヘキシルオキシカルボニルオキシ）プロピル、1-（シクロペンチルオキシカルボニルオキシ）ブチル、1-（シクロヘキシルオキシカルボニルオキシ）ブチル、1-（シクロヘキシルオキシカルボニルオキシ）エチル、1-（エトキシカルボニルオキシ）プロピル、2-（メトキシカルボニルオキシ）エチル、2-（エトキシカルボニルオキシ）エチル、2-（プロポキシカルボニルオキシ）エチル、2-（イソプロポキシカルボニルオキシ）エチル、2-（ブトキシカルボニルオキシ）エチル、2-（イソブトキシカルボニルオキシ）エチル、2-（ペンチルオキシカルボニルオキシ）エチル、2-（ヘキシルオキシカルボニルオキシ）エチル、1-（メトキシカルボニルオキシ）プロピル、1-（エトキシカルボニルオキシ）プロピル、1-（

プロポキシカルボニルオキシ) プロピル、1- (イソプロポキシカルボニルオキシ) プロピル、1- (ブトキシカルボニルオキシ) プロピル、1- (イソブトキシカルボニルオキシ) プロピル、1- (ペンチルオキシカルボニルオキシ) プロピル、1- (ヘキシルオキシカルボニルオキシ) プロピル、1- (メトキシカルボニルオキシ) ブチル、1- (エトキシカルボニルオキシ) ブチル、1- (プロポキシカルボニルオキシ) ブチル、1- (イソプロポキシカルボニルオキシ) ブチル、1- (ブトキシカルボニルオキシ) ブチル、1- (イソブトキシカルボニルオキシ) ブチル、1- (メトキシカルボニルオキシ) ペンチル、1- (エトキシカルボニルオキシ) ペンチル、1- (メトキシカルボニルオキシ) ヘキシル、1- (エトキシカルボニルオキシ) ヘキシルのような (アルコキシカルボニルオキシ) アルキル基 ; フタリジル、ジメチルフタリジル、ジメトキシフタリジルのような「フタリジル基」 ; (5-フェニル-2-オキソ-1, 3-ジオキサレン-4-イル) メチル、[5-(4-メチルフエニル)-2-オキソ-1, 3-ジオキサレン-4-イル] メチル、[5-(4-メトキシフェニル)-2-オキソ-1, 3-ジオキサレン-4-イル] メチル、[5-(4-フルオロフェニル)-2-オキソ-1, 3-ジオキサレン-4-イル] メチル、[5-(4-クロロフェニル)-2-オキソ-1, 3-ジオキサレン-4-イル] メチル、(2-オキソ-1, 3-ジオキサレン-4-イル) メチル、(5-メチル-2-オキソ-1, 3-ジオキサレン-4-イル) メチル、(5-エチル-2-オキソ-1, 3-ジオキサレン-4-イル) メチル、(5-プロピル-2-オキソ-1, 3-ジオキサレン-4-イル) メチル、(5-イソプロピル-2-オキソ-1, 3-ジオキサレン-4-イル) メチル、(5-ブチル-2-オキソ-1, 3-ジオキサレン-4-イル) メチルのようなオキソジオキサレニルメチル基等の「カルボニルオキシアルキル基」 ; 前記「脂肪族アシル基」 ; 前記「芳香族アシル基」 ; 「コハク酸のハーフエステル塩残基」 ; 「燐酸エステル塩残基」 ; 「アミノ酸等のエステル形成残基」 ; カルバモイル基 ; 1乃至2個の低級アルキル基で置換されたカルバモイル基 ; 2-カルボキシエチルジチオエチル、3-カルボキシプロピルジチオエチル、4-カルボキシブチルジチオエチル、5-カルボキシペンチルジチオエチル、6-カルボキシヘキシルジチオエチルのようなカルボキシ「低級

アルキル」ジチオエチル基、又は、メチルジチオエチル、エチルジチオエチル、プロピルジチオエチル、ブチルジチオエチル、ペンチルジチオエチル、ヘキシルジチオエチルのような「低級アルキル基」ジチオエチル基を挙げることができ、

一方、「カルボキシ基のエステル」に斯かる「生体内で化学的又は酵素的な加水分解によって開裂し得る保護基」としては、具体的には、メトキシメチル、1-エトキシエチル、1-メチル-1-メトキシエチル、1-(イソプロポキシ)エチル、2-メトキシエチル、2-エトキシエチル、1,1-ジメチル-1-メトキシメチル、エトキシメチル、プロポキシメチル、イソプロポキシメチル、ブトキシメチル、t-ブトキシメチルのような低級アルコキシ低級アルキル基、2-メトキシエトキシメチルのような低級アルコキシ化低級アルコキシ低級アルキル基、フェノキシメチルのような「アリール基」オキシ「低級アルキル基」、2,2,2-トリクロロエトキシメチル、ビス(2-クロロエトキシ)メチルのようなハロゲン原子化低級アルコキシ低級アルキル基等の「アルコキシ低級アルキル基」；メトキシカルボニルメチルのような「低級アルコキシ」カルボニル「低級アルキル基」；シアノメチル、2-シアノエチルのようなシアノ「低級アルキル基」；メチルチオメチル、エチルチオメチルのような「低級アルキル基」チオメチル基；；フェニルチオメチル、ナフチルチオメチルのような「アリール基」チオメチル基；2-メタンスルホニルエチル、2-トリフルオロメタンスルホニルエチルのようなハロゲン原子で置換されてもよい「低級アルキル基」スルホニル「低級アルキル基」；2-ベンゼンスルホニルエチル、2-トルエンスルホニルエチルのような「アリール基」スルホニル「低級アルキル基」；ホルミルオキシメチル、アセトキシメチル、プロピオニルオキシメチル、ブチリルオキシメチル、ピバロイルオキシメチル、バレリルオキシメチル、イソバレリルオキシメチル、ヘキサノイルオキシメチル、1-ホルミルオキシエチル、1-アセトキシエチル、1-プロピオニルオキシエチル、1-ブチリルオキシエチル、1-ピバロイルオキシエチル、1-バレリルオキシエチル、1-イソバレリルオキシエチル、1-ヘキサノイルオキシエチル、2-ホルミルオキシエチル、2-アセトキシエチル、2-プロピオニルオキシエチル、2-ブチリルオキシエチル、2-ピバロイルオキシエチル、2-バレリルオキシエチル、2-イソバレリルオキシエチル

ル、2-ヘキサノイルオキシエチル、1-ホルミルオキシプロピル、1-アセト
 キシプロピル、1-プロピオニルオキシプロピル、1-ブチリルオキシプロピル
 、1-ピバロイルオキシプロピル、1-バレリルオキシプロピル、1-イソバレ
 リルオキシプロピル、1-ヘキサノイルオキシプロピル、1-アセトキシブチル
 、1-プロピオニルオキシブチル、1-ブチリルオキシブチル、1-ピバロイル
 オキシブチル、1-アセトキシペンチル、1-プロピオニルオキシペンチル、1
 -ブチリルオキシペンチル、1-ピバロイルオキシペンチル、1-ピバロイルオ
 キシヘキシルのような「脂肪族アシル」オキシ「低級アルキル基」、シクロペン
 チルカルボニルオキシメチル、シクロヘキシルカルボニルオキシメチル、1-シ
 クロペンチルカルボニルオキシエチル、1-シクロヘキシルカルボニルオキシエ
 チル、1-シクロペンチルカルボニルオキシプロピル、1-シクロヘキシルカル
 ボニルオキシプロピル、1-シクロペンチルカルボニルオキシブチル、1-シク
 ロヘキシルカルボニルオキシブチルのような「シクロアルキル」カルボニルオキ
 シ「低級アルキル基」、ベンゾイルオキシメチルのような「芳香族アシル」オキ
 シ「低級アルキル基」等のアシルオキシ「低級アルキル基」；メトキシカルボニ
 ルオキシメチル、エトキシカルボニルオキシメチル、プロポキシカルボニルオキ
 シメチル、イソプロポキシカルボニルオキシメチル、ブトキシカルボニルオキシ
 メチル、イソブトキシカルボニルオキシメチル、ペンチルオキシカルボニルオキ
 シメチル、ヘキシルオキシカルボニルオキシメチル、シクロヘキシルオキシカル
 ボニルオキシメチル、シクロヘキシルオキシカルボニルオキシ（シクロヘキシル
 ）メチル、1-（メトキシカルボニルオキシ）エチル、1-（エトキシカルボニ
 ルオキシ）エチル、1-（プロポキシカルボニルオキシ）エチル、1-（イソプ
 ロポキシカルボニルオキシ）エチル、1-（ブトキシカルボニルオキシ）エチル
 、1-（イソブトキシカルボニルオキシ）エチル、1-（*t*-ブトキシカルボニ
 ルオキシ）エチル、1-（ペンチルオキシカルボニルオキシ）エチル、1-（ヘ
 キシルオキシカルボニルオキシ）エチル、1-（シクロペンチルオキシカルボニ
 ルオキシ）エチル、1-（シクロペンチルオキシカルボニルオキシ）プロピル、
 1-（シクロヘキシルオキシカルボニルオキシ）プロピル、1-（シクロペンチ
 ルオキシカルボニルオキシ）ブチル、1-（シクロヘキシルオキシカルボニルオ

キシ) ブチル、1-(シクロヘキシルオキシカルボニルオキシ) エチル、1-(エトキシカルボニルオキシ) プロピル、2-(メトキシカルボニルオキシ) エチル、2-(エトキシカルボニルオキシ) エチル、2-(プロポキシカルボニルオキシ) エチル、2-(イソプロポキシカルボニルオキシ) エチル、2-(ブトキシカルボニルオキシ) エチル、2-(イソブトキシカルボニルオキシ) エチル、2-(ペンチルオキシカルボニルオキシ) エチル、2-(ヘキシルオキシカルボニルオキシ) エチル、1-(メトキシカルボニルオキシ) プロピル、1-(エトキシカルボニルオキシ) プロピル、1-(プロポキシカルボニルオキシ) プロピル、1-(イソプロポキシカルボニルオキシ) プロピル、1-(ブトキシカルボニルオキシ) プロピル、1-(イソブトキシカルボニルオキシ) プロピル、1-(ペンチルオキシカルボニルオキシ) プロピル、1-(ヘキシルオキシカルボニルオキシ) プロピル、1-(メトキシカルボニルオキシ) ブチル、1-(エトキシカルボニルオキシ) ブチル、1-(プロポキシカルボニルオキシ) ブチル、1-(イソプロポキシカルボニルオキシ) ブチル、1-(ブトキシカルボニルオキシ) ブチル、1-(イソブトキシカルボニルオキシ) ブチル、1-(メトキシカルボニルオキシ) ペンチル、1-(エトキシカルボニルオキシ) ペンチル、1-(メトキシカルボニルオキシ) ヘキシル、1-(エトキシカルボニルオキシ) ヘキシルのような(アルコキシカルボニルオキシ) アルキル基；(5-フェニル-2-オキソ-1, 3-ジオキサレン-4-イル) メチル、[5-(4-メチルフェニル)-2-オキソ-1, 3-ジオキサレン-4-イル] メチル、[5-(4-メトキシフェニル)-2-オキソ-1, 3-ジオキサレン-4-イル] メチル、[5-(4-フルオロフェニル)-2-オキソ-1, 3-ジオキサレン-4-イル] メチル、[5-(4-クロロフェニル)-2-オキソ-1, 3-ジオキサレン-4-イル] メチル、(2-オキソ-1, 3-ジオキサレン-4-イル) メチル、(5-メチル-2-オキソ-1, 3-ジオキサレン-4-イル) メチル、(5-エチル-2-オキソ-1, 3-ジオキサレン-4-イル) メチル、(5-プロピル-2-オキソ-1, 3-ジオキサレン-4-イル) メチル、(5-イソプロピル-2-オキソ-1, 3-ジオキサレン-4-イル) メチル、(5-ブチル-2-オキソ-1, 3-ジオキサレン-4-イル) メチルのようなオキシジオ

キソレニルメチル基等の「カルボニルオキシアルキル基」；フタリジル、ジメチルフタリジル、ジメトキシフタリジルのような「フタリジル基」；フェニル、インダニルのような「アリール基」；前記の「低級アルキル基」、又は、メチルチオ、エチルチオ、プロピルチオ、イソプロピルチオ、ブチルチオ、イソブチルチオ、s-ブチルチオ、t-ブチルチオ、ペンチルチオ、イソペンチルチオ、2-メチルブチルチオ、ネオペンチルチオ、1-エチルプロピルチオ、ヘキシルチオ、イソヘキシルチオ、4-メチルペンチルチオ、3-メチルペンチルチオ、2-メチルペンチルチオ、1-メチルペンチルチオ、3, 3-ジメチルブチルチオ、2, 2-ジメチルブチルチオ、1, 1-ジメチルブチルチオ、1, 2-ジメチルブチルチオ、1, 3-ジメチルブチルチオ、2, 3-ジメチルブチルチオ、2-エチルブチルチオのような炭素数1乃至6個の直鎖又は分枝鎖アルキルチオ基を示し、好適には炭素数1乃至4個の「アルキルチオ基」；カルボキシ基メチルのような「カルボキシ基アルキル基」、又は、フェニルアラニンのような「アミノ酸のアミド形成残基」である。

【0032】

本発明の化合物(I)は、分子中の不斉炭素原子に基づく光学異性体(ジアステレオマーを含む)が存在し、又、環構造に基づく幾何異性体が存在する場合があるが、これらの各異性体も本発明に含まれる。

【0033】

「その薬理学上許容される塩」とは、本発明の化合物(I)は、塩にすることができるので、その塩をいい、そのような塩としては、好適にはナトリウム塩、カリウム塩、リチウム塩のようなアルカリ金属塩、カルシウム塩、マグネシウム塩のようなアルカリ土類金属塩、アルミニウム塩、鉄塩、亜鉛塩、銅塩、ニッケル塩、コバルト塩等の金属塩；アンモニウム塩のような無機塩、t-オクチルアミン塩、ジベンジルアミン塩、モルホリン塩、グルコサミン塩、フェニルグリシンアルキルエステル塩、エチレンジアミン塩、N-メチルグルカミン塩、グアニジン塩、ジエチルアミン塩、トリエチルアミン塩、ジシクロヘキシルアミン塩、N, N'-ジベンジリエチレンジアミン塩、クロロプロカイン塩、プロカイン塩、ジエタノールアミン塩、N-ベンジル-フェネチルアミン塩、ピペラジン塩、

テトラメチルアンモニウム塩、トリス（ヒドロキシメチル）アミノメタン塩のような有機塩等のアミン塩；弗化水素酸塩、塩酸塩、臭化水素酸塩、沃化水素酸塩のようなハロゲン原子化水素酸塩、硝酸塩、過塩素酸塩、硫酸塩、リン酸塩等の無機酸塩；メタンスルホン酸塩、トリフルオロメタンスルホン酸塩、エタンスルホン酸塩のような低級アルカンスルホン酸塩、ベンゼンスルホン酸塩、p-トルエンスルホン酸塩のようなアリールスルホン酸塩、酢酸塩、りんご酸塩、フマル酸塩、コハク酸塩、クエン酸塩、酒石酸塩、蔞酸塩、マレイン酸塩等の有機酸塩；及び、グリシン塩、リジン塩、アルギニン塩、オルニチン塩、グルタミン酸塩、アスパラギン酸塩のようなアミノ酸塩を挙げることができ、更に好適には、無機酸塩である。

【0034】

なお、本発明の化合物（I）は、水和物としても存在することができる。

【0035】

一般式（I）における好適な化合物として、以下の表1乃至表3に示す化合物を具体的に例示する。但し、本発明の化合物は、これらに限定されるものではない。

下記表1乃至表3における、略号の意味は以下のとおりである。即ち、

Acはアセチル基を表し、

tBuはt-ブチル基を表し、

Carはカルバモイル基を表し、

diMeCarはN,N-ジメチルカルバモイル基を表し、

diMeTcrはN,N-ジメチルチオカルバモイル基を表し、

diEtCarはN,N-ジエチルカルバモイル基を表し、

diPrCarはN,N-ジイソプロピルカルバモイル基を表し、

MeEtCarはN-メチル-N-エチルカルバモイル基を表し、

Etはエチル基を表し、

Meはメチル基を表し、

diMeNはジメチルアミノ基を表し、

MeEtNはメチルエチルアミノ基を表し、

MeOCOはメトキシカルボニル基を表し、

Morはモルホリノ基を表し、

Mtdoはメチレンジオキシ基を表し、

Phはフェニル基を表し、

Prはプロピル基を表し、

iPrはイソプロピル基を表し、

Py-2-ylはピリジン-2-イル基を表し、

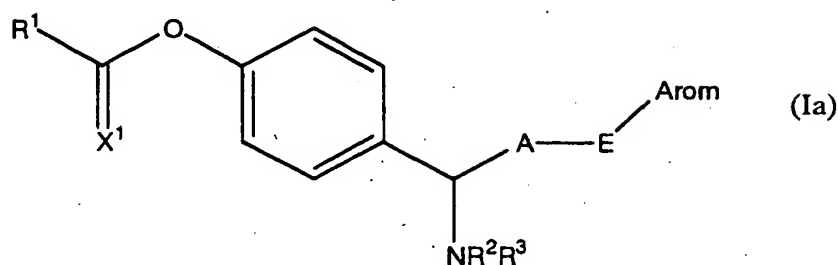
Py-3-ylはピリジン-3-イル基を表し、

Py-4-ylはピリジン-4-イル基を表し、

Thi-3-ylはチオフェン-3-イル基を表す。

【0036】

【化3】



【0037】

【表1】

化合物 番号	$R^1-(C=X^1)$	R^2R^3N	A	E	Arom
1-1	diMeCar	MeNH	$(CH_2)_2$	-	4-F-Ph
1-2	EtCar	MeNH	$(CH_2)_2$	-	4-F-Ph
1-3	EtCar	MeNH	$(CH_2)_2$	-	4-MeO-Ph
1-4	Ac	MeNH	$(CH_2)_2$	-	4-F-Ph
1-5	tBu-(C=O)	MeNH	$(CH_2)_2$	-	4-F-Ph
1-6	diEtCar	MeNH	$(CH_2)_2$	-	4-F-Ph

1-7	diEtCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-Cl-Ph
1-8	diEtCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-Cl-Ph
1-9	diPrCar	MeNH	(CH ₂) ₂	-	4-F-Ph
1-10	MeEtCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-Cl-Ph
1-11	Mor-(C=O)	MeNH	(CH ₂) ₂	-	4-F-Ph
1-12	diMeTcr	MeNH	(CH ₂) ₂	-	4-F-Ph
1-13	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	-	4-Cl-Ph
1-14	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	-	4-CF ₃ -Ph
1-15	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	-	4-MeO-Ph
1-16	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	-	4-MeO-Ph
1-17	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	-	3-MeO-4-MeO-Ph
1-18	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	-	3,4-Mtdo-Ph
1-19	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	-	4-NO ₂ -Ph
1-20	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	-	3-F-4-F-Ph
1-21	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	-	4-F-Ph
1-22	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	-	4-Cl-Ph
1-23	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	-	4-NO ₂ -Ph
1-24	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	-	3-F-4-F-Ph
1-25	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₃	-	4-F-Ph
1-26	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₃	-	4-Cl-Ph
1-27	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₃	-	4-NO ₂ -Ph
1-28	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₃	-	3-F-4-F-Ph
1-29	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₃	-	4-F-Ph
1-30	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₃	-	4-Cl-Ph
1-31	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₃	-	4-NO ₂ -Ph
1-32	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₃	-	3-F-4-F-Ph
1-33	diMeCar	MeNH	CH ₂	0	4-F-Ph
1-34	diMeCar	MeNH	CH ₂	0	4-Cl-Ph
1-35	diMeCar	MeNH	CH ₂	0	4-NO ₂ -Ph

1-36	diMeCar	MeNH	CH ₂	0	3-F-4-F-Ph
1-37	diMeCar	diMeN	CH ₂	0	4-F-Ph
1-38	diMeCar	diMeN	CH ₂	0	4-Cl-Ph
1-39	diMeCar	diMeN	CH ₂	0	4-NO ₂ -Ph
1-40	diMeCar	diMeN	CH ₂	0	3-F-4-F-Ph
1-41	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	S	4-F-Ph
1-42	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	S	4-Cl-Ph
1-43	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	S	4-NO ₂ -Ph
1-44	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	S	3-F-4-F-Ph
1-45	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	S	4-F-Ph
1-46	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	S	4-Cl-Ph
1-47	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	S	4-NO ₂ -Ph
1-48	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	S	3-F-4-F-Ph
1-49	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	NH	4-F-Ph
1-50	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	NH	4-Cl-Ph
1-51	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	NH	3-F-Ph
1-52	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	NH	3-Cl-Ph
1-53	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	NH	4-NO ₂ -Ph
1-54	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	NH	3-F-4-F-Ph
1-55	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	NH	4-F-Ph
1-56	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	NH	4-Cl-Ph
1-57	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	NH	4-NO ₂ -Ph
1-58	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	NH	3-F-4-F-Ph
1-59	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	NAc	4-Cl-Ph
1-60	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	NAc	3-F-Ph
1-61	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	NAc	4-NO ₂ -Ph
1-62	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	NAc	4-Cl-Ph
1-63	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	NAc	3-F-Ph
1-64	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	NAc	4-NO ₂ -Ph

1-65	diMeCar	NH ₂	(CH ₂) ₂	0	4-F-Ph
1-66	diMeCar	NH ₂	(CH ₂) ₂	0	4-NO ₂ -Ph
1-67	diMeCar	EtNH	(CH ₂) ₂	0	4-F-Ph
1-68	diMeCar	EtNH	(CH ₂) ₂	0	3-F-Ph
1-69	diMeCar	EtNH	(CH ₂) ₂	0	4-Cl-Ph
1-70	diMeCar	EtNH	(CH ₂) ₂	0	3-NO ₂ -Ph
1-71	diMeCar	EtNH	(CH ₂) ₂	0	4-NO ₂ -Ph
1-72	diMeCar	EtNH	(CH ₂) ₂	0	3-F-4-F-Ph
1-73	diMeCar	PrNH	(CH ₂) ₂	0	4-F-Ph
1-74	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	Ph
1-75	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-F-Ph
1-76	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-F-Ph
1-77	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-F-Ph
1-78	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-Cl-Ph
1-79	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-Cl-Ph
1-80	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-Cl-Ph
1-81	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-Br-Ph
1-82	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-Me-Ph
1-83	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-Me-Ph
1-84	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-Me-Ph
1-85	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-CF ₃ -Ph
1-86	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-MeO-Ph
1-87	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-MeO-Ph
1-88	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-MeO-Ph
1-89	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-Ac-Ph
1-90	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-Ac-Ph
1-91	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-CN-Ph
1-92	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-NO ₂ -Ph
1-93	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-NO ₂ -Ph

1-94	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-NO ₂ -Ph
1-95	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-NH ₂ -Ph
1-96	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-NH ₂ -Ph
1-97	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-AcNH-Ph
1-98	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-AcNH-Ph
1-99	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-COOH-Ph
1-100	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3,4-Mtdo-Ph
1-101	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-F-4-F-Ph
1-102	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-F-4-F-Ph
1-103	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-F-5-F-Ph
1-104	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-F-4-Cl-Ph
1-105	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-F-4-NO ₂ -Ph
1-106	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-Cl-4-F-Ph
1-107	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-Cl-4-Cl-Ph
1-108	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-Cl-4-NO ₂ -Ph
1-109	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-Cl-4-F-Ph
1-110	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-Cl-4-Cl-Ph
1-111	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-Me-4-F-Ph
1-112	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-Me-4-Cl-Ph
1-113	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-Me-4-Cl-Ph
1-114	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-Me-4-Me-Ph
1-115	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-Me-4-NO ₂ -Ph
1-116	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-NO ₂ -4-Cl-Ph
1-117	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-F-4-F-5-F-Ph
1-118	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-F-3-F-5-F-Ph
1-119	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	Py-3-yl
1-120	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	5-Cl-Py-3-yl
1-121	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-Me-Py-3-yl
1-122	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	6-Me-Py-3-yl

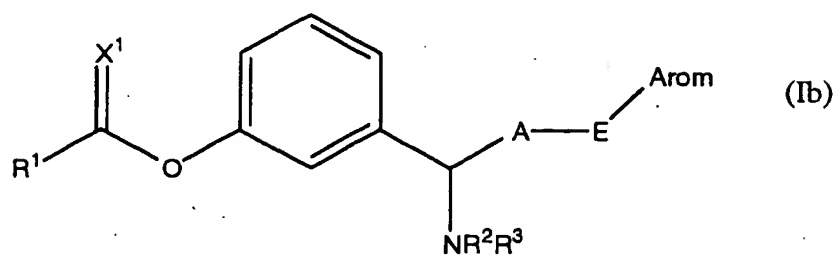
1-123	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	Py-2-yl
1-124	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	6-Cl-Py-2-yl
1-125	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	6-CF ₃ -Py-2-yl
1-126	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	6-NO ₂ -Py-2-yl
1-127	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	Py-4-yl
1-128	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-NO ₂ -Py-4-yl
1-129	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	Thi-3-yl
1-130	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-MeOCO-Thi-3-yl
1-131	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	Ph
1-132	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-F-Ph
1-133	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-F-Ph
1-134	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-F-Ph
1-135	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-Cl-Ph
1-136	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Cl-Ph
1-137	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Cl-Ph
1-138	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-Br-Ph
1-139	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-Me-Ph
1-140	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Me-Ph
1-141	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Me-Ph
1-142	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-CF ₃ -Ph
1-143	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-MeO-Ph
1-144	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-MeO-Ph
1-145	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-MeO-Ph
1-146	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-Ac-Ph
1-147	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Ac-Ph
1-148	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-CN-Ph
1-149	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-NO ₂ -Ph
1-150	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-NO ₂ -Ph
1-151	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-NO ₂ -Ph

1-152	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-NH ₂ -Ph
1-153	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-NH ₂ -Ph
1-154	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-AcNH-Ph
1-155	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-AcNH-Ph
1-156	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-COOH-Ph
1-157	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3,4-Mtdo-Ph
1-158	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-F-4-F-Ph
1-159	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-F-4-F-Ph
1-160	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-F-5-F-Ph
1-161	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-F-4-Cl-Ph
1-162	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-F-4-NO ₂ -Ph
1-163	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Cl-4-F-Ph
1-164	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Cl-4-Cl-Ph
1-165	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Cl-4-NO ₂ -Ph
1-166	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Cl-4-F-Ph
1-167	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Cl-4-Cl-Ph
1-168	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Me-4-F-Ph
1-169	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Me-4-Cl-Ph
1-170	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Me-4-Cl-Ph
1-171	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Me-4-Me-Ph
1-172	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Me-4-NO ₂ -Ph
1-173	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-NO ₂ -4-Cl-Ph
1-174	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-F-4-F-5-F-Ph
1-175	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-F-3-F-5-F-Ph
1-176	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	Py-3-yl
1-177	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	5-Cl-Py-3-yl
1-178	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Me-Py-3-yl
1-179	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	6-Me-Py-3-yl
1-180	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	Py-2-yl

1-181	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	6-Cl-Py-2-yl
1-182	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	6-CF ₃ -Py-2-yl
1-183	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	6-NO ₂ -Py-2-yl
1-184	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	Py-4-yl
1-185	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-NO ₂ -Py-4-yl
1-186	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	Thi-3-yl
1-187	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-MeOCO-Thi-3-yl
1-188	diMeCar	MeEtN	(CH ₂) ₂	0	4-F-Ph
1-189	diMeCar	MeEtN	(CH ₂) ₂	0	4-NO ₂ -Ph
1-190	diMeCar	MeEtN	(CH ₂) ₂	0	4-Cl-Ph
1-191	diMeCar	MeEtN	(CH ₂) ₂	0	3-F-4-F-Ph
1-192	diMeCar	MeHN	(CH ₂) ₃	0	4-F-Ph
1-193	diMeCar	MeHN	(CH ₂) ₃	0	4-Cl-Ph
1-194	diMeCar	MeHN	(CH ₂) ₃	0	4-NO ₂ -Ph
1-195	diMeCar	MeHN	(CH ₂) ₂	0	2-F-4-NO ₂ -Ph
1-196	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-F-4-NO ₂ -Ph

【 0 0 3 8 】

【化 4】



【 0 0 3 9 】

【表 2.】

化合物 番号	R ¹ -(C=X ¹)	R ² R ³ N	A	E	Arom
-----------	-------------------------------------	---------------------------------	---	---	------

2-1	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	-	4-F-Ph
2-2	EtCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-F-Ph
2-3	EtCar	MeNH	(CH ₂) ₂	-	4-MeO-Ph
2-4	Ac	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-F-Ph
2-5	tBu-(C=O)	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-F-Ph
2-6	diEtCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-F-Ph
2-7	diEtCar	MeNH	(CH ₂) ₂	-	4-Cl-Ph
2-8	diEtCar	MeNH	(CH ₂) ₂	-	3-Cl-Ph
2-9	diPrCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-F-Ph
2-10	MeEtCar	MeNH	(CH ₂) ₂	-	4-Cl-Ph
2-11	Mor-(C=O)	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-F-Ph
2-12	diMeTcr	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-F-Ph
2-13	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	-	4-Cl-Ph
2-14	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	-	4-CF ₃ -Ph
2-15	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	-	4-MeO-Ph
2-16	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	-	4-MeO-Ph
2-17	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	-	3-MeO-4-MeO-Ph
2-18	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	-	3,4-Mtdo-Ph
2-19	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	-	4-NO ₂ -Ph
2-20	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	-	3-F-4-F-Ph
2-21	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	-	4-F-Ph
2-22	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	-	4-Cl-Ph
2-23	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	-	4-NO ₂ -Ph
2-24	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	-	3-F-4-F-Ph
2-25	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₃	-	4-F-Ph
2-26	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₃	-	4-Cl-Ph
2-27	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₃	-	4-NO ₂ -Ph
2-28	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₃	-	3-F-4-F-Ph

2-29	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₃	-	4-F-Ph
2-30	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₃	-	4-Cl-Ph
2-31	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₃	-	4-NO ₂ -Ph
2-32	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₃	-	3-F-4-F-Ph
2-33	diMeCar	MeNH	CH ₂	0	4-F-Ph
2-34	diMeCar	MeNH	CH ₂	0	4-Cl-Ph
2-35	diMeCar	MeNH	CH ₂	0	4-NO ₂ -Ph
2-36	diMeCar	MeNH	CH ₂	0	3-F-4-F-Ph
2-37	diMeCar	diMeN	CH ₂	0	4-F-Ph
2-38	diMeCar	diMeN	CH ₂	0	4-Cl-Ph
2-39	diMeCar	diMeN	CH ₂	0	4-NO ₂ -Ph
2-40	diMeCar	diMeN	CH ₂	0	3-F-4-F-Ph
2-41	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	S	4-F-Ph
2-42	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	S	4-Cl-Ph
2-43	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	S	4-NO ₂ -Ph
2-44	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	S	3-F-4-F-Ph
2-45	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	S	4-F-Ph
2-46	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	S	4-Cl-Ph
2-47	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	S	4-NO ₂ -Ph
2-48	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	S	3-F-4-F-Ph
2-49	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	NH	4-F-Ph
2-50	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	NH	4-Cl-Ph
2-51	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	NH	3-F-Ph
2-52	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	NH	3-Cl-Ph
2-53	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	NH	4-NO ₂ -Ph
2-54	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	NH	3-F-4-F-Ph
2-55	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	NH	4-F-Ph
2-56	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	NH	4-Cl-Ph
2-57	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	NH	4-NO ₂ -Ph

2-58	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	NH	3-F-4-F-Ph
2-59	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	NAc	4-Cl-Ph
2-60	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	NAc	3-F-Ph
2-61	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	NAc	4-NO ₂ -Ph
2-62	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	NAc	4-Cl-Ph
2-63	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	NAc	3-F-Ph
2-64	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	NAc	4-NO ₂ -Ph
2-65	diMeCar	NH ₂	(CH ₂) ₂	O	4-F-Ph
2-66	diMeCar	NH ₂	(CH ₂) ₂	O	4-NO ₂ -Ph
2-67	diMeCar	EtNH	(CH ₂) ₂	O	4-F-Ph
2-68	diMeCar	EtNH	(CH ₂) ₂	O	3-F-Ph
2-69	diMeCar	EtNH	(CH ₂) ₂	O	4-Cl-Ph
2-70	diMeCar	EtNH	(CH ₂) ₂	O	3-NO ₂ -Ph
2-71	diMeCar	EtNH	(CH ₂) ₂	O	4-NO ₂ -Ph
2-72	diMeCar	EtNH	(CH ₂) ₂	O	3-F-4-F-Ph
2-73	diMeCar	PrNH	(CH ₂) ₂	O	4-F-Ph
2-74	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	O	Ph
2-75	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	O	4-F-Ph
2-76	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	O	3-F-Ph
2-77	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	O	2-F-Ph
2-78	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	O	4-Cl-Ph
2-79	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	O	3-Cl-Ph
2-80	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	O	2-Cl-Ph
2-81	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	O	4-Br-Ph
2-82	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	O	4-Me-Ph
2-83	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	O	3-Me-Ph
2-84	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	O	2-Me-Ph
2-85	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	O	4-CF ₃ -Ph
2-86	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	O	4-MeO-Ph

2-87	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-MeO-Ph
2-88	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-MeO-Ph
2-89	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-Ac-Ph
2-90	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-Ac-Ph
2-91	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-CN-Ph
2-92	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-NO ₂ -Ph
2-93	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-NO ₂ -Ph
2-94	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-NO ₂ -Ph
2-95	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-NH ₂ -Ph
2-96	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-NH ₂ -Ph
2-97	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-AcNH-Ph
2-98	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-AcNH-Ph
2-99	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-COOH-Ph
2-100	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3,4-Mtdo-Ph
2-101	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-F-4-F-Ph
2-102	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-F-4-F-Ph
2-103	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-F-5-F-Ph
2-104	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-F-4-Cl-Ph
2-105	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-F-4-NO ₂ -Ph
2-106	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-Cl-4-F-Ph
2-107	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-Cl-4-Cl-Ph
2-108	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-Cl-4-NO ₂ -Ph
2-109	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-Cl-4-F-Ph
2-110	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-Cl-4-Cl-Ph
2-111	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-Me-4-F-Ph
2-112	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-Me-4-Cl-Ph
2-113	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-Me-4-Cl-Ph
2-114	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-Me-4-Me-Ph
2-115	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-Me-4-NO ₂ -Ph

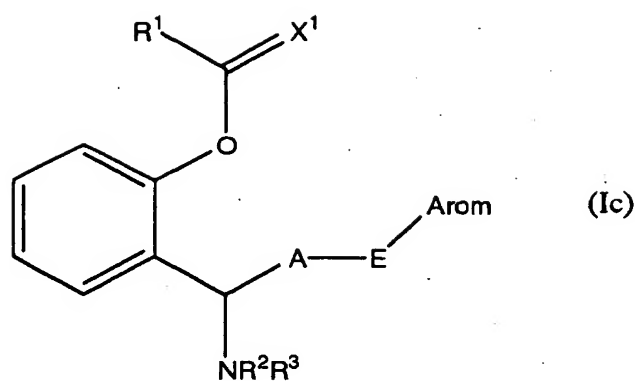
2-116	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-NO ₂ -4-Cl-Ph
2-117	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-F-4-F-5-F-Ph
2-118	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-F-3-F-5-F-Ph
2-119	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	Py-3-yl
2-120	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	5-Cl-Py-3-yl
2-121	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-Me-Py-3-yl
2-122	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	6-Me-Py-3-yl
2-123	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	Py-2-yl
2-124	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	6-Cl-Py-2-yl
2-125	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	6-CF ₃ -Py-2-yl
2-126	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	6-NO ₂ -Py-2-yl
2-127	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	Py-4-yl
2-128	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-NO ₂ -Py-4-yl
2-129	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	Thi-3-yl
2-130	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-MeOCO-Thi-3-yl
2-131	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	Ph
2-132	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-F-Ph
2-133	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-F-Ph
2-134	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-F-Ph
2-135	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-Cl-Ph
2-136	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Cl-Ph
2-137	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Cl-Ph
2-138	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-Br-Ph
2-139	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-Me-Ph
2-140	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Me-Ph
2-141	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Me-Ph
2-142	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-CF ₃ -Ph
2-143	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-MeO-Ph
2-144	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-MeO-Ph

2-145	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-MeO-Ph
2-146	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-Ac-Ph
2-147	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Ac-Ph
2-148	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-CN-Ph
2-149	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-NO ₂ -Ph
2-150	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-NO ₂ -Ph
2-151	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-NO ₂ -Ph
2-152	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-NH ₂ -Ph
2-153	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-NH ₂ -Ph
2-154	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-AcNH-Ph
2-155	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-AcNH-Ph
2-156	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-COOH-Ph
2-157	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3,4-Mtdo-Ph
2-158	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-F-4-F-Ph
2-159	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-F-4-F-Ph
2-160	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-F-5-F-Ph
2-161	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-F-4-Cl-Ph
2-162	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-F-4-NO ₂ -Ph
2-163	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Cl-4-F-Ph
2-164	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Cl-4-Cl-Ph
2-165	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Cl-4-NO ₂ -Ph
2-166	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Cl-4-F-Ph
2-167	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Cl-4-Cl-Ph
2-168	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Me-4-F-Ph
2-169	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Me-4-Cl-Ph
2-170	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Me-4-Cl-Ph
2-171	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Me-4-Me-Ph
2-172	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Me-4-NO ₂ -Ph
2-173	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-NO ₂ -4-Cl-Ph

2-174	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-F-4-F-5-F-Ph
2-175	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-F-3-F-5-F-Ph
2-176	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	Py-3-yl
2-177	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	5-Cl-Py-3-yl
2-178	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Me-Py-3-yl
2-179	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	6-Me-Py-3-yl
2-180	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	Py-2-yl
2-181	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	6-Cl-Py-2-yl
2-182	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	6-CF ₃ -Py-2-yl
2-183	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	6-NO ₂ -Py-2-yl
2-184	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	Py-4-yl
2-185	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-NO ₂ -Py-4-yl
2-186	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	Thi-3-yl
2-187	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-MeOCO-Thi-3-yl
2-188	diMeCar	MeEtN	(CH ₂) ₂	0	4-F-Ph
2-189	diMeCar	MeEtN	(CH ₂) ₂	0	4-NO ₂ -Ph
2-190	diMeCar	MeEtN	(CH ₂) ₂	0	4-Cl-Ph
2-191	diMeCar	MeEtN	(CH ₂) ₂	0	3-F-4-F-Ph
2-192	diMeCar	MeHN	(CH ₂) ₃	0	4-F-Ph
2-193	diMeCar	MeHN	(CH ₂) ₃	0	4-Cl-Ph
2-194	diMeCar	MeHN	(CH ₂) ₃	0	4-NO ₂ -Ph
2-195	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-F-4-NO ₂ -Ph
2-196	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-F-4-NO ₂ -Ph

【 0 0 4 0 】

【化 5】



【0041】

【表 3】

化合物 番号	$R^1-(C=X^1)$	R^2R^3N	A	E	Arom
3-1	diMeCar	NH ₂	(CH ₂) ₂	0	4-F-Ph
3-2	diMeCar	NH ₂	(CH ₂) ₂	0	4-NO ₂ -Ph
3-3	diMeCar	EtNH	(CH ₂) ₂	0	4-F-Ph
3-4	diMeCar	EtNH	(CH ₂) ₂	0	3-F-Ph
3-5	diMeCar	EtNH	(CH ₂) ₂	0	4-Cl-Ph
3-6	diMeCar	EtNH	(CH ₂) ₂	0	3-NO ₂ -Ph
3-7	diMeCar	EtNH	(CH ₂) ₂	0	4-NO ₂ -Ph
3-8	diMeCar	EtNH	(CH ₂) ₂	0	3-F-4-F-Ph
3-9	diMeCar	PrNH	(CH ₂) ₂	0	4-F-Ph
3-10	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	Ph
3-11	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-F-Ph
3-12	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-F-Ph
3-13	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-F-Ph
3-14	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-Cl-Ph
3-15	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-Cl-Ph

3-16	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-Cl-Ph
3-17	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-Br-Ph
3-18	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-Me-Ph
3-19	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-Me-Ph
3-20	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-Me-Ph
3-21	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-CF ₃ -Ph
3-22	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-MeO-Ph
3-23	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-MeO-Ph
3-24	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-MeO-Ph
3-25	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-Ac-Ph
3-26	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-Ac-Ph
3-27	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-CN-Ph
3-28	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-NO ₂ -Ph
3-29	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-NO ₂ -Ph
3-30	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-NO ₂ -Ph
3-31	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-NH ₂ -Ph
3-32	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-NH ₂ -Ph
3-33	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-AcNH-Ph
3-34	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-AcNH-Ph
3-35	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	4-COOH-Ph
3-36	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3,4-Mtdo-Ph
3-37	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-F-4-F-Ph
3-38	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-F-4-F-Ph
3-39	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-F-5-F-Ph
3-40	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-F-4-Cl-Ph
3-41	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-F-4-NO ₂ -Ph
3-42	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-Cl-4-F-Ph
3-43	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-Cl-4-Cl-Ph
3-44	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-Cl-4-NO ₂ -Ph

3-45	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-Cl-4-F-Ph
3-46	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-Cl-4-Cl-Ph
3-47	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-Me-4-F-Ph
3-48	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-Me-4-Cl-Ph
3-49	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-Me-4-Cl-Ph
3-50	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-Me-4-Me-Ph
3-51	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-Me-4-NO ₂ -Ph
3-52	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-NO ₂ -4-Cl-Ph
3-53	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	3-F-4-F-5-F-Ph
3-54	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-F-3-F-5-F-Ph
3-55	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	Py-3-yl
3-56	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	5-Cl-Py-3-yl
3-57	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-Me-Py-3-yl
3-58	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	6-Me-Py-3-yl
3-59	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	Py-2-yl
3-60	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	6-Cl-Py-2-yl
3-61	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	6-CF ₃ -Py-2-yl
3-62	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	6-NO ₂ -Py-2-yl
3-63	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	Py-4-yl
3-64	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-NO ₂ -Py-4-yl
3-65	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	Thi-3-yl
3-66	diMeCar	MeNH	(CH ₂) ₂	0	2-MeOCO-Thi-3-yl
3-67	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	Ph
3-68	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-F-Ph
3-69	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-F-Ph
3-70	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-F-Ph
3-71	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-Cl-Ph
3-72	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Cl-Ph
3-73	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Cl-Ph

3-74	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-Br-Ph
3-75	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-Me-Ph
3-76	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Me-Ph
3-77	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Me-Ph
3-78	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-CF ₃ -Ph
3-79	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-MeO-Ph
3-80	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-MeO-Ph
3-81	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-MeO-Ph
3-82	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-Ac-Ph
3-83	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Ac-Ph
3-84	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-CN-Ph
3-85	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-NO ₂ -Ph
3-86	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-NO ₂ -Ph
3-87	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-NO ₂ -Ph
3-88	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-NH ₂ -Ph
3-89	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-NH ₂ -Ph
3-90	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-AcNH-Ph
3-91	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-AcNH-Ph
3-92	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	4-COOH-Ph
3-93	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3,4-Mtdo-Ph
3-94	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-F-4-F-Ph
3-95	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-F-4-F-Ph
3-96	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-F-5-F-Ph
3-97	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-F-4-Cl-Ph
3-98	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-F-4-NO ₂ -Ph
3-99	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Cl-4-F-Ph
3-100	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Cl-4-Cl-Ph
3-101	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Cl-4-NO ₂ -Ph
3-102	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Cl-4-F-Ph

3-103	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Cl-4-Cl-Ph
3-104	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Me-4-F-Ph
3-105	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Me-4-Cl-Ph
3-106	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Me-4-Cl-Ph
3-107	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Me-4-Me-Ph
3-108	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-Me-4-NO ₂ -Ph
3-109	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-NO ₂ -4-Cl-Ph
3-110	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	3-F-4-F-5-F-Ph
3-111	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-F-3-F-5-F-Ph
3-112	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	Py-3-yl
3-113	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	5-Cl-Py-3-yl
3-114	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-Me-Py-3-yl
3-115	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	6-Me-Py-3-yl
3-116	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	Py-2-yl
3-117	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	6-Cl-Py-2-yl
3-118	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	6-CF ₃ -Py-2-yl
3-119	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	6-NO ₂ -Py-2-yl
3-120	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	Py-4-yl
3-121	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-NO ₂ -Py-4-yl
3-122	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	Thi-3-yl
3-123	diMeCar	diMeN	(CH ₂) ₂	0	2-MeOCO-Thi-3-yl

上記例示化合物の内、好適な化合物は、化合物番号1-1,1-7,1-8,1-10,1-13,1-19,1-23,1-26,1-33,1-34,1-35,1-36,1-37,1-38,1-39,1-40,1-41,1-42,1-43,1-45,1-46,1-47,1-48,1-49,1-50,1-51,1-52,1-53,1-54,1-55,1-56,1-57,1-58,1-59,1-60,1-61,1-65,1-66,1-67,1-68,1-70,1-71,1-72,1-74,1-75,1-76,1-77,1-78,1-79,1-80,1-81,1-82,1-83,1-84,1-85,1-86,1-87,1-88,1-89,1-90,1-91,1-92,1-93,1-94,1-95,1-96,1-97,1-98,1-99,1-100,1-101,1-102,1-103,1-104,1-105,1-106,1-107,1-108,1-109,1-110,1-111,1-112,1-113,1-114,1-115,1-116,1-117,1-118,1-119

19,1-120,1-121,1-122,1-123,1-124,1-125,1-126,1-128,1-129,1-132,1-133,1-134,1-135,1-136,1-137,1-138,1-142,1-143,1-144,1-145,1-146,1-148,1-149,1-150,1-151,1-152,1-153,1-154,1-155,1-156,1-157,1-158,1-160,1-161,1-162,1-163,1-165,1-174,1-180,1-181,1-182,1-183,1-187,1-188,1-189,1-190,1-191,1-192,1-193,1-194,1-195,1-196,2-1,2-2,2-3,2-4,2-5,2-6,2-9,2-11,2-12,2-13,2-14,2-15,2-16,2-17,2-18,2-19,2-22,2-24,2-25,2-26,2-27,2-41,2-42,2-43,2-49,2-51,2-53,2-65,2-67,2-73,2-75,2-76,2-77,2-78,2-79,2-80,2-81,2-82,2-85,,2-86,2-87,2-88,2-89,2-90,2-91,2-92,2-93,2-94,2-95,2-96,2-97,2-98,2-100,2-101,2-102,2-103,2-104,2-105,2-106,2-107,2-108,2-109,2-132,2-133,2-134,2-135,2-136,2-137,2-138,,2-142,2-143,2-144,2-145,2-146,2-147,2-148,2-149,2-150,2-151,2-152,2-154,2-155,2-157,2-158,2-159,2-160,2-161,2-167,2-192,2-193,2-194,3-11,3-12,3-14,3-15,3-17,3-21,3-25,3-26,3-27,3-28,3-29,3-30,3-68,3-69,3-71,3-72,3-74,3-78,3-82,3-83,3-84,3-85,3-87,3-88,3-89,3-90及び3-91の化合物であり、更に好適には、化合物番号1-1,1-7,1-8,1-10,1-13,1-19,1-23,1-26,1-34,1-39,1-41,1-42,1-43,1-45,1-46,1-47,1-49,1-50,1-51,1-52,1-53,1-59,1-60,1-61,1-66,1-67,1-68,1-70,1-71,1-72,1-74,1-75,1-76,1-77,1-78,1-79,1-80,1-81,1-82,1-84,1-85,1-86,1-87,1-88,1-89,1-90,1-91,1-92,1-93,1-94,1-95,1-96,1-97,1-98,1-99,1-101,1-102,1-103,1-104,1-105,1-106,1-107,1-108,1-109,1-110,1-111,1-112,1-113,1-114,1-115,1-116,1-117,1-118,1-119,1-120,1-121,1-122,1-123,1-124,1-125,1-126,1-128,1-129,1-132,1-133,1-134,1-135,1-136,1-137,1-142,1-146,1-149,1-151,1-156,1-158,1-159,1-160,1-165,1-174,1-180,1-181,1-182,1-183,1-187,1-188,1-189,1-190,1-191,1-192,1-193,1-194,1-195,2-1,2-2,2-3,2-4,2-5,2-6,2-9,2-11,2-12,2-13,2-14,2-15,2-16,2-17,2-18,2-22,2-25,2-26,2-65,2-67,2-73,2-75,2-78,2-79,2-82,2-86,2-88,2-92,2-94,2-104,2-109,2-132,2-135,2-136,2-142,2-149,2-161,2-167及び2-194の化合物であり、更により好適には、以下の化合物、

化合物番号1-75：ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - フルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル、

化合物番号1-76：ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (3 - フルオロフェノキシ

)-1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル、

化合物番号1-78: ジメチルカルバミン酸 4-[3-(4-クロロフェノキシ)-1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル

化合物番号1-79: ジメチルカルバミン酸 4-[3-(3-クロロフェノキシ)-1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル、

化合物番号1-92: ジメチルカルバミン酸 4-[3-(4-ニトロフェノキシ)-1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル、

化合物番号1-102: ジメチルカルバミン酸 4-[3-(3, 4-ジフルオロフェノキシ)-1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル、

化合物番号1-104: ジメチルカルバミン酸 4-[3-(4-クロロ-3-フルオロフェノキシ)-1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル、

化合物番号1-108: ジメチルカルバミン酸 4-[3-(2-クロロ-4-ニトロフェノキシ)-1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル、

化合物番号1-132: ジメチルカルバミン酸 4-[1-ジメチルアミノ-3-(4-フルオロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル、

化合物番号1-133: ジメチルカルバミン酸 4-[1-ジメチルアミノ-3-(3-フルオロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル、

化合物番号1-135: ジメチルカルバミン酸 4-[3-(4-クロロフェノキシ)-1-ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル、

化合物番号1-136: ジメチルカルバミン酸 4-[3-(3-クロロフェノキシ)-1-ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル、

化合物番号1-149: ジメチルカルバミン酸 4-[1-ジメチルアミノ-3-(4-ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル、

化合物番号1-159: ジメチルカルバミン酸 4-[3-(3, 4-ジフルオロフェノキシ)-1-ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル、

化合物番号1-165: ジメチルカルバミン酸 4-[3-(2-クロロ-4-ニトロフェノキシ)-1-ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル、

化合物番号2-92: ジメチルカルバミン酸 3-[1-メチルアミノ-3-(4-ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル、及び、

化合物番号2-149：ジメチルカルバミン酸 3 - [1 - ジメチルアミノ - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル
である。

【 0 0 4 2 】

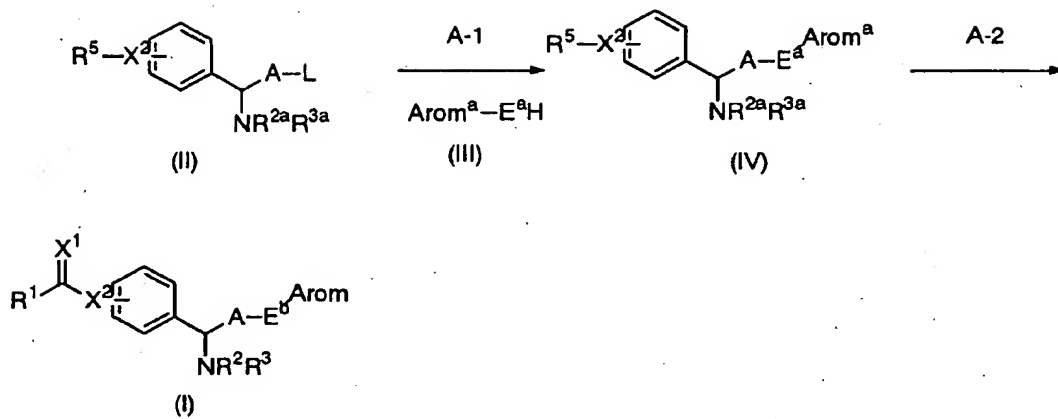
【発明の実施の形態】

本発明の化合物(I)は、以下に述べるA法乃至C法によって得ることができる。

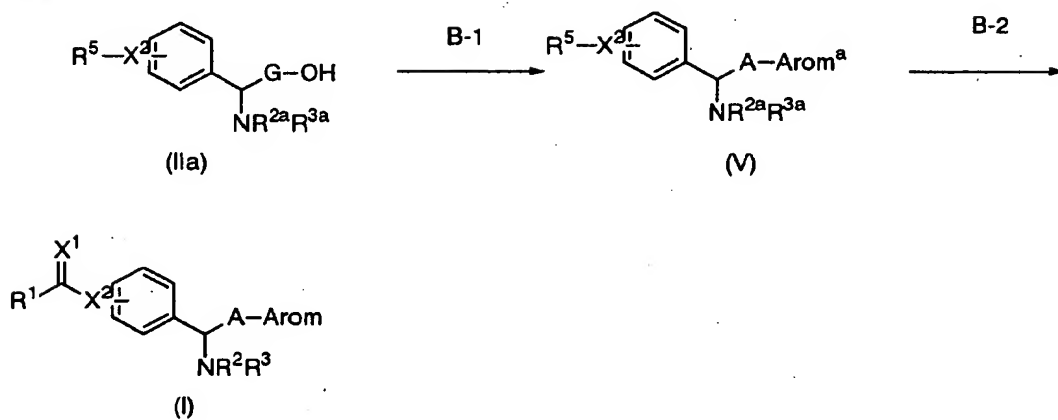
【 0 0 4 3 】

【化 6】

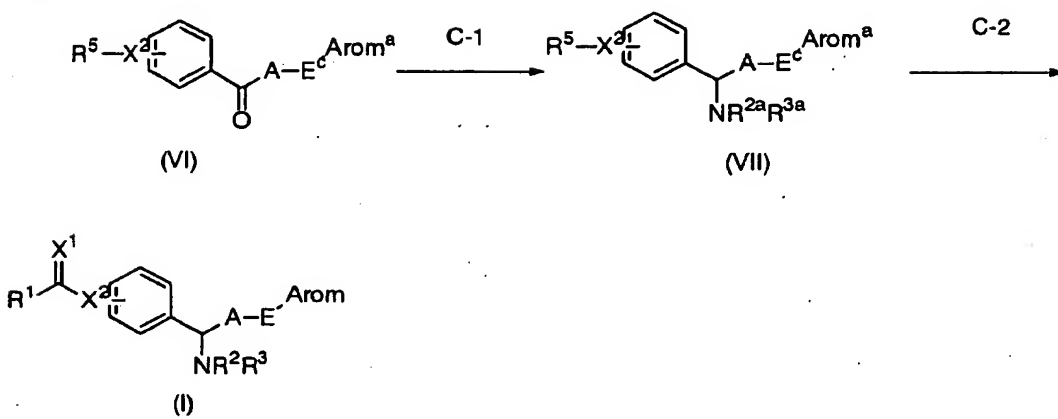
A法



B法



C法



【0044】

上記において、 R^1 乃至 R^3 、A、Arom、E、 X^1 及び X^2 は前述と同意義を示し、 R^{2a} は、前述の R^2 か、又は、アミノ基の保護基を示し、 R^{3a} は、前述の R^3 か、又は、アミノ基の保護基を示し、 R^5 は、水素原子、水酸基の保護基又は式 $R^1-C(=X)-$ 基（式中、 R^1 及び X^1 は前述と同意義を示す。）を示し、 $Arom^a$ は、前述のAromか、又は、Arom上のカルボキシ基、水酸基若しくはアミノ基が必要に応じて各々の官能基の保護基で保護されたものを示し、 E^a は酸素原子、硫黄原子、式 $-NH-$ 基、又は、式 $-NQ-$ 基（式中、Qはアミノ基の保護基を表す。）を示し、 E^b は、前述のEから単結合を除いたものを示し、 E^c は単結合、酸素原子、硫黄原子、式 $-NH-$ 基、又は、式 $-NQ-$ 基（式中、Qはアミノ基の保護基を表す。）を示し、Gは C_1-C_5 アルキレン基を示し、Lは水酸基又は脱離基を示す。

【0045】

R^5 及び $Arom^a$ における水酸基の保護基とは、反応の際に安定してヒドロキシ基を保護し得るものであれば、特に限定はないが、具体的には、加水素分解、加水分解、電気分解及び光分解のような化学的方法により開裂し得る保護基をいい、例えば、前記「脂肪族アシル基」；前記「芳香族アシル基」；前記「テトラヒドロピラニル又はテトラヒドロチオピラニル基」；前記「シリル基」；前記「アルコキシメチル基」；前記「置換エチル基」；前記「アラルキル基」；前記「アルコキシカルボニル基」；前記「アルケニルオキシカルボニル基」；前記「アラルキルオキシカルボニル基」を挙げる事ができる。

【0046】

R^{2a} 、 R^{3a} 、 $Arom^a$ 及びQにおけるアミノ基の保護基とは、反応の際に安定してアミノ基を保護し得るものであれば、特に限定はないが、具体的には、加水素分解、加水分解、電気分解及び光分解のような化学的方法により開裂し得る保護基をいい、例えば、前記「脂肪族アシル基」；前記「芳香族アシル基」；前記「アルコキシカルボニル基」；前記「アラルキルオキシカルボニル基」；前記「シリル基」；前記「アラルキル基」；N,N-ジメチルアミノメチレン、ベンジリデン、4-メトキシベンジリデン、4-ニトロベンジリデン、サリシリデン、5-クロロサリシリデン、ジフェニルメチレン又は（5-クロロ-2-ヒドロキシフェニル）フェニルメチレンのようなシッフ塩基を形成する「置換されたメチレン基」；ベンゼン

スルホニルのようなアリールスルホニル基、p-トルエンスルホニル、ペンタメチルベンゼンスルホニル、p-メトキシベンゼンスルホニル、2,4,6-トリメトキシベンゼンスルホニル又は3-メトキシ-4-t-ブチルベンゼンスルホニルのような低級アルキル、低級アルコキシで置換されたアリールスルホニル基等の「芳香族スルホニル基」；メタンスルホニル又はt-ブチルスルホニルのようなアルキルスルホニル基、トリフルオロメチルスルホニル、トリシリルエタンスルホニル又はベンジルスルホニルのようなハロゲン原子、シリル基、アリール基で置換されたアルキルスルホニル等の「脂肪族スルホニル基」を挙げる事ができる。

【 0 0 4 7 】

Arom^aにおけるカルボキシ基の保護基は、反応の際に安定してカルボキシ基を保護し得るものであれば、特に限定はないが、具体的には、加水素分解、加水分解、電気分解及び光分解のような化学的方法により開裂し得る保護基をいい、例えば前記「低級アルキル基」；前記「アルケニル基」；前記「アルキニル基」；前記「低級アルキル基」；アセチルメチルのような「脂肪族アシル」－「低級アルキル基」；前記「アラルキル基」；前記「シリル基」を挙げる事ができる。

【 0 0 4 8 】

Lにおける脱離基とは、求核試薬と反応して置換反応をするような官能基であれば特に限定はないが、そのような基としては、例えば、前記「ハロゲン原子」；メタンスルホニルオキシ又はエタンスルホニルオキシのような「低級アルキルスルホニルオキシ基」；トリフルオロメタンスルホニルオキシのような、「ハロゲン置換低級アルキルスルホニルオキシ基」；ベンゼンスルホニルオキシのようなアリールスルホニルオキシ基、p-トルエンスルホニルオキシのような低級アルキル化アリールスルホニルオキシ基、パラクロロベンゼンスルホニルオキシのようなハロゲン置換アリールスルホニルオキシ基等の「芳香族スルホニルオキシ基」を挙げる事ができる。

【 0 0 4 9 】

以下A法乃至C法の各工程について詳述する。

(A法)

(A-1工程)

本工程は、後述するD法又はE法によって得られるか、公知であるか、又は、公知の化合物から容易に得られる化合物(II)と、公知であるか、公知の化合物から容易に得られる化合物(III)とを塩基の存在下、反応させ、化合物(IV)を製造する工程である。

【0050】

本工程は、 E^a が酸素原子又は硫黄原子である場合に化合物(II)と化合物(III)がエーテルを形成する反応による(A-1a反応)か、又は、 E^a がアミノ基である場合に化合物(II)と化合物(III)がアミンを形成する反応により(A-1b反応)行われる。

(A-1a反応)

本反応は<方法1> (α) 化合物(III)の水酸基にアルキル又はアリールスルホニルハライド(好適には、メタンスルホニルクロリド)を反応させた後、(β) 化合物(II)と塩基存在下縮合させるか、<方法2>化合物(III)と化合物(II)をブルティン・ケミカル・ソサイアティ・ジャパン、第40巻、2380頁(1967年) [Bull. Chem. Soc. Jap., 40, 2380 (1967)]. に記載の光延反応に従い、縮合させることによって達成される。

<方法1>

(α) 水酸基とスルホニルハライドの反応

使用される溶剤としては、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はないが、好適には、ベンゼンのような芳香族炭化水素類；ジエチルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタンのようなエーテル類があげられ、好適にはエーテル類(特にテトラヒドロフラン)である。

【0051】

使用される塩基としては、トリエチルアミン、ジイソプロピルアミン、イソプロピルエチルアミン、N-メチルモルホリン、ピリジン、4-(N, N-ジメチルアミノ)ピリジン、N, N-ジメチルアニリン、N, N-ジエチルアニリンのような有機塩基類があげられ、好適にはトリエチルアミンである。

【0052】

反応温度は、溶剤、原料、試薬等により異なるが、通常、 -20 乃至 50°C であり、好適には 0 乃至 25°C である。

【0053】

反応時間は、溶剤、原料、試薬、反応温度等により異なるが、通常、 5 分乃至 10 時間であり、好適には 10 分乃至 3 時間である。

【0054】

反応終了後、本工程の目的化合物は常法に従って反応混合物から採取される。例えば、反応終了後、反応液に水を加え、水と混和しない溶媒（例えばベンゼン、エーテル、酢酸エチル等）を加えて目的化合物を抽出した後、抽出した有機層を水洗し、無水硫酸マグネシウム等を用いて乾燥させた後、溶媒を留去することによって目的化合物が得られる。得られる目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈澱、クロマトグラフィーにより更に精製できる。本工程の目的化合物は、精製することなく次工程に用いることができる。

【0055】

(β) 化合物 (II) との縮合

使用される溶剤としては、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はないが、好適には、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタンのようなエーテル類；アセトニトリル、イソブチロニトリルのようなニトリル類；ホルムアミド、ジメチルホルムアミド、ジメチルアセトアミド、ヘキサメチルホスホロトリアミドのようなアミド類；ジメチルスルホキシド、スルホランのようなスルホキシド類があげられ、好適にはアミド類（特にジメチルホルムアミド）である。

【0056】

使用される塩基としては、例えば、水酸化リチウム、水酸化ナトリウム又は水酸化カリウムのようなアルカリ金属水酸化物類；水素化リチウム、水素化ナトリウム又は水素化カリウムのようなアルカリ金属水素化物類；メチルリチウム、エチルリチウム又はブチルリチウムのようなアルキルリチウム類；或は、リチウムジイソプロピルアミド、リチウムジシクロヘキシルアミド又はリチウムビス（トリメチルシリル）アミドのようなリチウムアルキルアミド類であり得、好適には

、金属水素化物類（特に水素化ナトリウム）である。

【 0 0 5 7 】

反応温度は、溶剤、原料、試薬等により異なるが、通常、0乃至180℃であり、好適には0乃至50℃である。

【 0 0 5 8 】

反応時間は、溶剤、原料、試薬、反応温度等により異なるが、通常、1乃至24時間であり、好適には2乃至12時間である。

【 0 0 5 9 】

反応終了後、本工程の目的化合物は常法に従って反応混合物から採取される。例えば、反応終了後、反応液に水を加え、水と混和しない溶媒（例えばベンゼン、エーテル、酢酸エチル等）を加えて目的化合物を抽出した後、抽出した有機層を水洗し、無水硫酸マグネシウム等を用いて乾燥させた後、溶媒を留去することによって目的化合物が得られる。得られる目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈澱、クロマトグラフィーにより更に精製できる。

【 0 0 6 0 】

< 方法 2 >

使用される溶媒は、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はないが、例えばヘキサン、ヘプタン、リグロイン又は石油エーテルのような脂肪族炭化水素類；ベンゼン、トルエン又はキシレンのような芳香族炭化水素類；ジクロロメタン、クロロホルム、四塩化炭素、ジクロロエタン、クロロベンゼン又はジクロロベンゼンのようなハロゲン化炭化水素類；或はジエチルエーテル、ジイソプロピルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタン又はジエチレングリコールジメチルエーテルのようなエーテル類であり得、好適には脂肪族炭化水素類、芳香族炭化水素類又はエーテル類であり、更に好適にはエーテル類（特にテトラヒドロフラン）である。

【 0 0 6 1 】

使用されるホスフィン類は、例えば、トリメチルホスフィン、トリエチルホスフィン、トリプロピルホスフィン、トリブチルホスフィン、トリペンチルホスフィン又はトリヘキシルホスフィン等のトリC₁ - C₆アルキルホスフィン；トリフ

フェニルホスフィン、トリインデニルホスフィン又はトリナフチルホスフィン等のトリ C_6-C_{10} アリールホスフィン；或はトリルジフェニルホスフィン、トリトリルホスフィン、トリメシチルホスフィン、トリブチルフェニルホスフィン又はトリ-6-エチル-2-ナフチルホスフィン等の、 C_1-C_4 アルキルを置換基として有してもよいトリ C_6-C_{10} アリールホスフィンであり得、好適にはトリ C_1-C_6 アルキルホスフィン類（特にトリメチルホスフィン、トリエチルホスフィン、トリプロピルホスフィン又はトリブチルホスフィン、）又はトリ C_6-C_{10} アリールホスフィン（特にトリフェニルホスフィン、トリインデニルホスフィン又はトリナフチルホスフィン）であり、更に好適には、トリ C_6-C_{10} アリールホスフィン（特にトリフェニルホスフィン）である。

【0062】

使用されるアゾ化合物は、例えばアゾジカルボン酸ジメチル、アゾジカルボン酸ジエチル、アゾジカルボン酸ジプロピル又はアゾジカルボン酸ジブチルのようなアゾジカルボン酸ジ- C_1-C_4 アルキルであり得、好適にはアゾジカルボン酸ジエチルである。

【0063】

反応温度は原料化合物、試薬等によって変化するが、通常-10℃乃至100℃であり、好適には0℃乃至50℃である。

【0064】

反応時間は原料化合物、試薬、反応温度によって変化するが、通常5分間乃至24時間であり、好適には10分間乃至12時間である。

【0065】

反応終了後、本工程の目的化合物は、常法に従って反応混合物から採取される。例えば、不溶物が存在する場合にはそれを濾去し、溶媒を留去することによって目的化合物が得られる。得られる目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈澱又はクロマトグラフィー等によって更に精製できる。

(A-1b反応)

本反応は(A-1a反応)の<方法1>と同様に行われる。

(A-2工程)

本工程は、A-1工程で得られた化合物(IV)に、必要に応じて、保護基の脱保護反応(A-2a反応)、アミンのN-アルキル化反応(A-2b反応)、及び、水酸基のカルバモイル化反応(A-2c反応)を行い、化合物(I)を製造する工程である。

(A-2a反応)

アミノ基の保護基の除去はその種類によって異なるが、一般に有機合成化学の技術において周知の方法に従い、以下の様に実施される。

【0066】

アミノ基の保護基が、t-ブトキシカルボニル基、2-トリメチルシリルエトキシカルボニル基又はp-メトキシベンジルオキシカルボニル基である場合には、不活性溶媒中又は水性溶媒中で酸で処理することにより除去することができる。尚、その際に、目的化合物を塩として得ることもできる。

【0067】

使用される酸は、例えば、塩酸、硫酸、リン酸、臭化水素酸又はトリフルオロ酢酸であり得、好適には塩酸、硫酸、臭化水素酸又はトリフルオロ酢酸である。

【0068】

使用される溶媒は、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はないが、例えば、ヘキサン、ヘプタン、リグロイン又は石油エーテルのような脂肪族炭化水素類；ベンゼン、トルエン又はキシレンのような芳香族炭化水素類；ジクロロメタン、クロロホルム、四塩化炭素、ジクロロエタン、クロロベンゼン又はジクロロベンゼンのようなハロゲン化炭化水素類；ジエチルエーテル、ジイソプロピルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタン又はジエチレングリコールジメチルエーテルのようなエーテル類；酢酸メチル又は酢酸エチルのようなエステル類；メタノール、エタノール、プロパノール、イソプロパノール又はブタノールのようなアルコール類；ホルムアミド、N,N-ジメチルホルムアミド、N,N-ジメチルアセトアミド又はヘキサメチルリン酸トリアミドのようなアミド類；ジメチルスルホキシド又はスルホランのようなスルホキシド類；蟻酸又は酢酸のような脂肪酸類；或は水又は水と上記溶媒との混合溶媒であり得、好適には、ハロゲン化炭化水素類、エーテル類、アルコール類、脂肪酸類又は水と上記溶媒との混合溶媒であり、さらに好適にはエス

テル類（特に酢酸エチル）、エーテル類（特にテトラヒドロフラン又はジオキサン）である。

【 0 0 6 9 】

反応温度は原料化合物、溶媒又は使用される酸によって変化するが、通常 - 2 0℃乃至 1 0 0℃であり、好適には 0℃乃至 8 0℃である。

【 0 0 7 0 】

反応時間は原料化合物、溶媒又は使用される酸によって変化するが、通常 5 分間乃至 2 0 時間であり、好適には 1 時間乃至 1 0 時間である。

【 0 0 7 1 】

反応終了後、本反応の目的化合物は常法に従って反応混合物から採取される。例えば、反応液中に析出した目的化合物を濾取するか、又は反応液を適宜中和し、溶媒を留去し、反応液に水を注ぎ、水と混和しない溶媒（例えばベンゼン、エーテル、酢酸エチル等）を加え抽出し、目的化合物を含む有機層を水洗後、無水硫酸マグネシウム等で乾燥し、溶媒を留去することによって目的化合物が得られる。得られる目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈澱又はクロマトグラフィー等によって更に精製できる。

【 0 0 7 2 】

尚、アミノ基の保護基が α -ブトキシカルボニル基の場合には、特に不活性溶媒中で、シリル化合物又はルイス酸と処理することによっても除去することができる。

【 0 0 7 3 】

使用されるシリル化合物は、例えば、トリメチルシリルクロリド、トリメチルシリルイオダイド又はトリメチルシリルトリフルオロメタンスルホネートであり、使用されるルイス酸は、例えば、塩化アルミニウムである。

【 0 0 7 4 】

使用される溶媒は、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はないが、例えば、ジクロロメタン、クロロホルム又は四塩化炭素のようなハロゲン化炭化水素類；ジエチルエーテル、テトラヒドロフラン又はジオキサンのようなエーテル類；或は、アセトニトリルのようなニトリル類であり得

、好適には、ハロゲン化炭化水素類（特にジクロロメタン又はクロロホルム）或はニトリル類（特にアセトニトリル）である。

【 0 0 7 5 】

反応温度は原料化合物、試薬又は溶媒等によって変化するが、通常 - 2 0 ℃ 乃至 1 0 0 ℃ であり、好適には 0 ℃ 乃至 5 0 ℃ である。

【 0 0 7 6 】

反応時間は原料化合物、試薬、溶媒又は反応温度等によって変化するが、通常 1 0 分乃至 1 0 時間であり、好適には 3 0 分乃至 3 時間である。

【 0 0 7 7 】

反応終了後、本工程の目的化合物は常法に従って反応混合物から採取される。例えば、溶媒を留去し、反応液に水を注ぎ、水層をアルカリ性にして析出物を濾取するか、又は水と混和しない溶媒（例えばベンゼン、エーテル、酢酸エチル等）を加え抽出し、目的化合物を含む有機層を水洗後、無水硫酸マグネシウム等で乾燥し、溶媒を留去することによって目的化合物が得られる。得られる目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈澱又はクロマトグラフィー等によって更に精製できる。

【 0 0 7 8 】

アミノ基の保護基が、アリルオキシカルボニル基である場合には、通常、不活性溶媒中、1 乃至 3 当量の 2 - エチルヘキサン酸カリ、マロン酸メチル、ジメドン又は水素化トリブチル錫存在下、テトラキス（トリフェニルホスフィン）パラジウム又は塩化パラジウムビス（トリフェニルホスフィン）と反応させることにより除去することができる。

【 0 0 7 9 】

使用される溶媒は、本反応に関与しないものであれば特に限定はないが、例えば、ジクロロメタン、クロロホルム又は四塩化炭素のようなハロゲン化炭化水素類；ジエチルエーテル、テトラヒドロフラン又はジオキサンのようなエーテル類；或は、酢酸エチル又は酢酸プロピルのようなエステル類であり得、好適には、ハロゲン化炭化水素類（特にジクロロメタン）、エーテル類（特にテトラヒドロフラン）又はエステル類（特に酢酸エチル）である。

【0080】

反応温度は原料化合物、溶媒又は使用される還元剤等によって変化するが、通常 -10°C 乃至 80°C であり、好適には 0°C 乃至 50°C である。

【0081】

反応時間は原料化合物、溶媒、使用される還元剤又は反応温度等によって変化するが、通常30分間乃至24時間であり、好適には1時間乃至8時間である。

【0082】

反応終了後、本工程の目的化合物は常法に従って反応混合物から採取される。例えば、パラジウム触媒を濾去した後溶媒を留去し、反応液に水を注ぎ、水層をアルカリ性にして析出物を濾取するか、又は水と混和しない溶媒（例えばベンゼン、エーテル、酢酸エチル等）を加え抽出し、目的化合物を含む有機層を水洗後、無水硫酸マグネシウム等で乾燥し、溶媒を留去することによって目的化合物が得られる。得られる目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈澱又はクロマトグラフィー等によって更に精製できる。

【0083】

水酸基の保護基の除去はその種類によって異なるが、一般に有機合成化学の技術において周知の方法に従い、以下の様に実施される。

【0084】

使用される溶媒は、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はないが、例えば、ヘキサン、シクロヘキサン、ヘプタン、リグロイン又は石油エーテルのような脂肪族炭化水素類；ベンゼン、トルエン又はキシレンのような芳香族炭化水素類；ジエチルエーテル、ジイソプロピルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタン又はジエチレングリコールジメチルエーテルのようなエーテル類；酢酸メチル又は酢酸エチルのようなエステル類；メタノール、エタノール、プロパノール、イソプロパノール、ブタノール又はイソブタノールのようなアルコール類；或いは上記溶媒と水とを任意に混合した混合溶媒であり得、好適には、アルコール類（特にメタノール）、アルコール類と水との混合溶媒である。

【0085】

使用される接触還元触媒は、通常の接触還元反応に使用されるものであれば、特に限定はないが、例えば、パラジウム黒、パラジウム-炭素、水酸化パラジウム、水酸化パラジウム-炭素、ラネーニッケル、ロジウム-酸化アルミニウム、パラジウム-硫酸バリウム、酸化白金又は白金黒であり得、好適には、パラジウム-炭素又は水酸化パラジウム-炭素である。

【 0 0 8 6 】

本工程は反応を効果的に行わせるために酸を加えることができる。使用される酸としては、例えば塩酸、臭化水素酸のような鉱酸またはピクリン酸、ギ酸、酢酸、プロピオン酸トリフルオロ酢酸、ベンゼンスルホン酸、4-トルエンスルホン酸、カンファースルホン酸のような有機酸であり得、好適には酢酸である。

【 0 0 8 7 】

反応温度は、原料化合物、試薬等によって異なるが、通常-10℃乃至100℃であり、好適には0℃乃至50℃である。

【 0 0 8 8 】

反応時間は原料化合物、試薬、反応温度によって異なるが、通常10分間乃至48時間であり、好適には30分間乃至24時間である。

【 0 0 8 9 】

反応終了後、目的化合物は常法に従って反応混合物から採取される。例えば、反応終了後、触媒を濾去した後、濾液を留去することによって目的化合物が得られる。得られる目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈澱、クロマトグラフィーにより更に精製できる。

【 0 0 9 0 】

カルボキシ基の保護基の除去はその種類によって異なるが、一般に有機合成化学の技術において周知の方法に従い、以下の様に実施される。

【 0 0 9 1 】

カルボキシ基の保護基として、低級アルキル基又はアリール基を使用した場合には、酸又は塩基で処理することにより除去することができる。

【 0 0 9 2 】

酸としては、塩酸、硫酸、磷酸、臭化水素酸が用いられ、塩基としては、化合

物の他の部分に影響を与えないものであれば特に限定はないが、好適には炭酸ナトリウム、炭酸カリウムのようなアルカリ金属炭酸塩、水酸化ナトリウム、水酸化カリウムのようなアルカリ金属水酸化物又は濃アンモニアメタノール溶液が用いられる。

【0093】

尚、塩基による加水分解では異性化が起こることがある。

【0094】

使用される溶媒としては、通常の加水分解反応に使用されるもので、反応を阻害しないものであれば特に限定はなく、水又はメタノール、エタノール、n-プロパノールのようなアルコール類若しくはテトラヒドロフラン、ジオキサンのようなエーテル類のような有機溶媒と水との混合溶媒が好適である。

【0095】

反応温度及び反応時間は、出発物質、溶媒及び用いる試薬等により異なり、特に限定はないが、副反応を抑制するために、通常は0℃乃至150℃で、1乃至10時間実施される。

【0096】

カルボキシ基の保護基がジフェニルメチルのようなジアリール置換メチル基である場合には、通常、溶媒中、酸で処理することにより除去される。

【0097】

使用される溶媒としては、アニソールのような芳香族炭化水素類が好ましく、使用される酸としては、トリフルオロ酢酸のような弗化有機酸が用いられる。

【0098】

反応温度及び反応時間は、出発物質、溶媒、使用される酸等により異なるが、通常は室温で30分乃至10時間実施される。

【0099】

カルボキシ基の保護基がアラルキル基又はハロゲン低級アルキル基である場合には、通常、溶媒中、還元により除去される。

【0100】

還元方法としては、カルボキシ基の保護基がハロゲン低級アルキル基である場

合には、亜鉛-酢酸のような化学的還元による方法が好適であり、アラルキル基である場合には、パラジウム炭素、白金のような触媒を用い接触還元による方法を行なうか、又は硫化カリウム、硫化ナトリウムのようなアルカリ金属硫化物を用いて、化学的還元による方法により実施される。

【0101】

使用される溶媒としては、本反応に関与しないものであれば特に限定はないが、メタノール、エタノールのようなアルコール類；テトラヒドロフラン、ジオキサンのようなエーテル類；酢酸のような脂肪酸又はこれらの有機溶媒と水との混合溶媒が好適である。

【0102】

反応温度及び反応時間は、出発物質、溶媒及び還元方法等により異なるが、通常は0℃乃至室温付近で、5分乃至12時間実施される。

【0103】

カルボキシ基の保護基がアルコキシメチル基である場合には、通常、溶媒中、酸で処理することにより除去される。

【0104】

使用される酸としては、通常ブレンステッド酸として使用されるものであれば特に限定はないが、好適には塩酸、硫酸のような無機酸又は酢酸、パラトルエンスルホン酸のような有機酸である。

【0105】

使用される溶媒としては、本反応に関与しないものであれば特に限定はないが、メタノール、エタノールのようなアルコール類；テトラヒドロフラン、ジオキサンのようなエーテル類又はこれらの有機溶媒と水との混合溶媒が好適である。

【0106】

反応温度及び反応時間は、出発物質、溶媒及び使用される酸の種類等により異なるが、通常は0℃乃至50℃で、10分乃至18時間実施される。

【0107】

尚、カルボキシ基の保護基の除去を常法に従い、アンモニア処理により行なうと、アミド化することもできる。

【0108】

又、所望により、常法に従って、上記生成したカルボン酸を、水と酢酸エチルのような水と混和しない有機溶媒との混合溶媒に溶かし、炭酸水素ナトリウム水溶液、炭酸カリウム水溶液のようなアルカリ金属炭酸塩若しくは重炭酸塩水溶液を、0℃乃至室温下に加え、次いで、pH7付近とし析出した沈殿を濾取することによりアルキル金属塩を製造することができる。

【0109】

更に、このようにして製造した塩、又は上記カルボン酸を、溶媒（好適には、テトラヒドロフランのようなエーテル類又はN,N-ジメチルホルムアミド、ジメチルスルホキシド、ヘキサメチルホスホロトリアミド、トリエチルホスフェートのような極性溶媒類）中、2当量の塩基（好適には、トリエチルアミン、ジシクロヘキシルアミンのような有機塩基、ナトリウムヒドリドのような水素化アルカリ金属塩類又は炭酸水素ナトリウム、炭酸ナトリウム、炭酸カリウムのようなアルカリ金属炭酸塩若しくは重炭酸塩）と反応させ、これにアセトキシメチルクロリド、プロピオニルオキシメチルブロミドのような脂肪族アシルオキシメチルハライド類、1-メトキシカルボニルオキシエチルクロリド、1-エトキシカルボニルオキシエチルイオダイドのような1-低級アルコキシカルボニルオキシエチルハライド類、フタリジルハライド類又は（2-オキソ-5-メチル-1,3-ジオキソレン-4-イル）メチルハライド類を反応させることにより、生体内で加水分解されやすいカルボキシ基の保護基で再び保護されたエステル体を製造することができる。

【0110】

反応温度及び反応時間は、出発物質、溶媒及び反応試薬の種類により異なるが、通常、0℃乃至100℃で、0.5乃至10時間実施される。

(A-2b反応)

アミンのN-アルキル化はアルキルカルボニル化合物と還元剤の組合せ＜方法1＞か、塩基の存在下、ハロゲン化アルキルと反応させる＜方法2＞ことにより達成される。

＜方法1＞

使用される溶媒としては、反応を阻害せず、原料物質をある程度溶解するもの

であれば、特に限定されず、例えば、水；メチレンクロリド、クロロホルム、四塩化炭素、ジクロロエタン、クロロベンゼン、ジクロロベンゼンのようなハロゲン化炭化水素類；ジエチルエーテル、ジイソプロピルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタン、ジエチレングリコールジメチルエーテルのようなエーテル類；アセトニトリル、イソブチロニトリルのようなニトリル類；ホルムアミド、N，N-ジメチルホルムアミド、N，N-ジメチルアセトアミド、N-メチル-2-ピロリドン、N-メチルピロリジノン、ヘキサメチルホスホロトリアミドのようなアミド類；ジメチルスルホキシド、スルホランのようなスルホキシド類；N-メチルモルホリン、トリエチルアミン、トリプロピルアミン、トリブチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン、ジシクロヘキシルアミン、N-メチルピペリジン、ピリジン、4-ピロリジノピリジン、ピコリン、4-(N，N-ジメチルアミノ)ピリジン、2，6-ジ(tert-ブチル)-4-メチルピリジン、キノリン、N，N-ジメチルアニリン、N，N-ジエチルアニリンのような有機塩基類を挙げることができ、好適には、アルコール類である。また、必要に応じて、溶媒を用いずに反応を行うこともできる。

【 0 1 1 1 】

使用される還元剤としては、水素化ホウ素ナトリウム又はシアノ水素化ホウ素ナトリウムのような水素化ホウ素金属塩；パラジウム炭素、白金、ラネーニッケルのような触媒と水素ガスの組合せ；亜鉛と塩酸の組合せを挙げることができ、好適には水素化ホウ素金属塩である。又、アルキル化剤がホルムアルデヒドである場合には、蟻酸を用いることもできる。

【 0 1 1 2 】

反応温度は原料化合物、試薬又は溶媒等によって変化するが、通常、-20℃乃至200℃であり、好適には、0℃乃至100℃である。

【 0 1 1 3 】

反応時間は、主に反応温度、原料化合物又は使用される溶媒の種類によって異なるが、通常10分乃至24時間であり、好適には、1時間乃至12時間である。

【 0 1 1 4 】

反応終了後、本反応の目的化合物は、例えば、反応混合物を濃縮し、水と酢酸

エチルのような混和しない有機溶媒を加え、水洗後、目的化合物を含む有機層を分離し、無水硫酸マグネシウム等で乾燥後、溶剤を留去することで得られる。

＜方法2＞

使用される溶媒としては、反応を阻害せず、原料物質をある程度溶解するものであれば、特に限定されず、例えば、ヘキサン、ヘプタン、リグロイン、石油エーテルのような脂肪族炭化水素類；ベンゼン、トルエン、キシレンのような芳香族炭化水素類；メチレンクロリド、クロロホルム、四塩化炭素、ジクロロエタン、クロロベンゼン、ジクロロベンゼンのようなハロゲン化炭化水素類；ジエチルエーテル、ジイソプロピルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタン、ジエチレングリコールジメチルエーテルのようなエーテル類；アセトニトリル、イソブチロニトリルのようなニトリル類；ホルムアミド、N，N-ジメチルホルムアミド、N，N-ジメチルアセトアミド、N-メチル-2-ピロリドン、N-メチルピロリジノン、ヘキサメチルホスホロトリアミドのようなアミド類；ジメチルスルホキシド、スルホランのようなスルホキシド類；N-メチルモルホリン、トリエチルアミン、トリプロピルアミン、トリブチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン、ジシクロヘキシルアミン、N-メチルピペリジン、ピリジン、4-ピロリジノピリジン、ピコリン、4-(N，N-ジメチルアミノ)ピリジン、2，6-ジ(t-ブチル)-4-メチルピリジン、キノリン、N，N-ジメチルアニリン、N，N-ジエチルアニリンのような有機塩基類を挙げることができ、好適には、アミド類であり、特に好適には、N，N-ジメチルアセトアミドである。

【0115】

使用される塩基としては、例えば、炭酸ナトリウム、炭酸カリウム、炭酸リチウムのようなアルカリ金属炭酸塩類；炭酸水素ナトリウム、炭酸水素カリウム、炭酸水素リチウムのようなアルカリ金属炭酸水素塩類；N-メチルモルホリン、トリエチルアミン、トリプロピルアミン、トリブチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン、ジシクロヘキシルアミン、N-メチルピペリジン、ピリジン、4-ピロリジノピリジン、ピコリン、4-(N，N-ジメチルアミノ)ピリジン、2，6-ジ(t-ブチル)-4-メチルピリジン、キノリン、N，N-ジメチルア

ニリン、N, N-ジエチルアニリン、1, 5-ジアザビシクロ [4. 3. 0] ノナー5-エン (DBN)、1, 4-ジアザビシクロ [2. 2. 2] オクタン (DABCO)、1, 8-ジアザビシクロ [5. 4. 0] ウンデカ-7-エン (DBU) のような有機塩基類を挙げることができ、好適には、アルカリ金属炭酸塩類であり、特に好適には、炭酸カリウムである。

【0116】

尚、反応を効果的に行わせるために、ヨウ化ナトリウムを加えても良い。

【0117】

反応温度は原料化合物、試薬又は溶媒等によって変化するが、通常、0℃乃至200℃であり、好適には、20℃乃至100℃である。

【0118】

反応時間は、主に反応温度、原料化合物又は使用される溶媒の種類によって異なるが、通常10分乃至24時間であり、好適には、1時間乃至12時間である。

【0119】

反応終了後、本反応の目的化合物は、例えば、反応混合物を濃縮し、水と酢酸エチルのような混和しない有機溶媒を加え、水洗後、目的化合物を含む有機層を分離し、無水硫酸マグネシウム等で乾燥後、溶剤を留去することで得られる。

(A-2c反応)

使用される溶媒は、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はないが、例えば、ヘキサン又はヘプタンのような脂肪族炭化水素類；ベンゼン、トルエン又はキシレンのような芳香族炭化水素類；ジクロロメタン、クロロホルム、四塩化炭素、ジクロロエタン、クロロベンゼン又はジクロロベンゼンのようなハロゲン化炭化水素類；蟻酸エチル、酢酸エチル、酢酸プロピル、酢酸ブチル又は炭酸ジエチルのようなエステル類；ジエチルエーテル、ジイソプロピルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタン又はジエチレングリコールジメチルエーテルのようなエーテル類；アセトニトリル又はイソブチロニトリルのようなニトリル類；或は、ホルムアミド、N, N-ジメチルホルムアミド、N, N-ジメチルアセトアミド、N-メチル-2-ピロリドン、N-メチルピロリジノン又はヘキサメチルホスホロトリアミドのようなアミド

類であり得、好適には、ハロゲン化炭化水素類（特にジクロロメタン）、エーテル類（特にテトラヒドロフラン）又はアミド類（特にN，N-ジメチルホルムアミド）である。

【 0 1 2 0 】

使用される塩基は、例えば炭酸ナトリウム、炭酸カリウムまたは炭酸リチウムのようなアルカリ金属炭酸塩類；水素化リチウム、水素化ナトリウム又は水素化カリウムのようなアルカリ金属水素化物類；トリエチルアミン、トリブチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン、N-メチルモルホリン、ピリジン、4-（N，N-ジメチルアミノ）ピリジン、N，N-ジメチルアニリン、N，N-ジエチルアニリン、1，5-ジアザビシクロ〔4．3．0〕ノナ-5-エン、1，4-ジアザビシクロ〔2．2．2〕オクタン（DABCO）、1，8-ジアザビシクロ〔5．4．0〕ウンデカ-7-エン（DBU）のような有機アミン類；であり、好適にはアルカリ金属炭酸塩類（特に炭酸カリウム）又は有機アミン類（特にトリエチルアミン）である。

【 0 1 2 1 】

反応温度は原料化合物、溶媒又は使用される塩基によって変化するが、通常-20℃乃至100℃であり、好適には0℃乃至50℃である。

【 0 1 2 2 】

反応時間は原料化合物、溶媒又は使用される塩基によって変化するが、通常5分間乃至48時間であり、好適には1時間乃至10時間である。

【 0 1 2 3 】

反応終了後、本反応の目的化合物は常法に従って反応混合物から採取される。例えば、反応液中に析出した目的化合物を濾取するか、又は反応液を適宜中和し、溶媒を留去し、反応液に水を注ぎ、水と混和しない溶媒（例えばベンゼン、エーテル、酢酸エチル等）を加え抽出し、目的化合物を含む有機層を水洗後、無水硫酸マグネシウム等で乾燥し、溶媒を留去することによって目的化合物が得られる。得られる目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈澱又はクロマトグラフィー等によって更に精製できる。

【 0 1 2 4 】

本工程において、保護基の脱保護反応、アミンのN-アルキル化反応、及び、水酸基のカルボニル化反応は、目的化合物の構造に応じて何れを先に行っても良い。又、条件が共通する場合には、精製せず順次行っても良い。

(B法)

(B-1工程)

本工程は、後述するD法乃至G法によって得られるか、公知であるか、又は、公知の化合物から容易に得られる化合物(IIa)の水酸基をホルミル基へと酸化し(B-1a反応)、ホルミル基に対してウィッティッヒ反応を行い(B-1b反応)、得られた化合物を還元する(B-1c反応)ことによって化合物(V)を製造する工程である。

(B-1a反応)

使用される酸化剤としては、通常、酸化反応に使用されるものであれば特に限定はないが、好適には、二酸化マンガンのような酸化マンガン類；無水クロム酸-ピリジン錯体のようなクロム酸化合物；Swern酸化に使用される試薬類（ジメチルスルホキシド、及び、活性化剤（ジシクロヘキシルカルボジイミド、ジシクロヘキシルカルボジイミド及びピリジン-トリフルオロ酢酸、オキサリルクロリド、無水酢酸、五酸化燐、ピリジン-無水硫酸、三酸化硫黄-ピリジン、酢酸水銀、塩素又はN-クロロスクシンイミド）の組合せ）；テトラプロピルアンモニウムパールテネートのような遷移金属酸化剤；1, 1, 1-トリアセトキシ-1, 1-ジヒドロ-1, 2-ベンズイオドギソール-3 (1H)-オンのような高原子価ヨウ素酸化剤などがあげられ、更に好適にはクロム酸化合物である。

【0125】

使用される溶剤としては、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はないが、好適には、ベンゼン、トルエン、キシレンのような芳香族炭化水素類；ジクロロメタン、クロロホルム、ジクロロエタンのようなハロゲン化炭化水素類；酢酸エチルのようなエステル類；テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタン、のようなエーテル類；アセトン、メチルエチルケトンのようなケトン類；アセトニトリル、イソブチロニトリルのようなニトリル類があげられ、更に好適にはハロゲン化炭化水素類（特にジクロロメタン）であ

る。

【 0 1 2 6 】

反応温度は、溶剤、原料、試薬等により異なるが、通常、 -60 乃至 50°C である。

【 0 1 2 7 】

反応時間は、溶剤、原料、試薬、反応温度等により異なるが、通常、1乃至16時間である。

【 0 1 2 8 】

反応終了後、本反応の目的化合物は常法に従って、反応混合物から採取される。例えば、反応混合物を適宜中和し、又、不溶物が存在する場合には濾過により除去した後、水と酢酸エチルのような混和しない有機溶媒を加え、水洗後、目的化合物を含む有機層を分離し、無水硫酸マグネシウム等で乾燥後、溶剤を留去することによって得られる。得られた目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈殿又はクロマトグラフィー等によって更に精製できる。

(B-1b反応)

反応は塩基の存在下で行われる。使用される塩基としては、メチルリチウム、ブチルリチウムのようなアルキルリチウム類；水素化ナトリウム、水素化カリウムのようなアルカリ金属水素化物；リチウムアミド、ナトリウムアミド、カリウムアミドのようなアルカリ金属アミド；ナトリウムメトキシド、ナトリウムエトキシド、カリウムプロポキシド、ナトリウムブトキシド、カリウム-*n*-ブトキシド、ナトリウム-*n*-ペントキシドのようなアルカリ金属アルコキシド；リチウムヘキサメチルジシラジド、ナトリウムヘキサメチルジシラジド、カリウムヘキサメチルジシラジドのようなアルカリ金属ジシラジド類；であり、好適にはアルカリ金属水素化物、アルカリ金属アルコキシドまたはアルカリ金属ジシラジド類であり、更に好適には水素化ナトリウム、水素化カリウム、カリウム-*n*-ブトキシド、ナトリウムヘキサメチルジシラジド、カリウムヘキサメチルジシラジド、リチウムヘキサメチルジシラジドであり、特に好適には水素化ナトリウム、水素化カリウムである。

【 0 1 2 9 】

使用されるウィティッヒ試薬としては、好適には、ベンジリデントリフェニルホスホランのようなトリフェニルホスホラン及び対応するベンジルハロゲン化合物の組合せ、又は、前記組合せにより得られるホスホニウム塩である。

【0130】

使用される溶剤としては、ジエチルエーテル、ジイソプロピルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタン、ジエチレングリコールジメチルエーテルのようなエーテル類（特にテトラヒドロフラン）が好適である。

【0131】

また、本反応は、好適には窒素、ヘリウム、アルゴンのような不活性ガス気流下で行なわれる。

【0132】

反応温度は、溶剤、原料化合物、試薬等により異なるが、好適には -78°C ないし室温である。

【0133】

反応時間は、溶剤、原料化合物、試薬、反応温度等により異なるが、好適には10分間ないし5時間である。

【0134】

反応終了後、本反応の目的化合物は常法に従って反応混合物から採取される。例えば、反応終了後、反応液を塩化アンモニウム水溶液に注ぎ、水と混和しない溶剤、たとえばベンゼン、エーテル、酢酸エチルなどで抽出し、抽出液より溶剤を留去することによって得られる。得られる目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈殿またはクロマトグラフィー等によって更に精製できる。

(B-1c反応)

使用される溶媒は、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はないが、例えば、ヘキサン、シクロヘキサン、ヘプタン、リグロイン又は石油エーテルのような脂肪族炭化水素類；ベンゼン、トルエン又はキシレンのような芳香族炭化水素類；ジエチルエーテル、ジイソプロピルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタン又はジエチレングリコールジメチルエーテルのようなエーテル類；酢酸メチル又は酢酸エチルのようなエステル

ル類；或は、メタノール、エタノール、プロパノール、イソプロパノール、ブタノール又はイソブタノールのようなアルコール類であり得、好適には、エステル類（特に酢酸エチル）又はアルコール類（特にメタノール）である。

【 0 1 3 5 】

使用される接触還元触媒は、通常の接触還元反応に使用されるものであれば、特に限定はないが、例えば、パラジウム黒、パラジウム-炭素、水酸化パラジウム、水酸化パラジウム-炭素、ラネーニッケル、ロジウム-酸化アルミニウム、パラジウム-硫酸バリウム、酸化白金又は白金黒であり得、好適には、パラジウム-炭素である。

【 0 1 3 6 】

反応温度は、原料化合物、試薬等によって異なるが、通常-10℃乃至100℃であり、好適には0℃乃至50℃である。

【 0 1 3 7 】

反応時間は原料化合物、試薬、反応温度によって異なるが、通常10分間乃至48時間であり、好適には30分間乃至24時間である。

【 0 1 3 8 】

反応終了後、目的化合物は常法に従って反応混合物から採取される。例えば、反応終了後、触媒を濾去した後、濾液を留去することによって目的化合物が得られる。得られる目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈澱、クロマトグラフィーにより更に精製できる。

(B-2工程)

本工程は、B-1工程で得られた化合物(V)に、必要に応じて、保護基の脱保護反応、アミンのN-アルキル化反応、及び、水酸基のカルバモイル化反応を行い、化合物(I)を製造する工程である。

【 0 1 3 9 】

本工程は、A-2工程と同様に行われる。

(C法)

(C-1工程)

本工程は、後述するF法又はG法によって得られた化合物(VI)のカルボニル基

を還元し (C-1a反応)、更に得られた水酸基をハロゲン化した (C-1b反応) 後、アミノ化する (C-1c反応) ことにより化合物 (VII) を製造する工程である。

(C-1a反応)

使用される還元剤としては、好適には水素化アルミニウムリチウム、水素化ホウ素ナトリウムおよび水素化ジイソブチルアルミニウムのような水素化化合物であり、更に好適には水素化ホウ素ナトリウムである。

【0140】

使用される溶媒としては、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はなく、好適にはジエチルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタンのようなエーテル類；メタノール、エタノールのようなアルコール類；があげられ、好適にはエーテル類（特にテトラヒドロフラン）、アルコール類（特にメタノール）である。

【0141】

反応温度は、溶剤、原料、試薬等により異なるが、通常、 -78°C ないし 10°C であり、好適には -78°C ないし室温である。

【0142】

反応時間は、溶剤、原料、試薬、反応温度等により異なるが、通常 10 分間ないし 24 時間であり、好適には 1 ないし 10 時間である。

【0143】

反応終了後、本反応の目的化合物は常法に従って、反応混合物から採取される。例えば、反応混合物を適宜中和し、また、不溶物が存在する場合には濾過により除去した後、水と酢酸エチルのような混和しない有機溶媒を加え、水洗後、目的化合物を含む有機層を分離し、無水硫酸マグネシウム等で乾燥後、溶剤を留去することによって得られる。得られた目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈殿またはクロマトグラフィー等によって更に精製できる。

(C-1b反応)

使用されるホスフィン類は、例えば、トリメチルホスフィン、トリエチルホスフィン、トリプロピルホスフィン、トリブチルホスフィン、トリペンチルホスフィン又はトリヘキシルホスフィン等のトリ $\text{C}_1\text{--}\text{C}_6$ アルキルホスフィン；トリフ

フェニルホスフィン、トリインデニルホスフィン又はトリナフチルホスフィン等のトリ C_6-C_{10} アリールホスフィン；或はトリルジフェニルホスフィン、トリトリルホスフィン、トリメシチルホスフィン、トリブチルフェニルホスフィン又はトリ-6-エチル-2-ナフチルホスフィン等の、 C_1-C_4 アルキルを置換基として有してもよいトリ C_6-C_{10} アリールホスフィンであり得、好適にはトリ C_1-C_6 アルキルホスフィン類（特にトリメチルホスフィン、トリエチルホスフィン、トリプロピルホスフィン又はトリブチルホスフィン、）又はトリ C_6-C_{10} アリールホスフィン（特にトリフェニルホスフィン、トリインデニルホスフィン又はトリナフチルホスフィン）であり、更に好適には、トリ C_6-C_{10} アリールホスフィン（特にトリフェニルホスフィン）である。

【0144】

使用されるハロゲン化剤は、四集化炭素のような四ハロゲン化炭素である。

【0145】

使用される溶媒は、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はないが、例えば、ヘキサン、ヘプタン、リグロイン又は石油エーテルのような脂肪族炭化水素類；ベンゼン、トルエン又はキシレンのような芳香族炭化水素類；ジクロロメタン、クロロホルム、四塩化炭素、ジクロロエタン、クロロベンゼン又はジクロロベンゼンのようなハロゲン化炭化水素類；ジエチルエーテル、ジイソプロピルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタン又はジエチレングリコールジメチルエーテルのようなエーテル類；アセトニトリルのようなニトリル類；ホルムアミド、ジメチルホルムアミド、ジメチルアセトアミド、ヘキサメチルホスホラミド（HMPA）又はヘキサメチルホスホラストリアミド（HMPT）のようなアミド類；或はジメチルスルホキシド又はスルホランのようなスルホキシド類であり得、好適には、ハロゲン化炭化水素類である。

【0146】

反応温度は原料化合物、試薬等によって異なるが、通常 -10°C 乃至 100°C であり、好適には 0°C 乃至 50°C である。

【0147】

反応時間は原料化合物、試薬、反応温度によって異なるが、通常 5 分間乃至 1 0 時間であり、好適には 1 0 分間乃至 3 時間である。

【 0 1 4 8 】

反応終了後、本反応の目的化合物は常法に従って、反応混合物から採取される。例えば、反応混合物を適宜中和し、また、不溶物が存在する場合には濾過により除去した後、水と酢酸エチルのような混和しない有機溶媒を加え、水洗後、目的化合物を含む有機層を分離し、無水硫酸マグネシウム等で乾燥後、溶剤を留去することによって得られる。得られた目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈殿またはクロマトグラフィー等によって更に精製できる。

(C-1c 反応)

使用される溶媒は、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はないが、例えば、ヘキサン、ヘプタン、リグロイン又は石油エーテルのような脂肪族炭化水素類；ベンゼン、トルエン又はキシレンのような芳香族炭化水素類；ジエチルエーテル、ジイソプロピルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタン又はジエチレングリコールジメチルエーテルのようなエーテル類；メタノール、エタノールなどのアルコール類；アセトニトリルのようなニトリル類；ホルムアミド、ジメチルホルムアミド、ジメチルアセトアミド、ヘキサメチルホスホラミド (HMPA) 又はヘキサメチルホスホラストリアミド (HMPT) のようなアミド類；或はジメチルスルホキシド又はスルホランのようなスルホキシド類であり得、好適には、アルコール類である。

【 0 1 4 9 】

反応温度は原料化合物、試薬等によって異なるが、通常 0℃ 乃至 1 5 0℃ であり、好適には 0℃ 乃至 5 0℃ である。

【 0 1 5 0 】

反応時間は原料化合物、試薬、反応温度によって異なるが、通常 5 分間乃至 2 4 時間であり、好適には 1 時間乃至 2 4 時間である。

【 0 1 5 1 】

反応終了後、本工程の目的化合物は常法に従って反応混合物から採取される。例えば、反応終了後、反応液に水を加え、水と混和しない溶媒（例えばベンゼン

、エーテル、酢酸エチル等)を加えて目的化合物を抽出した後、抽出した有機層を水洗し、無水硫酸マグネシウム等を用いて乾燥させた後、溶媒を留去することによって目的化合物が得られる。得られる目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈澱、クロマトグラフィーにより更に精製できる。

(C-2工程)

本工程は、C-1工程で得られた化合物(VII)に、必要に応じて、保護基の脱保護反応、アミンのN-アルキル化反応、及び、水酸基のカルバモイル化反応を行い、化合物(I)を製造する工程である。

【 0 1 5 2 】

本工程は、A-2工程と同様に行われる。

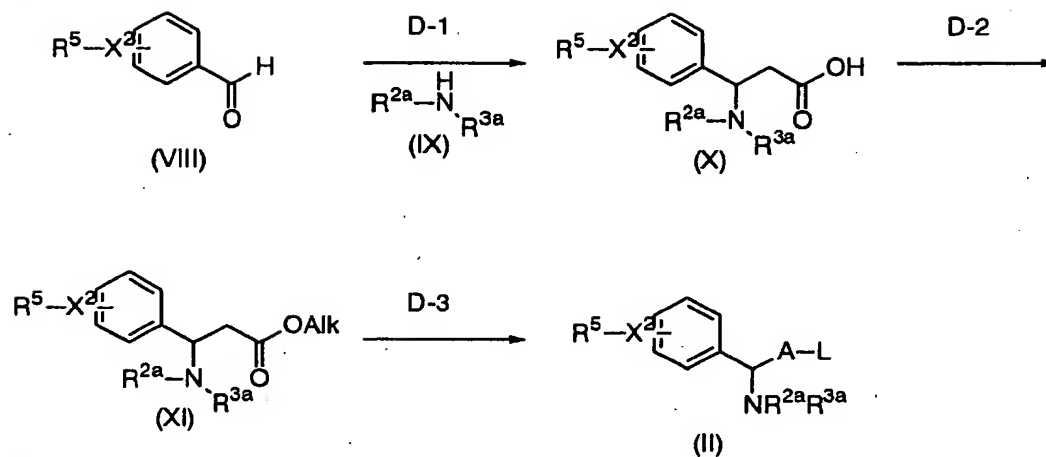
【 0 1 5 3 】

上記A法乃至B法に用いられる化合物(II)は下記D法又はE法により、C法に用いられる化合物(VI)は下記F法又はG法により得ることができる。

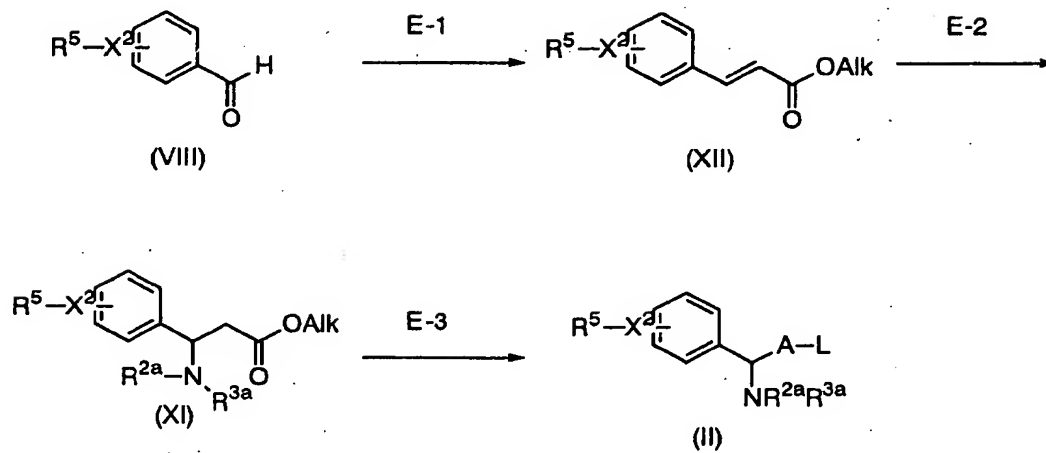
【 0 1 5 4 】

【化 7】

D法



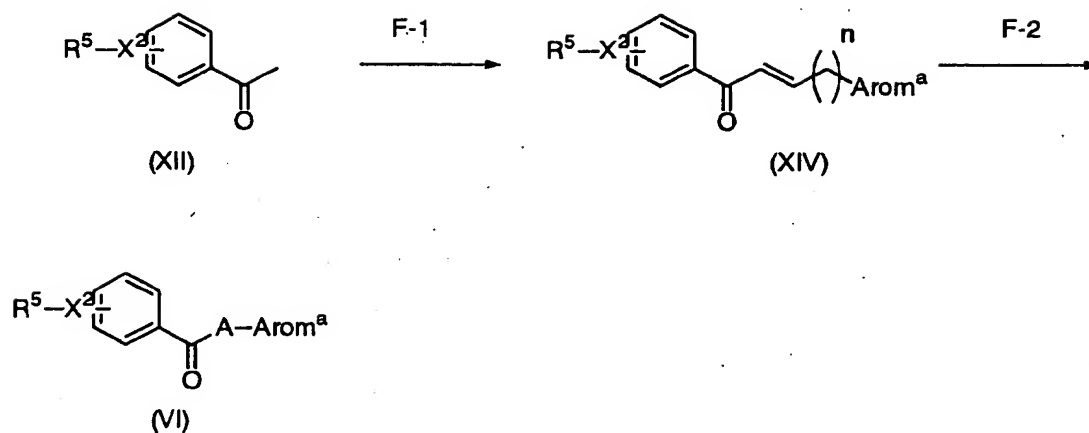
E法



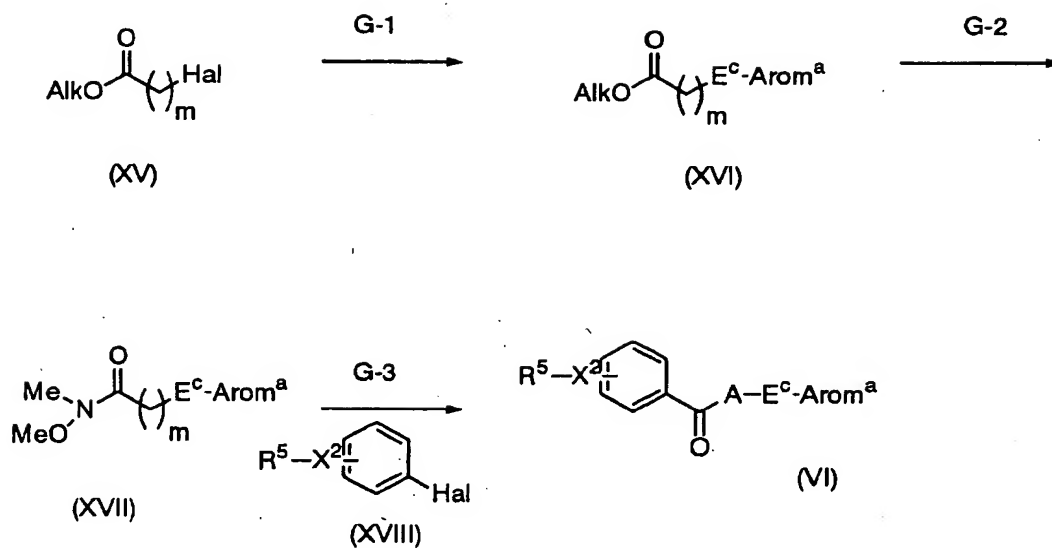
【0155】

【化 8】

F法



G法



【0156】

上記において、 R^5 、 R^{2a} 、 R^{3a} 、A、 Arom^a 、 E^c 、L及び X^2 は前述と同意義を表し、Alkは C_1 乃至 C_6 のアルキル基を示し、Halはハロゲン原子を示し、nは0乃至4の整数を示し、mは1乃至6の整数を示す。

【0157】

以下、D法乃至G法について詳述する。

(D法)

(D-1工程)

本工程は、公知であるか、公知の化合物から容易に得られる化合物 (VIII)、化合物 (IX)、及び、マロン酸を反応させ、化合物 (X) を製造する工程である。

【0158】

本工程は、ヘルベチカ・キミカ・アクタ、第79巻、1085頁(1996年) : [Helv. Chim. Acta, 68, 403 (1985).] に記載の方法に従い、反応させることによって達成される。

【0159】

使用される溶媒は、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はないが、例えば、ヘキサン、シクロヘキサン、ヘプタン、リグロイン又は石油エーテルのような脂肪族炭化水素類；ベンゼン、トルエン又はキシレンのような芳香族炭化水素類；ジクロロメタン、クロロホルム、四塩化炭素、1, 2-ジクロロエタン、クロロベンゼン又はジクロロベンゼンのようなハロゲン化炭化水素類；ジエチルエーテル、ジイソプロピルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタン又はジエチレングリコールジメチルエーテルのようなエーテル類；酢酸メチル又は酢酸エチルのようなエステル類；或は、メタノール、エタノール、プロパノール、イソプロパノール、ブタノール又はイソブタノールのようなアルコール類であり得、好適には、アルコール類（特にエタノール又はプロパノール）である。

【0160】

反応温度は、原料化合物、試薬等によって異なるが、通常0℃乃至150℃であり、好適には50℃乃至100℃である。

【0161】

反応時間は原料化合物、試薬、反応温度によって異なるが、通常30分間乃至24時間であり、好適には1時間乃至12時間である。

【0162】

反応終了後、目的化合物は常法に従って反応混合物から採取される。例えば、反応終了後、目的化合物をろ取することにより得られる。本工程の目的化合物は

、精製することなく次工程に用いることができる。

【0163】

又、本反応の目的化合物は、必要に応じて、既知の方法（例えば、“Protective Groups in Organic Synthesis”（Theodora W. Greene, Peter G. M. Wuts著、1999年、A Wiley-Interscience Publication発行）等に記載の方法）に準じて、水酸基、アミノ基に保護基を導入することができる。更に、保護基を導入する反応は、本工程以外の任意の工程で用いても良く、当業者であれば、目的化合物に応じて、保護基を導入するに際して適切な工程を容易に選択することができる。

【0164】

即ち、水酸基に保護基を導入する場合は、例えば、以下の様に行われる。

【0165】

使用される水酸基を保護する化合物としては、例えば、ベンジルクロリド、ベンジルブロミド、4-ニトロベンジルブロミド、4-メトキシベンジルブロミドのようなアラルキルハライド化合物；メトキシメチルクロリド、メチルチオメチルクロリド、エトキシエチルクロリド、ベンジルオキシメチルクロリドのようなアルコキシ、アルキルチオもしくはアラルキルオキシ置換アルキルハライド化合物；メチルビニルエーテル、エチルビニルエーテルのような不飽和エーテル類；ヘキサメチルジシラザン、トリメチルシリルクロリド、トリ-n-プロピルシリルクロリド、t-ブチルジメチルシリルクロリド、ジフェニル-t-ブチルシリルクロリドのようなシリル化合物；などを好適な化合物としてあげることができる。

【0166】

使用される試薬としては、例えば、トリエチルアミン、ピリジン、4-N, N-ジメチルアミノピリジン、イミダゾール、1, 8-ジアザビシクロ[5. 4. 0]ウンデカ-7-エン（DBU）のような有機塩基または水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、炭酸カリウムのような無機塩基の存在下に、反応させることができる。不飽和エーテル類を使用する場合には、反応は不活性溶剤の存在下または不存在下少量の酸、例えば塩酸、臭化水素酸のような鉱酸またはピクリン酸、

トリフルオロ酢酸、ベンゼンスルホン酸、4-トルエンスルホン酸、カンファースルホン酸のような有機酸の存在下で実施される。使用される溶剤としては、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はなく、例えばエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサンのようなエーテル類；ホルムアミド、ジメチルホルムアミド、ジメチルアセトアミドのようなアミド類；ジクロロメタン、クロロホルム、四塩化炭素のようなハロゲン化炭化水素類；またはベンゼン、トルエン、キシレンのような芳香族炭化水素類；をあげることができるが、好適にはアミド類（特にジメチルホルムアミド）及びハロゲン化炭化水素類である。また、不活性溶剤の不存在下、溶剤を兼ねてビニルエーテル化合物を過剰に使用することによっても反応は行われる。

【0167】

反応温度は、溶剤、原料、試薬等により異なるが、通常0℃ないし50℃である。

【0168】

反応時間は、溶剤、原料、試薬、反応温度等により異なるが、通常30分間ないし3時間である。

【0169】

反応終了後、本反応の目的化合物は常法に従って、反応混合物から採取される。例えば、反応混合物を適宜中和し、また、不溶物が存在する場合には濾過により除去した後、水と酢酸エチルのような混和しない有機溶媒を加え、水洗後、目的化合物を含む有機層を分離し、無水硫酸マグネシウム等で乾燥後、溶剤を留去することによって得られる。得られた目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈殿またはクロマトグラフィー等によって更に精製できる。

【0170】

又、アミノ基に保護基を導入する場合には、例えば、以下の様に行われる。

【0171】

化合物を、＜方法1＞ 不活性溶媒中、塩基存在下又は不存在下（好適には塩基不存在下）、1乃至4当量（好適には、2乃至3当量）の、一般式 P^1-LG を有する化合物又は一般式 P^1-O-P^1 を有する化合物（ P^1 がアシル基の場合）

と反応させるか、＜方法2＞ 不活性溶媒中、縮合剤及び触媒量の塩基存在下又は不存在下（好適には存在下）、一般式 P^1-OH を有する化合物（ P^1 がアシル基の場合）と反応させるか、或は、＜方法3＞ 不活性溶媒中、ハロゲン化磷酸ジアルキルエステル類（好適には、塩化磷酸ジエチル）及び塩基存在下、一般式 P^1-OH を有する化合物（ P^1 がアシル基の場合）と反応させることにより達成される。

【0172】

上記に於て、LGの脱離基は、前述と同様の基を挙げることができる。。

【0173】

上記＜方法1＞で使用される、一般式 P^1-LG を有する化合物は、例えば、*t*-ブトキシカルボニルクロライド、*t*-ブトキシカルボニルブロマイド、2-トリメチルシリルエトキシカルボニルクロライド、2-トリメチルシリルエトキシカルボニルブロマイド、*p*-メトキシベンジルオキシカルボニルクロライド、*p*-メトキシベンジルオキシカルボニルブロマイド、アリルオキシカルボニルクロライド又はアリルオキシカルボニルブロマイドであり得、好適には*t*-ブトキシカルボニルクロライドである。

【0174】

＜方法1＞で使用される、一般式 P^1-O-P^1 を有する化合物は、例えば、ジ-*t*-ブチルジカーボネート、無水2-トリメチルシリルエトキシカルボン酸、*p*-メトキシベンジルオキシカルボン酸又は無水アリルオキシカルボン酸であり得、好適にはジ-*t*-ブチルジカーボネートである。

【0175】

＜方法1＞で使用される溶媒は、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はないが、例えば、ヘキサン又はヘプタンのような脂肪族炭化水素類；ベンゼン、トルエン又はキシレンのような芳香族炭化水素類；ジクロロメタン、クロロホルム、四塩化炭素、ジクロロエタン、クロロベンゼン又はジクロロベンゼンのようなハロゲン化炭化水素類；蟻酸エチル、酢酸エチル、酢酸プロピル、酢酸ブチル又は炭酸ジエチルのようなエステル類；ジエチルエーテル、ジイソプロピルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシ

エタン又はジエチレングリコールジメチルエーテルのようなエーテル類；アセトニトリル又はイソブチロニトリルのようなニトリル類；或は、ホルムアミド、N，N-ジメチルホルムアミド、N，N-ジメチルアセトアミド、N-メチル-2-ピロリドン、N-メチルピロリジノン又はヘキサメチルホスホロトリアミドのようなアミド類であり得、好適には、エーテル類（特にジエチルエーテル又はテトラヒドロフラン）、ハロゲン化炭化水素類（特にジクロロメタン）である。

【0176】

＜方法1＞で使用される塩基は、例えば、N-メチルモルホリン、トリエチルアミン、トリブチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン、ジシクロヘキシルアミン、N-メチルピペリジン、ピリジン、4-ピロリジノピリジン、ピコリン、4-(N，N-ジメチルアミノ)ピリジン、2，6-ジ(ターシャリーブチル)-4-メチルピリジン、イミダゾール、キノリン、N，N-ジメチルアニリン又はN，N-ジエチルアニリンのような有機アミン類であり得、好適には、トリエチルアミン又は4-(N，N-ジメチルアミノ)ピリジンである。

【0177】

尚、4-(N，N-ジメチルアミノ)ピリジン及び4-ピロリジノピリジンは、他の塩基と組み合わせて、触媒量を用いることもでき、又、反応を効果的に行わせるために、ベンジルトリエチルアンモニウムクロライド又はテトラブチルアンモニウムクロライドのような第4級アンモニウム塩類或はジベンゾ-18-クラウン-6のようなクラウンエーテル類等を添加することもできる。

【0178】

＜方法1＞の反応温度は、通常、-20℃乃至100℃で行なわれるが、好適には、-10℃乃至50℃である。

【0179】

＜方法1＞の反応時間は、主に反応温度、原料化合物、使用される塩基又は使用される溶媒の種類によって異なるが、通常、10分間乃至1日間であり、好適には、30分間乃至12時間である。

【0180】

上記＜方法2＞及び＜方法3＞で使用される一般式 P^1-OH を有する化合

物は、例えば *t*-ブトキシカルボン酸、2-トリメチルシリルエトキシカルボン酸、*p*-メトキシベンジルオキシカルボン酸又はアリルオキシカルボン酸であり得、好適にはピバル酸である。

【0181】

上記＜方法2＞で使用される溶媒は、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はないが、例えば、ヘキサン又はヘプタンのような脂肪族炭化水素類；ベンゼン、トルエン又はキシレンのような芳香族炭化水素類；ジクロロメタン、クロロホルム、四塩化炭素、ジクロロエタン、クロロベンゼン又はジクロロベンゼンのようなハロゲン化炭化水素類；蟻酸エチル、酢酸エチル、酢酸プロピル、酢酸ブチル又は炭酸ジエチルのようなエステル類；ジエチルエーテル、ジイソプロピルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタン又はジエチレングリコールジメチルエーテルのようなエーテル類；アセトニトリル又はイソブチロニトリルのようなニトリル類；或は、ホルムアミド、*N,N*-ジメチルホルムアミド、*N,N*-ジメチルアセトアミド、*N*-メチル-2-ピロリドン、*N*-メチルピロリジノン又はヘキサメチルホスホロトリアミドのようなアミド類であり得、好適にはハロゲン化炭化水素類（ジクロロメタン又は四塩化炭素）或はエーテル類（特にジエチルエーテル、テトラヒドロフラン又はジオキサン）である。

【0182】

＜方法2＞で使用される縮合剤は、例えば、ジシクロヘキシルカルボジイミド、カルボニルジイミダゾール又は1-メチル-2-クロロ-ピリジニウムヨージド-トリエチルアミンであり得、好適にはジシクロヘキシルカルボジイミドである。

【0183】

＜方法2＞で使用される塩基は、例えば、上記＜方法1＞で使用されるものと同様であり得、好適にはトリエチルアミン又は4-(*N,N*-ジメチルアミノ)ピリジンである。

【0184】

＜方法2＞の反応温度は、-20℃乃至80℃で行なわれるが、好適には、0

℃乃至30℃である。

【0185】

＜方法2＞の反応時間は、主に反応温度、原料化合物、反応試薬又は使用される溶媒の種類によって異なるが、通常、10分間乃至3日間で、好適には、30分間乃至1日間である。

【0186】

上記＜方法3＞で使用される溶媒は、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はないが、例えば、ヘキサン又はヘプタンのような脂肪族炭化水素類；ベンゼン、トルエン又はキシレンのような芳香族炭化水素類；ジクロロメタン、クロロホルム、四塩化炭素、ジクロロエタン、クロロベンゼン又はジクロロベンゼンのようなハロゲン化炭化水素類；蟻酸エチル、酢酸エチル、酢酸プロピル、酢酸ブチル又は炭酸ジエチルのようなエステル類；ジエチルエーテル、ジイソプロピルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタン又はジエチレングリコールジメチルエーテルのようなエーテル類；アセトニトリル又はイソブチロニトリルのようなニトリル類；或は、ホルムアミド、N，N-ジメチルホルムアミド、N，N-ジメチルアセトアミド、N-メチル-2-ピロリドン、N-メチルピロリジノン又はヘキサメチルホスホロトリアミドのようなアミド類であり得、好適にはエーテル類（ジエチルエーテル又はテトラヒドロフラン）或はアミド類（N，N-ジメチルホルムアミド又はN，N-ジメチルアセトアミド）である。

【0187】

＜方法3＞で使用される塩基は、例えば、上記＜方法1＞で使用されるものと同様であり得、好適にはトリエチルアミン又は4-(N，N-ジメチルアミノ)ピリジンである。

【0188】

＜方法3＞の反応温度は、0℃乃至使用される溶媒の還流温度で行なわれるが、好適には、20℃乃至50℃である。

【0189】

＜方法3＞の反応時間は、主に反応温度、原料化合物、反応試薬又は使用され

る溶媒の種類によって異なるが、通常、10分間乃至3日間で、好適には、30分間乃至1日間である。

【0190】

反応終了後、上記方法で得られる目的化合物は、常法に従って反応混合物から採取される。例えば、反応終了後、溶媒を留去すること、又は溶媒を留去した残渣に水を注ぎ、水と混和しない溶媒（例えばベンゼン、エーテル、酢酸エチル等）を加えて目的化合物を抽出し、抽出した有機層を水洗後、無水硫酸マグネシウム等を用いて乾燥させ、溶媒を留去することによって目的化合物が得られる。得られる目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈澱又はクロマトグラフィー等によって更に精製できる。

(D-2工程)

本工程は、D-1工程で得られた化合物(X)のカルボキシ基をエステル化し、化合物(XI)を製造する工程である。

【0191】

使用される溶媒としては、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はないが、好適には、水；ヘキサン、ヘプタン、リグロイン、石油エーテルのような脂肪族炭化水素類；ベンゼン、トルエン、キシレンのような芳香族炭化水素類；メチレンクロリド、クロロホルム、四塩化炭素、ジクロロエタン、クロロベンゼン、ジクロロベンゼンのようなハロゲン化炭化水素類；蟻酸エチル、酢酸エチル、酢酸プロピル、酢酸ブチル、炭酸ジエチルのようなエステル類；ジエチルエーテル、ジイソプロピルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタン、ジエチレングリコールジメチルエーテルのようなエーテル類；ニトロエタン、ニトロベンゼンのようなニトロ化合物類；アセトニトリル、イソブチロニトリルのようなニトリル類；ホルムアミド、ジメチルホルムアミド、ジメチルアセトアミド、ヘキサメチルホスホロトリアミドのようなアミド類；ジメチルスルホキシド、スルホランのようなスルホキシド類を挙げることができる。また、本反応においては、エタノールのようなエステル化試薬を溶媒として用いることもできる。

【0192】

使用されるエステル化試薬は、メタノール、エタノールのようなアルコール類と硫酸のような無機酸との組合せ；ジメチル硫酸のようなアルキル化無機酸；ジアソメタンのようなアルキルジアソ化合物を挙げることができる。

【 0 1 9 3 】

反応温度は、原料化合物、試薬等によって異なるが、通常 0℃乃至 150℃であり、好適には 20℃乃至 100℃である。

【 0 1 9 4 】

反応時間は原料化合物、試薬、反応温度によって異なるが、通常 30 分間乃至 24 時間であり、好適には 1 時間乃至 12 時間である。

【 0 1 9 5 】

反応終了後、目的化合物は常法に従って反応混合物から採取される。例えば、反応終了後、目的化合物をろ取することにより得られる。例えば、反応終了後、反応液に水を加え、水と混和しない溶媒（例えばベンゼン、エーテル、酢酸エチル等）を加えて目的化合物を抽出した後、抽出した有機層を水洗し、無水硫酸マグネシウム等を用いて乾燥させた後、溶媒を留去することによって目的化合物が得られる。得られる目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈澱、クロマトグラフィーにより更に精製できる。

(D-3工程)

本工程は、D-2工程で得られた化合物 (XI) のエステルを還元し、化合物 (II) を製造する工程である。

【 0 1 9 6 】

使用される還元剤としては、好適には水素化アルミニウムリチウム、水素化ホウ素ナトリウム、水素化ホウ素リチウムおよび水素化ジイソブチルアルミニウムのような水素化化合物であり、更に好適には水素化アルミニウムリチウムである。

【 0 1 9 7 】

使用される溶剤としては、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はなく、好適にはジエチルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタンのようなエーテル類があげられ、好適にはエーテル

類（特にテトラヒドロフラン）である。

【0198】

反応温度は、溶剤、原料、試薬等により異なるが、通常、 -78°C ないし 10°C であり、好適には -78°C ないし室温である。

【0199】

反応時間は、溶剤、原料、試薬、反応温度等により異なるが、通常10分間ないし24時間であり、好適には1ないし10時間である。

【0200】

反応終了後、本反応の目的化合物は常法に従って、反応混合物から採取される。例えば、反応混合物を適宜中和し、また、不溶物が存在する場合には濾過により除去した後、水と酢酸エチルのような混和しない有機溶媒を加え、水洗後、目的化合物を含む有機層を分離し、無水硫酸マグネシウム等で乾燥後、溶剤を留去することによって得られる。得られた目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈殿またはクロマトグラフィー等によって更に精製できる。

【0201】

又、目的化合物のAがメチレン基以外の化合物である場合には、更に、水酸基部分をシアノ基に置換し（D-3a反応）、還元によりホルミル基とした（D-3b反応）後、更に水酸基に還元する（D-3c反応）ことで1炭素増炭したエチレン基とすることができ、この工程を複数回繰り返すことにより、所望の化合物（II）を製造することができる。

（D-3a反応）

本反応は、（ α ）化合物の水酸基にアルキル又はアリアルスルホニルハライド（好適には、メタンスルホニルクロリド）を反応させた後、（ β ）アルキル金属シアニド（好適にはシアン化ナトリウム、シアン化カリウム）を作用させることにより達成される。

（ α ）水酸基とスルホニルハライドの反応

使用される溶剤としては、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はないが、好適には、ベンゼンのような芳香族炭化水素類；ジクロロメタン、クロロホルムのようなハロゲン化炭化水素類；ジエチルエーテル

、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタンのようなエーテル類があげられ、好適にはエーテル類（特にテトラヒドロフラン）である。

【0202】

使用される塩基としては、トリエチルアミン、ジイソプロピルアミン、イソプロピルエチルアミン、N-メチルモルホリン、ピリジン、4-(N, N-ジメチルアミノ)ピリジン、N, N-ジメチルアニリン、N, N-ジエチルアニリンのような有機塩基類があげられ、好適にはトリエチルアミンである。

【0203】

反応温度は、溶剤、原料、試薬等により異なるが、通常、-20乃至50℃であり、好適には0乃至25℃である。

【0204】

反応時間は、溶剤、原料、試薬、反応温度等により異なるが、通常、5分乃至10時間であり、好適には10分乃至3時間である。

【0205】

反応終了後、本工程の目的化合物は常法に従って反応混合物から採取される。例えば、反応終了後、反応液に水を加え、水と混和しない溶媒（例えばベンゼン、エーテル、酢酸エチル等）を加えて目的化合物を抽出した後、抽出した有機層を水洗し、無水硫酸マグネシウム等を用いて乾燥させた後、溶媒を留去することによって目的化合物が得られる。得られる目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈澱、クロマトグラフィーにより更に精製できる。本工程の目的化合物は、精製することなく次工程に用いることができる。

(β) シアン化物との反応

使用される溶剤としては、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はないが、好適には、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタンのようなエーテル類；アセトニトリル、イソブチロニトリルのようなニトリル類；ホルムアミド、ジメチルホルムアミド、ジメチルアセトアミド、ヘキサメチルホスホロトリアミドのようなアミド類；ジメチルスルホキシド、スルホランのようなスルホキシド類があげられ、好適にはアミド類（特にジメチルホルムアミド）である。

【0206】

本反応ではクラウンエーテル化合物を添加することが出来る。使用されるクラウンエーテル化合物は、例えば12-クラウン-4、15-クラウン-5、18-クラウン-6、1-アザ-12-クラウン-4、1-アザ-15-クラウン-5、1-アザ-18-クラウン-6、ベンゾ-15-クラウン-5、4'-ニトロベンゾ-15-クラウン-5、ベンゾ-18-クラウン-6、ジベンゾ-18-クラウン-6、ジベンゾ-24-クラウン-8、ジシクロヘキサノ-18-クラウン-6、ジシクロヘキサノ-24-クラウン-8であり、好適には15-クラウン-5、18-クラウン-6、1-アザ-15-クラウン-5、1-アザ-18-クラウン-6、ベンゾ-15-クラウン-5、4'-ニトロベンゾ-15-クラウン-5、ベンゾ-18-クラウン-6、ジベンゾ-18-クラウン-6またはジシクロヘキサノ-18-クラウン-6であり、更に好適には15-クラウン-5、18-クラウン-6、1-アザ-18-クラウン-6、ベンゾ-18-クラウン-6、ジベンゾ-18-クラウン-6またはジシクロヘキサノ-18-クラウン-6であり、特に好適には15-クラウン-5又は18-クラウン-6である。

【0207】

反応温度は、溶剤、原料、試薬等により異なるが、通常、0乃至180℃であり、好適には0乃至50℃である。

【0208】

反応時間は、溶剤、原料、試薬、反応温度等により異なるが、通常、1乃至24時間であり、好適には2乃至12時間である。

【0209】

反応終了後、本工程の目的化合物は常法に従って反応混合物から採取される。例えば、反応終了後、反応液に水を加え、水と混和しない溶媒（例えばベンゼン、エーテル、酢酸エチル等）を加えて目的化合物を抽出した後、抽出した有機層を水洗し、無水硫酸マグネシウム等を用いて乾燥させた後、溶媒を留去することによって目的化合物が得られる。得られる目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈澱、クロマトグラフィーにより更に精製できる。

(D-3b反応)

使用される還元剤としては、好適には、水素化ジイソブチルアルミニウムである。

【0210】

使用される溶剤としては、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はなく、好適にはジエチルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタンのようなエーテル類；ジクロロメタン、クロロホルム、ジクロロエタンのようなハロゲン化炭化水素類；ベンゼン、トルエン、キシレンの様な芳香族炭化水素類；ペンタン、ヘキサンの様な脂肪族炭化水素類であり、更に好適にはジクロロメタンのようなハロゲン化炭化水素類である。

【0211】

また、本工程は、好適には窒素、ヘリウム、アルゴンのような不活性ガス気流下で行われる。

【0212】

反応温度は、溶剤、原料、試薬等により異なるが、通常 -78°C ないし 50°C であり、好適には -20°C ないし室温である。

【0213】

反応時間は、溶剤、原料、試薬、反応温度等により異なるが、通常10分間ないし24時間であり、好適には1ないし5時間である。

【0214】

反応終了後、本反応の目的化合物は常法に従って、反応混合物から採取される。例えば、反応混合物を適宜中和し、また、不溶物が存在する場合には濾過により除去した後、水と酢酸エチルのような混和しない有機溶媒を加え、水洗後、目的化合物を含む有機層を分離し、無水硫酸マグネシウム等で乾燥後、溶剤を留去することによって得られる。得られた目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈殿またはクロマトグラフィー等によって更に精製できる。本工程の目的化合物は、精製することなく次工程に用いることができる。

(D-3c反応)

使用される還元剤としては、好適には水素化アルミニウムリチウム、水素化ホ

ウ素ナトリウムおよび水素化ジイソブチルアルミニウムのような水素化化合物であり、更に好適には水素化ホウ素ナトリウムである。

【0215】

使用される溶媒としては、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はなく、好適にはジエチルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタンのようなエーテル類；メタノール、エタノールのようなアルコール類；があげられ、好適にはエーテル類（特にテトラヒドロフラン）、アルコール類（特にメタノール）である。

【0216】

反応温度は、溶剤、原料、試薬等により異なるが、通常、 -78°C 乃至 100°C であり、好適には -78°C 乃至室温である。

【0217】

反応時間は、溶剤、原料、試薬、反応温度等により異なるが、通常10分間乃至24時間であり、好適には1乃至10時間である。

【0218】

反応終了後、本反応の目的化合物は常法に従って、反応混合物から採取される。例えば、反応混合物を適宜中和し、また、不溶物が存在する場合には濾過により除去した後、水と酢酸エチルのような混和しない有機溶媒を加え、水洗後、目的化合物を含む有機層を分離し、無水硫酸マグネシウム等で乾燥後、溶剤を留去することによって得られる。得られた目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈殿またはクロマトグラフィー等によって更に精製できる。

【0219】

又、本反応の目的化合物は、必要に応じて、既知の方法によって、脱離基を導入することができる。

【0220】

即ち、脱離基がハロゲン原子である場合には、(C-1b反応)の方法に準じ、スルホニルオキシ基である場合には(D-3a反応) (α)の方法に準じて目的化合物を得ることができる。

(E法)

(E-1工程)

本工程は、酢酸エステル誘導体を塩基でエノール化した後、公知であるか、公知の化合物から容易に得られる化合物 (VIII) と反応させて、化合物 (XII) を製造する工程である。

【 0 2 2 1 】

使用される溶媒は、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はないが、例えば、ヘキサン、シクロヘキサン、ヘプタン、リグロイン又は石油エーテルのような脂肪族炭化水素類；ベンゼン、トルエン又はキシレンのような芳香族炭化水素類；ジエチルエーテル、ジイソプロピルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタン又はジエチレングリコールジメチルエーテルのようなエーテル類；ホルムアミド、N, N-ジメチルホルムアミド、N, N-ジメチルアセトアミド又はN-メチル-2-ピロリジノンのようなアミド類；或はジメチルスルホキシド又はスルホランのようなスルホキシド類であり得、好適には、アルコール類（特にメタノール、エタノール）である。

【 0 2 2 2 】

塩基は、例えば、水酸化リチウム、水酸化ナトリウム又は水酸化カリウムのようなアルカリ金属水酸化物類；水素化リチウム、水素化ナトリウム又は水素化カリウムのようなアルカリ金属水素化物類；メチルリチウム、エチルリチウム又はブチルリチウムのようなアルキルリチウム類；或は、リチウムジイソプロピルアミド、リチウムジシクロヘキシルアミド又はリチウムビス（トリメチルシリル）アミドのようなりチウムアルキルアミド類であり得、好適には、アルカリ金属水酸化物類（特に水酸化カリウム）である。

【 0 2 2 3 】

反応温度は原料化合物、試薬等によって異なるが、通常-100℃乃至50℃であり、好適には0℃乃至室温である。

【 0 2 2 4 】

反応時間は原料化合物、試薬、反応温度によって異なるが、通常5分間乃至24時間であり、好適には1時間乃至12時間である。

【 0 2 2 5 】

反応終了後、目的化合物は常法に従って反応混合物から採取される。例えば、反応終了後、反応液に水を加え、水と混和しない溶媒（例えばベンゼン、エーテル、酢酸エチル等）を加えて目的化合物を抽出した後、抽出した有機層を水洗し、無水硫酸マグネシウム等を用いて乾燥させた後、溶媒を留去することによって目的化合物が得られる。得られる目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈澱、クロマトグラフィーにより更に精製できる。本工程により複数の化合物が化合物えらる場合があるが、当業者であれば、通常の手段（例えば、NMRスペクトルにおけるカップリングコンスタントの測定等を挙げることができる。）を用いて、何れの化合物が所望の化合物であるか容易に判別することができ、目的化合物を得ることができる。

(E-2)

本工程は、化合物 (XII) に金属アミドを用いたマイケル付加を行い、化合物 (XI) を製造する工程である。

【0226】

本工程は、テトラヘドロン：エーシンメトリー、第2巻、183頁（1991年）：[Tetrahedron: Asymmetry, 2, 183 (1991)] に記載のベンジルフェニルエチルアミンから誘導される金属アミドの付加反応によって達成できる。

【0227】

使用される溶媒は、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はないが、例えば、ヘキサン、シクロヘキサン、ヘプタン、リグロイン又は石油エーテルのような脂肪族炭化水素類；ベンゼン、トルエン又はキシレンのような芳香族炭化水素類；ジエチルエーテル、ジイソプロピルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタン又はジエチレングリコールジメチルエーテルのようなエーテル類；或は、ホルムアミド、N, N-ジメチルホルムアミド、N, N-ジメチルアセトアミド、N-メチル-2-ピロリドン、N-メチルピロリジノン又はヘキサメチルホスホロトリアミドのようなアミド類であり得、好適には、エーテル類（特にテトラヒドロフラン）である。

【0228】

反応は塩基の存在下で行われる。使用される塩基としては、メチルリチウム、ブチルリチウムのようなアルキルリチウム類；リチウムヘキサメチルジシラジド、ナトリウムヘキサメチルジシラジド、カリウムヘキサメチルジシラジドのようなアルカリ金属ジシラジド類；リチウムジイソプロピルアミド、リチウムジシクロヘキシルアミドのようなリチウムアミド類であり、好適にはアルキルリチウム類（特にブチルリチウム）である。

【0229】

反応温度は、原料化合物、試薬等によって異なるが、通常 -78°C 乃至 40°C であり、好適には -78°C 乃至 0°C である。

【0230】

反応時間は原料化合物、試薬、反応温度によって異なるが、通常10分間乃至2.4時間であり、好適には10分間乃至4時間である。

【0231】

反応終了後、目的化合物は常法に従って反応混合物から採取される。例えば、反応終了後、触媒を濾去した後、濾液を留去することによって目的化合物が得られる。得られる目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈澱、クロマトグラフィーにより更に精製できる。

(E-3工程)

本工程は、E-2工程で得られた化合物(XI)のエステルを還元し、化合物(II)を製造する工程である。

【0232】

本工程はD-3工程と同様に行われる。

(F法)

(F-1工程)

本工程は、公知であるか、公知の化合物から容易に得られる化合物(XII)を塩基によって、エノール化した後、アルデヒドと反応させることにより化合物(XIV)を製造する工程である。

【0233】

本反応は、E-1工程と同様に行われる。

(F-2工程)

本工程は、F-1工程で得られた化合物 (XIV) を還元することにより化合物 (VI) を製造する工程である。

【 0 2 3 4 】

本工程は、(B-1c反応)と同様に行われる。

(G法)

(G-1工程)

本工程は、公知であるか、公知の化合物から容易に得られる化合物 (XV) を塩基の存在下、一般式 R^3-E^C-H (式中、 R^3 及び E^C は前述と同意義を示す。) で表される化合物と反応させることにより、化合物 (XVI) を製造する工程である。

【 0 2 3 5 】

本工程は、A-1工程と同様に行われる。

(G-2工程)

本工程は、G-1で得られた化合物 (XVI) のエステルを加水分解し (G-2a反応)、更にアミド化する (G-2b反応) 工程である。

(G-2a反応)

塩基としては、好適には炭酸ナトリウム、炭酸カリウムのようなアルカリ金属炭酸塩、水酸化ナトリウム、水酸化カリウムのようなアルカリ金属水酸化物又は濃アンモニア-メタノール溶液が用いられる。

【 0 2 3 6 】

使用される溶媒としては、水又はメタノール、エタノール、n-プロパノールのようなアルコール類若しくはテトラヒドロフラン、ジオキサンのようなエーテル類のような有機溶媒と水との混合溶媒が好適である。

【 0 2 3 7 】

反応温度及び反応時間は、出発物質、溶媒及び用いる試薬等により異なり、特に限定はないが、副反応を抑制するために、通常は 0°C 乃至 150°C で、1 乃至 10 時間実施される。

【 0 2 3 8 】

反応終了後、目的化合物は常法に従って反応混合物から採取される。例えば、

反応終了後、濾液を留去することによって目的化合物が得られる。得られる目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈澱、クロマトグラフィーにより更に精製できる。

(G-2b反応)

反応は、ペプチド合成法における常法、例えば活性エステル法、混合酸無水物法または縮合法に従い行われる。

1) 活性エステル法は、不活性溶媒中、化合物と活性エステル化剤を反応させ、活性エステルを製造した後、不活性溶媒中、N, O-ジメチルヒドロキシルアミンと反応させることによって行われる。

【0239】

使用される活性エステル化剤は、例えばN-ヒドロキシコハク酸イミド、1-ヒドロキシベンゾトリアゾールまたはN-ヒドロキシー-5-ノルボルネン-2, 3-ジカルボキシイミドのようなN-ヒドロキシ化合物；ジピリジルジスルフィドのようなジスルフィド化合物；である。更に活性エステル化反応は、ジシクロヘキシルカルボジイミド、カルボニルジイミダゾールまたはトリフェニルホスフィンのような縮合剤の存在下で好適に行われる。

【0240】

両反応に於て使用される溶剤は、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はなく、例えばジクロロメタン、クロロホルム、四塩化炭素、ジクロロエタン、クロロベンゼンまたはジクロロベンゼンのようなハロゲン化炭化水素類；ジエチルエーテル、ジイソプロピルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタンまたはジエチレングリコールジメチルエーテルのようなエーテル類；アセトニトリルまたはイソブチロニトリルのようなニトリル類；ホルムアミド、ジメチルホルムアミド、ジメチルアセトアミド、ヘキサメチルホスホラミド (HMPA)、ヘキサメチルホスホラストリアミド (HMPT) のようなアミド類；であり、好適にはエーテル類（特にテトラヒドロフラン）、ニトリル類（特にアセトニトリル）またはアミド類（特にジメチルホルムアミド）である。

【0241】

反応温度は、原料化合物、試薬等によって異なるが、通常、活性エステル化反応では -20°C ないし 100°C であり、好適には 0°C ないし 50°C である。活性エステル化合物との反応では -20°C ないし 100°C であり、好適には 0°C ないし 50°C である。

【 0 2 4 2 】

反応時間は原料化合物、試薬、反応温度によって異なるが、両反応ともに、通常30分間ないし24時間であり、好適には1時間ないし12時間である。

【 0 2 4 3 】

反応終了後、本反応の目的化合物は常法に従って反応混合物から採取される。例えば反応終了後、溶剤を留去すること、または溶剤を留去した残渣に水を注ぎ、水と混和しない溶剤（例えばベンゼン、エーテル、酢酸エチル等）を加えて目的化合物を抽出し、抽出した有機層を水洗した後、無水硫酸マグネシウム等を用いて乾燥させ、溶剤を留去することによって目的化合物が得られる。得られる目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈殿またはクロマトグラフィー等によって更に精製できる。

2) 次に混合酸無水物法は、不活性溶剤中で塩基の存在下または非存在下（好適には存在下）で化合物を混合酸無水物化剤と反応させ、混合酸無水物を製造した後、不活性溶剤中で混合酸無水物をN，O-ジメチルヒドロキシルアミンと反応させることにより行われる。

【 0 2 4 4 】

使用される混合酸無水物化剤は、例えば塩化オキザリルのようなハロゲン化オキザリル；クロル蟻酸エチル、クロル蟻酸イソブチルのようなクロル蟻酸C1-C5エステル類；ピバロイルクロリドのようなC1-C5アルカノイルハライド；ジエチルシアノリン酸、ジフェニルシアノリン酸のようなC1-C4アルキルもしくはジC6-C14アリアルシアノリン酸；であり、好適にはハロゲン化オキザリル（特に塩化オキザリル）である。

【 0 2 4 5 】

反応は塩基の存在下または非存在下で行われるが、好適には塩基の存在下で行われる。使用される塩基は、例えば炭酸ナトリウム、炭酸カリウムまたは炭酸リ

チウムのようなアルカリ金属炭酸塩類；トリエチルアミン、トリブチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン、N-メチルモルホリン、ピリジン、4-(N,N-ジメチルアミノ)ピリジン、N,N-ジメチルアニリン、N,N-ジエチルアニリン、1,5-ジアザビシクロ[4.3.0]ノナ-5-エン、1,4-ジアザビシクロ[2.2.2]オクタン(DABCO)、1,8-ジアザビシクロ[5.4.0]ウンデカ-7-エン(DBU)のような有機アミン類；であり、好適には有機アミン類(特にトリエチルアミン)である。

【0246】

混合酸無水物を製造する反応は溶剤の存在下で好適に行われる。使用される溶剤としては、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はなく、例えばジクロロメタン、クロロホルム、四塩化炭素、ジクロロエタン、クロロベンゼン、ジクロロベンゼンのようなハロゲン化炭化水素類；ジエチルエーテル、ジイソプロピルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタン、ジエチレングリコールジメチルエーテルのようなエーテル類；ホルムアミド、ジメチルホルムアミド、ジメチルアセトアミド、ヘキサメチルホスホラミド(HMPA)、ヘキサメチルホスホラストリアミド(HMPT)のようなアミド類；であり得、好適にはハロゲン化炭化水素類(ジクロロメタン)である。

【0247】

混合酸無水物を製造する反応における反応温度は、原料化合物、試薬等によって異なるが、通常-50℃ないし100℃であり、好適には-10℃ないし50℃である。

【0248】

混合酸無水物を製造する反応における反応時間は、原料化合物、試薬、反応温度によって異なるが、通常5分間ないし20時間であり、好適には10分間ないし10時間である。

【0249】

次に混合酸無水物とN,O-ジメチルヒドロキシルアミンとの反応に於て使用される溶剤は、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はなく、例えばジエチルエーテル、ジイソプロピルエーテル、テトラヒドロ

フラン、ジオキサン、ジメトキシエタン、ジエチレングリコールジメチルエーテルのようなエーテル類；ホルムアミド、ジメチルホルムアミド、ジメチルアセトアミド、ヘキサメチルホスホラミド（HMPA）、ヘキサメチルホスホラストリアミド（HMPT）のようなアミド類；であり、好適にはアミド類（特にジメチルホルムアミド）である。

【 0 2 5 0 】

混合酸無水物との反応に於ける反応温度は、原料化合物、試薬等によって異なるが、通常 -30°C ないし 100°C であり、好適には 0°C ないし 80°C である。

【 0 2 5 1 】

混合酸無水物との反応に於ける反応時間は、原料化合物、試薬、反応温度によって異なるが、通常 5 分間ないし 2 4 時間であり、好適には 1 0 分間ないし 1 2 時間である。

【 0 2 5 2 】

反応終了後、本反応の目的化合物は常法に従って反応混合物から採取される。例えば、反応終了後、溶剤を留去すること、または溶剤を留去した残渣に水を注ぎ、水と混和しない溶剤（例えばベンゼン、エーテル、酢酸エチル等）を加えて目的化合物を抽出し、抽出した有機層を水洗した後、無水硫酸マグネシウム等を用いて乾燥させ、溶剤を留去することによって目的化合物が得られる。得られる目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈殿またはクロマトグラフィー等によって更に精製できる。

3) 次に縮合法は、不活性溶剤中で縮合剤および塩基を用いて、化合物と N, O-ジメチルヒドロキシルアミンとを反応させることによって行われる。

【 0 2 5 3 】

使用される縮合剤としては、例えばアゾジカルボン酸ジエチルエステルトリフェニルホスフィンのようなアゾジカルボン酸ジ低級アルキルエステルトリフェニルホスフィン類；N, N'-ジシクロヘキシルカルボジイミド（DCC）のようなN, N'-ジシクロアルキルカルボジイミド類；2-クロル-1-メチルピリジニウムヨーダイドのような2-ハロ-1-低級アルキルピリジニウムハライド類；ジフェニルホスホリルアジド（DPPA）のようなジアリールホスホリ

ルアジド類；クロロ蟻酸エチル、クロロ蟻酸イソブチルのようなクロロ蟻酸エステル類；ジエチルホスホリルクロリドのようなホスホリルクロリド類；N，N'-カルボジイミダゾール（CDI）のようなイミダゾール誘導体；1-エチル-3-（3-ジエチルアミノプロピル）カルボジイミド塩酸塩（EDAPC）のようなカルボジイミド誘導体；2，4，6-トリイソプロピルベンゼンスルホニルクロリドのようなスルホニルクロリド誘導体；があげられ、好適にはDDC、CDI、2-クロル-1-メチルピリジニウムヨーダイド、クロロ蟻酸イソブチル、ジエチルホスホリルクロリドである。

【0254】

使用される塩基としては、例えばトリエチルアミン、トリブチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン、N-メチルモルホリン、ピリジン、4-（N，N-ジメチルアミノ）ピリジン、4-ピロリジノピリジン、N，N-ジメチルアニリン、N，N-ジエチルアニリン、1，5-ジアザビシクロ[4.3.0]ノナ-5-エン、1，4-ジアザビシクロ[2.2.2]オクタン（DABCO）、1，8-ジアザビシクロ[5.4.0]ウンデカ-7-エン（DBU）のような有機塩基類があげられ、好適にはトリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン、ピリジン、4-ピロリジノピリジンである。

【0255】

使用される溶剤としては、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はなく、好適にはベンゼン、トルエン、キシレンのような芳香族炭化水素類；ジクロロメタン、クロロホルム、ジクロロエタンのようなハロゲン化炭化水素類；酢酸エチル、酢酸プロピルのようなエステル類；ジエチルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサン、ジメトキシエタン、ジエチレングリコールジメチルエーテルのようなエーテル類；アセトン、メチルエチルケトンのようなケトン類；ニトロメタンのようなニトロ化合物類；アセトニトリル、イソブチロニトリルのようなニトリル類；ジメチルホルムアミド、ジメチルアセトアミド、ヘキサメチルホスホロトリアミドのようなアミド類；があげられ、更に好適にはニトリル類（特にアセトニトリル）、芳香族炭化水素類（特にベンゼン）、ハロゲン化炭化水素類（特にジクロロメタン）およびエーテル類（特にテトラヒ

ドロフラン) である。

【 0 2 5 6 】

反応温度は、溶剤、原料、試薬等により異なるが、通常 0℃ ないし 150℃ であり、好適には 25℃ ないし 120℃ である。

【 0 2 5 7 】

反応時間は、溶剤、原料、試薬、反応温度等により異なるが、通常 10 分間ないし 48 時間であり、好適には 1 ないし 24 時間である。

【 0 2 5 8 】

反応終了後、本反応の目的化合物は常法に従って反応混合物から採取される。例えば、反応混合物に、酢酸エチルのような水と混和しない有機溶剤を加え、水洗後、目的化合物を含む有機層を分離し、無水硫酸マグネシウム等で乾燥後、溶剤を留去することによって得られる。得られた目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈殿またはクロマトグラフィー等によって更に精製できる。

(G-3 工程)

本工程は、化合物 (XVIII) に塩基を作用させて得られたカルバニオンと、G-2 工程で得られた化合物 (XVII) を反応させ、化合物 (VI) を製造する工程である。

【 0 2 5 9 】

化合物 (XVIII) に塩基を作用させるに際して、使用される塩基としては、例えばメチルリチウム、ブチルリチウム、s-ブチルリチウム、t-ブチルリチウムのようなアルキルリチウムであり、好適にはブチルリチウム、s-ブチルリチウム、t-ブチルリチウムであり、更に好適にはブチルリチウムである。

【 0 2 6 0 】

使用される溶剤は、反応を阻害せず、出発物質をある程度溶解するものであれば特に限定はなく、例えばヘキサン、シクロヘキサンのような脂肪族もしくは脂環式炭化水素類；ベンゼン、トルエン、キシレンのような芳香族炭化水素類；ジエチルエーテル、テトラヒドロフラン、ジオキサンのようなエーテル類であり、好適には、芳香族炭化水素類、エーテル類であり、更に好適には、エーテル類（特に、テトラヒドロフラン）である。

【 0 2 6 1 】

反応温度は、溶剤、原料化合物、試薬等により異なるが、通常 -78°C ないし 0°C であり、好適には -78°C ないし -20°C である。

【 0 2 6 2 】

反応時間は、溶剤、原料化合物、試薬、反応温度等により異なるが、通常 10 分間ないし 24 時間であり、好適には 10 分間ないし 6 時間である。

【 0 2 6 3 】

反応終了後、本反応の目的化合物は常法に従って反応混合物から採取される。例えば、反応終了後、反応混合物を冷却した飽和塩化アンモニウム水溶液等水溶液に注ぎ、水と混和しない溶剤（例えばベンゼン、エーテル、酢酸エチル等）を加えて目的化合物を抽出し、抽出した有機層を水洗した後、無水硫酸マグネシウム等を用いて乾燥させ、溶剤を留去することによって目的化合物が得られる。得られる目的化合物は必要ならば、常法、例えば再結晶、再沈殿またはクロマトグラフィー等によって更に精製できる。

【 0 2 6 4 】

本発明の化合物 (I) 又はその薬理学上許容される塩は、アセチルコリンエステラーゼ阻害作用及びセロトニン再取込阻害作用を併せ持つ活性を示す。又、本発明の化合物 (I) は、吸収、体内分布、血中半減期などの体内動態に優れ、腎臓、肝臓等の臓器に対する毒性も低い。従って、本発明の化合物 (I)、は、例えば医薬として有用であり、特に種々の神経疾患を治療若しくは予防する医薬として有用である。

【 0 2 6 5 】

本発明の化合物を、上記疾患の予防薬又は治療薬として使用する場合には、前記一般式 (I) を有する化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステルを、それ自体あるいは適宜の薬理学的に許容される、賦形剤、希釈剤等と混合し、錠剤、カプセル剤、顆粒剤、散剤若しくはシロップ剤等により経口的に、又は、注射剤、坐剤、貼付剤、若しくは、外用剤等により非経口的に投与することができる。

【 0 2 6 6 】

これらの製剤は、賦形剤（例えば、乳糖、白糖、葡萄糖、マンニトール、ソルビトールのような糖誘導体；トウモロコシデンプン、バレイショデンプン、 α 澱粉、デキストリンのような澱粉誘導体；結晶セルロースのようなセルロース誘導体；アラビアゴム；デキストラン；プルランのような有機系賦形剤；及び、軽質無水珪酸、合成珪酸アルミニウム、珪酸カルシウム、メタ珪酸アルミン酸マグネシウムのような珪酸塩誘導体；磷酸水素カルシウムのような磷酸塩；炭酸カルシウムのような炭酸塩；硫酸カルシウムのような硫酸塩等の無機系賦形剤を挙げることができる。）、滑沢剤（例えば、ステアリン酸、ステアリン酸カルシウム、ステアリン酸マグネシウムのようなステアリン酸金属塩；タルク；コロイドシリカ；ビーズワックス、ゲイ蠟のようなワックス類；硼酸；アジピン酸；硫酸ナトリウムのような硫酸塩；グリコール；フマル酸；安息香酸ナトリウム；DLロイシン；ラウリル硫酸ナトリウム、ラウリル硫酸マグネシウムのようなラウリル硫酸塩；無水珪酸、珪酸水和物のような珪酸類；及び、上記澱粉誘導体を挙げることができる。）、結合剤（例えば、ヒドロキシプロピルセルロース、ヒドロキシプロピルメチルセルロース、ポリビニルピロリドン、マクロゴール、及び、前記賦形剤と同様の化合物を挙げることができる。）、崩壊剤（例えば、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、カルボキシメチルセルロース、カルボキシメチルセルロースカルシウム、内部架橋カルボキシメチルセルロースナトリウムのようなセルロース誘導体；カルボキシメチルスターチ、カルボキシメチルスターチナトリウム、架橋ポリビニルピロリドンのような化学修飾されたデンプン・セルロース類を挙げることができる。）、乳化剤（例えば、ベントナイト、ビーガムのようなコロイド性粘土；水酸化マグネシウム、水酸化アルミニウムのような金属水酸化物；ラウリル硫酸ナトリウム、ステアリン酸カルシウムのような陰イオン界面活性剤；塩化ベンザルコニウムのような陽イオン界面活性剤；及び、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、ショ糖脂肪酸エステルのような非イオン界面活性剤を挙げることができる。）、安定剤（メチルパラベン、プロピルパラベンのようなパラオキシ安息香酸エステル類；クロロブタノール、ベンジルアルコール、フェニルエチルアルコールのようなアルコール類；塩化ベンザルコニウム；フェノール、クレゾールのよう

フェノール類；チメロサル；デヒドロ酢酸；及び、ソルビン酸を挙げることができる。）、矯味矯臭剤（例えば、通常使用される、甘味料、酸味料、香料等を挙げることができる。）、希釈剤等の添加剤を用いて周知の方法で製造される。

【 0 2 6 7 】

その使用量は症状、年齢等により異なるが、経口投与の場合には、1回当たり下限 1 mg（好適には、30 mg）、上限 2000 mg（好適には、1500 mg）を、静脈内投与の場合には、1回当たり下限 0.5 mg（好適には、5 mg）、上限 500 mg（好適には、250 mg）を成人に対して、1日当たり 1 乃至 6 回症状にに応じて投与することが望ましい。

【 0 2 6 8 】

【実施例】

（実施例 1）

ジメチルカルバミン酸 3- [1-メチルアミノ-3- [(4-トリフルオロメチル) フェニル] プロピル] フェニル エステル 塩酸塩（例示化合物番号 2-14）

（a）ジメチルカルバミン酸 3-アセチルフェニル エステル

水素化ナトリウム 1.94g (45mmol) に窒素気流下テトラヒドロフラン 100mL を加え、氷冷下 1- (3-ヒドロキシフェニル) エタノン 5.05g (37mmol) のテトラヒドロフラン溶液を加え、15 分間攪拌した後ジメチルカルバミン酸クロリド 1.7mL (19mmol) を滴下し、室温で 4 時間攪拌した。反応溶液に飽和塩化ナトリウム水溶液を加え、水層を酢酸エチルで抽出し、有機層を水及び飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を 6.54g 得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.60 (3H, s), 3.03 (3H, s), 3.12 (3H, s), 7.34 (1H, d, $J=7.9\text{Hz}$), 7.46 (1H, t, $J=7.9\text{Hz}$), 7.70 (1H, s), 7.79 (1H, d, $J=7.9\text{Hz}$).

（b）ジメチルカルバミン酸 3- [3- [(4-トリフルオロメチル) フェニル] アクリロイル] フェニル エステル

実施例 1 a で得られたジメチルカルバミン酸 3-アセチルフェニル エステル 1.

30g (6.3mmol)及び4-(トリフルオロメチル)ベンズアルデヒド1.25g (6.9mmol)をエタノール35mLに溶解し、水酸化カリウム42mg (0.63mmol)を加え、室温で3時間攪拌した。反応溶液に水を加え、水層をエーテルで抽出し、有機層を無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を1.74g得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 3.04 (3H, s), 3.14 (3H, s), 7.38 (1H, dd, $J=8.1\text{Hz}, 1.4\text{Hz}$), 7.49-7.57 (2H, m), 7.68 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.73-7.77 (3H, m), 7.82 (1H, d, $J=13.8\text{Hz}$), 7.86 (1H, d, $J=7.2\text{Hz}$).

(c) ジメチルカルバミン酸 3-[3-[(4-トリフルオロメチル)フェニル]プロピオニル]フェニル エステル

実施例1bで得られたジメチルカルバミン酸 3-[3-[(4-トリフルオロメチル)フェニル]アクリロイル]フェニル エステル1.71g (5.2mmol)を酢酸エチル50mLに溶解し、5%パラジウム/炭素40mgを加え、水素気流下室温で2時間攪拌した。触媒をろ別し、ろ液の溶媒を減圧下留去し、目的化合物の粗生成物を得た。これは精製することなく次の反応に用いた。

(d) ジメチルカルバミン酸 3-[1-ヒドロキシー-3-[(4-トリフルオロメチル)フェニル]プロピル]フェニル エステル

実施例1cで得られたジメチルカルバミン酸 3-[3-[(4-トリフルオロメチル)フェニル]プロピオニル]フェニル エステルの粗生成物をメタノール60mLに溶解し、氷冷下水素化ホウ素ナトリウム216mg (5.7mmol)をゆっくり加え、1時間攪拌した。反応溶液に水を加え、溶媒を減圧下留去し、水層を酢酸エチルで抽出し、有機層を水及び飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を1.63g得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.96-2.15 (2H, m), 2.62-2.84 (2H, m), 3.00 (3H, s), 3.10 (3H, s), 4.65 (1H, dd, $J=7.5\text{Hz}, 5.4\text{Hz}$), 7.02 (1H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 7.11 (1H, s), 7.15 (1H, d, $J=7.7\text{Hz}$), 7.26-7.35 (3H, m), 7.52 (1H, d, $J=8.1\text{Hz}$).

(e) ジメチルカルバミン酸 3- [1-ブロモ-3- [(4-トリフルオロメチル) フェニル] プロピル] フェニル エステル

実施例 1 d で得られたジメチルカルバミン酸 3- [1-ヒドロキシ-3- [(4-トリフルオロメチル) フェニル] プロピル] フェニル エステル 372mg (1.1mmol) 及びトリフェニルホスフィン 349mg (1.3mmol) を窒素気流下ジクロロメタン 10mL に溶解し、氷冷下四臭化炭素 441mg (1.3mmol) を加え、20 分間攪拌した。反応溶媒を減圧下留去し目的化合物の粗生成物を得た。これは精製することなく次の反応に用いた。

(f) ジメチルカルバミン酸 3- [1-メチルアミノ-3- [(4-トリフルオロメチル) フェニル] プロピル] フェニル エステル 塩酸塩

実施例 1 d で得られたジメチルカルバミン酸 3- [1-ブロモ-3- [(4-トリフルオロメチル) フェニル] プロピル] フェニル エステルの粗生成物に対して、40%メチルアミン/メタノール溶液 5mL を加え一晩攪拌した。反応溶媒を減圧下留去し、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、水層を酢酸エチルで抽出し、有機層を水及び飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、ジメチルカルバミン酸 3- [1-メチルアミノ-3- [(4-トリフルオロメチル) フェニル] プロピル] フェニル エステルを 209mg 得た。これを 1 規定塩酸/酢酸エチル溶液で塩酸塩として目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 2 6 9 】

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.39 (3H, s), 2.51-2.61 (3H, m); 2.78-2.81 (1H, m), 3.02 (3H, s), 3.12 (3H, s), 3.85 (1H, br s), 7.19-7.24 (4H, m), 7.45-7.49 (4H, m), 9.90 (1H, br s), 10.30 (1H, br s).

(実施例 2)

ジメチルカルバミン酸 3- [3- (4-メトキシフェニル) -1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2-15)

4-メトキシベンズアルデヒドを用い、実施例1と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0270】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.39 (3H, s), 2.34-2.52 (3H, m), 2.70-2.76 (1H, m), 3.02 (3H, s), 3.12 (3H, s), 3.74 (3H, s), 3.84 (1H, br s), 6.77 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.03 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.21 (1H, dd, $J=6.4\text{Hz}, 2.5\text{Hz}$), 7.23 (1H, s), 7.43-7.48 (2H, m), 9.83 (1H, br s), 10.20 (1H, br s).

(実施例3)

ジメチルカルバミン酸 3-[1-ジメチルアミノ-3-(4-メトキシフェニル)プロピル]フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号2-16)

実施例2で得られたジメチルカルバミン酸 3-[3-(4-メトキシフェニル)-1-メチルアミノプロピル]フェニル エステル500mg (1.4mmol)にギ酸10mL及び35%ホルムアルデヒド水溶液10mLを加え、90℃で2時間攪拌した。室温に冷却した後、1規定水酸化ナトリウム水溶液で中和し、水層をエーテルで抽出し、有機層を無水硫酸ナトリウムで乾燥し、減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製しジメチルカルバミン酸 3-[1-ジメチルアミノ-3-(4-メトキシフェニル)プロピル]フェニル エステル460mgを得た。これを1規定塩酸/酢酸エチル溶液で塩酸塩として目的化合物をアモルファスとして得た。

【0271】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.33-2.39 (1H, m), 2.44-2.57 (2H, m), 2.60 (3H, br s), 2.66 (3H, br s), 2.74-2.81 (1H, m), 3.03 (3H, s), 3.14 (3H, s), 3.78 (3H, s), 3.95-3.99 (1H, m), 6.81 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.02 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.21 (1H, s), 7.25-7.31 (2H, m), 7.50 (2H, t, $J=7.9\text{Hz}$).

(実施例4)

ジメチルカルバミン酸 3-[3-(3,4-ジメトキシフェニル)-1-メチルアミノプロピル]フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号2-17)

3, 4-ジメトキシベンズアルデヒドを用い、実施例 1 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0 2 7 2】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.39 (3H, s), 2.33-2.60 (3H, m), 2.78-2.83 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.11 (3H, s), 3.82 (3H, s), 3.83 (1H, br s), 3.85 (3H, s), 6.65-6.76 (3H, m), 7.20-7.22 (2H, m), 7.45-7.47 (2H, m), 9.88 (1H, br s), 10.20 (1H, br s).

(実施例 5)

ジメチルカルバミン酸 3-(3-ベンゾ[1, 3]ジオキサール-5-イル-1-メチルアミノプロピル)フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2-18)

ベンゾ[1, 3]ジオキサール-5-カルボアルデヒドを用い、実施例 1 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0 2 7 3】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.40 (3H, s), 2.32-2.50 (3H, m), 2.67-2.71 (1H, m), 3.06 (3H, s), 3.12 (3H, s), 3.87 (1H, br s), 5.87 (2H, s), 6.55 (1H, d, $J=7.9\text{Hz}$), 6.61 (1H, s), 6.66 (1H, d, $J=7.9\text{Hz}$), 7.19-7.25 (1H, m), 7.29 (1H, s), 7.44-7.48 (2H, m), 9.84 (1H, br s), 10.18 (1H, br s).

(実施例 6)

エチルカルバミン酸 3-[3-(4-メトキシフェニル)-1-メチルアミノプロピル]フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2-3)

(a) N-[1-[(3-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル]-3-(4-メトキシフェニル)プロピル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル

実施例 2 で得られたジメチルカルバミン酸 3-[3-(4-メトキシフェニル)-1-メチルアミノプロピル]フェニル エステル 342mg (1.0mmol) を窒素気流下でテトラヒドロフラン 5mL に溶解し、二炭酸ジ t-ブチル 262mg (1.2mmol) を加え

、室温で一晩撈拌した。減圧下溶媒を留去した後カラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を420mg得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.54 (9H, s), 2.11-2.26 (2H, m), 2.66 (5H, br s), 3.05 (3H, s), 3.14 (3H, s), 3.85 (3H, s), 5.26 (0.5H, br s), 5.55 (0.5H, br s), 6.89 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.06-7.15 (2H, m), 7.18 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.36 (1H, t, $J=8.1\text{Hz}$).

(b) N-[1-(3-ヒドロキシフェニル)-3-(4-メトキシフェニル)プロピル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル

実施例 2 a で得られた N-[1-[(3-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル]-3-(4-メトキシフェニル)プロピル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル 300mg (0.68mmol) をメタノール 3mL に溶解し、1 規定水酸化リチウム水溶液 3mL を加え、室温で 3 時間撈拌した。反応溶液に水を加え、水層を酢酸エチルで抽出し、有機層を水及び飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を 245mg 得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.50 (9H, s), 2.10-2.22 (2H, m), 2.64 (5H, br s), 3.80 (3H, s), 5.23 (0.5H, br s), 5.50 (0.5H, br s), 6.83 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.01-7.12 (2H, m), 7.15 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.31 (1H, t, $J=8.0\text{Hz}$).

(c) N-[1-[(3-エチルカルバモイルオキシ)フェニル]-3-(4-メトキシフェニル)プロピル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル
実施例 6 b で得られた N-[1-(3-ヒドロキシフェニル)-3-(4-メトキシフェニル)プロピル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル 250mg (0.67mmol) を窒素気流下テトラヒドロフラン 2mL に溶解し、トリエチルアミン 0.16mL (1.3mmol) を加え、さらにエチルイソシアネート 0.11mL (1.3mmol) を加え室温で 1 時間撈拌した。反応溶媒をそのまま減圧下溶媒を留去し、カラムクロマトグラフィーにより精製し目的化合物を 198mg 得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.21 (3H, t, $J=7.3\text{Hz}$), 1.48 (9H, s), 2.06-2.1

9 (2H,m), 2.60 (5H,br s), 3.27-3.38 (2H,m), 3.79 (3H,s), 5.00 (1H,br s), 5.20 (0.5H,br s), 5.45 (0.5H,br s), 6.84 (2H,d,J=8.6Hz), 7.02-7.11 (2H,m), 7.13 (2H,d,J=8.6Hz), 7.30 (1H,t,J=8.0Hz).

(d) エチルカルバミン酸 3-[3-(4-メトキシフェニル)-1-メチルアミノプロピル]フェニル エステル 塩酸塩

実施例 6 c で得られた N-[1-[(3-エチルカルバモイルオキシ)フェニル]-3-(4-メトキシフェニル)プロピル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル 198mg (0.45mmol) を酢酸エチル 3mL に溶解し、4 規定塩酸/酢酸エチル溶液 1mL を加え、室温で一晩攪拌した。反応溶媒を減圧下留去し、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、水層を酢酸エチルで抽出し、有機層を無水硫酸ナトリウムで乾燥し、減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製しエチルカルバミン酸 3-[3-(4-メトキシフェニル)-1-メチルアミノプロピル]フェニル エステルを 138mg 得た。これを 1 規定塩酸/酢酸エチル溶液で塩酸塩として目的化合物をアモルファスとして得た。

【0 2 7 4】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.23 (3H,t,J=7.3Hz), 2.38 (3H,s), 2.33-2.52 (3H,m), 2.70-2.75 (1H,m), 3.28-3.36 (2H,m), 3.74 (3H,s), 3.84 (1H,br s), 5.16 (1H,t,J=5.7Hz), 6.77 (2H,d,J=8.6Hz), 7.02 (2H,d,J=8.6Hz), 7.23 (1H,d,J=8.1Hz), 7.26 (1H,s), 7.39-7.47 (2H,m), 9.80 (1H,br s), 10.17 (1H,br s).

(実施例 7)

ジメチルカルバミン酸 3-[1-メチルアミノ-3-[(4-トリフルオロメチル)フェノキシ]プロピル]フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2-85)

(a) 3-(3-ヒドロキシフェニル)-3-メチルアミノプロピオン酸
3-ヒドロキシベンズアルデヒド 25.7g (210mmol) をエタノール 70mL に溶解し、マロン酸 25.7g 及びメチルアミン酢酸塩 38.6g を加え、3 時間加熱還流した。析出

した結晶をろ別し、目的化合物を24.1g得た。

(b) 3 - (3 - ヒドロキシフェニル) - 3 - メチルアミノプロピオン酸 エチル エステル

実施例 7 a で得られた 3 - (3 - ヒドロキシフェニル) - 3 - メチルアミノプロピオン酸 24.1g をエタノール 200mL に溶解し、濃硫酸 10mL を滴下し 8 時間加熱還流した。反応溶液を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液にあげ中和し、溶媒を減圧下留去した。次いで水層を酢酸エチルで抽出し、有機層を無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去し、目的化合物を得た。これは精製することなく次の反応に用いた。

(c) 3 - [N - (t - ブトキシカルボニル) - N - メチルアミノ] - 3 - (3 - ヒドロキシフェニル) プロピオン酸 エチル エステル

実施例 7 b で得られた 3 - (3 - ヒドロキシフェニル) - 3 - メチルアミノプロピオン酸 エチル エステルの粗生成物を窒素気流下テトラヒドロフラン 200mL に溶解し、二炭酸ジ t - ブチル 32g (150mmol) を加え、室温で一晩攪拌した。減圧下溶媒を留去した後カラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を 37g 得た。

(d) 3 - [N - (t - ブトキシカルボニル) - N - メチルアミノ] - 3 - [(3 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] プロピオン酸 エチル エステル
水素化ナトリウム 1.01g (23mmol) に窒素気流下テトラヒドロフラン 100mL を加え、氷冷下実施例 7 c で得られた 3 - [N - (t - ブトキシカルボニル) - N - メチルアミノ] - 3 - (3 - ヒドロキシフェニル) プロピオン酸 エチル エステル 5.00g (16mmol) のテトラヒドロフラン溶液を加え、20 分間攪拌した後ジメチルカルバミン酸クロリド 1.7mL (19mmol) を滴下し、室温で 1 時間攪拌した。反応溶液に飽和塩化ナトリウム水溶液を加え、水層を酢酸エチルで抽出し、有機層を水及び飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を 4.85g 得た。

(e) N- [1- [(3-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3-ヒドロキシプロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル
 水素化アルミニウムリチウム770mg (20mmol)に窒素気流下テトラヒドロフラン100mLを加え、-78℃に冷却し、実施例7dで得られた3- [N- (t-ブトキシカルボニル) -N-メチルアミノ] -3- [(3-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] プロピオン酸 エチル エステル4.01g (10mmol)のテトラヒドロフラン溶液を加え、20分間攪拌した後0℃までゆっくり昇温し、さらに30分間攪拌した。反応溶液に水0.8mL、15%水酸化ナトリウム水溶液0.8mL、水0.8mLを順次加え、室温で30分間攪拌し、無水硫酸マグネシウムを加えた後結晶をろ過し、ろ液の溶媒を減圧下留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を2.40g得た。

(f) N- [1- [(3-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3- [(4-トリフルオロメチル) フェノキシ] プロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル

実施例7eで得られたN- [1- [(3-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3-ヒドロキシプロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル200mg (0.56mmol)を窒素気流下テトラヒドロフラン2mLに溶解し、トリエチルアミン0.14mL (1.0mmol)を加えた後、氷冷下メタンスルホンクロリド0.06mL (0.68mmol)を加え、室温で30分間攪拌した。反応溶液に水を加え、水層を酢酸エチルで抽出し、有機層を飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去し、メタンスルホン酸エステルを得た。水素化ナトリウム30mg (0.63mmol)に窒素気流下N, N-ジメチルホルムアミド2mLを加え、氷冷下4- (トリフルオロメチル) フェノール110mg (0.63mmol)のN, N-ジメチルホルムアミド溶液を加え30分間攪拌し、先に得たメタンスルホン酸エステルのN, N-ジメチルホルムアミド溶液を加え室温でさらに一晩攪拌した。反応溶液に水を加え、水層をエーテルで抽出し、有機層を飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マ

グネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を243mg得た。

(g) ジメチルカルバミン酸 3 - [1 - メチルアミノ - 3 - [(4 - トリフルオロメチル) フェノキシ] プロピル] フェニル エステル 塩酸塩
 実施例 7 f で得られた N - [1 - [(3 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - [(4 - トリフルオロメチル) フェノキシ] プロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステルを用い、実施例 6 d と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0 2 7 5】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.54 (3H, s), 2.58-2.65 (1H, m), 2.98 (3H, s), 2.98-3.07 (1H, m), 3.07 (3H, s), 3.68-3.72 (1H, m), 4.01-4.05 (1H, m), 4.31-4.34 (1H, m), 6.86 (2H, d, $J=8.7\text{Hz}$), 7.18 (1H, d, $J=7.4\text{Hz}$), 7.31 (1H, s), 7.42-7.50 (4H, m).

(実施例 8)

ジメチルカルバミン酸 3 - [3 - (4 - メトキシフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2 - 8 6)

4 - メトキシフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0 2 7 6】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.50-2.57 (1H, m), 2.53 (3H, s), 2.93-3.01 (1H, m), 2.99 (3H, s), 3.08 (3H, s), 3.57-3.61 (1H, m), 3.73 (3H, s), 3.91-3.94 (1H, m), 4.32-4.35 (1H, m), 6.73-6.78 (4H, m), 7.18 (1H, d, $J=7.8\text{Hz}$), 7.34 (1H, s), 7.41-7.49 (2H, m).

(実施例 9)

ジメチルカルバミン酸 3 - (1 - メチルアミノ - 3 - p - トルイルオキシプロピル) フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2 - 8 2)

4-メチルフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 2 7 7 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.24 (3H, s), 2.53 (3H, s), 2.53-2.58 (1H, m), 2.92-2.99 (1H, m), 2.99 (3H, s), 3.08 (3H, s), 3.56-3.62 (1H, m), 3.91-3.94 (1H, m), 4.32-4.36 (1H, m), 6.69 (2H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 7.02 (2H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 7.18 (1H, d, $J=7.9\text{Hz}$), 7.34 (1H, s), 7.39-7.47 (2H, m).

(実施例 1 0)

ジメチルカルバミン酸 3- [3- (4-クロロフェノキシ) -1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 2-78)

4-クロロフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 2 7 8 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.53 (3H, s), 2.53-2.58 (1H, m), 2.94-3.01 (1H, m), 2.99 (3H, s), 3.08 (3H, s), 3.58-3.63 (1H, m), 3.94-3.96 (1H, m), 4.30-4.33 (1H, m), 6.73 (2H, d, $J=9.0\text{Hz}$), 7.15-7.19 (3H, m), 7.31 (1H, s), 7.31-7.45 (2H, m).

(実施例 1 1)

ジメチルカルバミン酸 3- [3- (4-フルオロフェノキシ) -1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2-75)

(a) N- [1- [(3-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3- (4-フルオロフェノキシ) プロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル

4-フルオロフェノールを用い、実施例 7 f 同様に反応を行い目的化合物を得た。

(b) ジメチルカルバミン酸 3- [3- (4-フルオロフェノキシ) -1-メ

チルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩

実施例 1 1 a で得られた N - [1 - [(3 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - (4 - フルオロフェノキシ) プロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステルを用い、実施例 6 d と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 2 7 9 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.53 (3H, s), 2.53-2.59 (1H, m), 2.94-3.05 (1H, m), 2.99 (3H, s), 3.08 (3H, s), 3.59-3.63 (1H, m), 3.92-3.96 (1H, m), 4.31-4.34 (1H, m), 6.73-6.78 (2H, m), 6.91 (2H, t, $J=8.6\text{Hz}$), 7.18 (1H, d, $J=6.7\text{Hz}$), 7.32 (1H, s), 7.42-7.47 (2H, m).

(実施例 1 2)

エチルカルバミン酸 3 - [3 - (4 - フルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2 - 2)

(a) N - [3 - (4 - フルオロフェノキシ) - 1 - (3 - ヒドロキシフェニル) プロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル

実施例 1 1 a で得られた N - [1 - [(3 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - (4 - フルオロフェノキシ) プロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステルを用い、実施例 6 b と同様に反応を行い目的化合物を得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.41 (9H, br s), 2.30-2.43 (2H, m), 3.97 (2H, br s), 5.52 (1H, br s), 5.98 (0.5H, br s), 6.40 (0.5H, br s), 6.76-6.86 (5H, m), 6.95 (1H, t, $J=8.4\text{Hz}$), 7.21 (1H, t, $J=7.8\text{Hz}$).

(b) エチルカルバミン酸 3 - [3 - (4 - フルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩

実施例 1. 2 a で得られた N - [3 - (4 - フルオロフェノキシ) - 1 - (3 - ヒドロキシフェニル) プロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステルを用い、実施例 6 d と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0280】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : (3H, t, $J=7.3\text{Hz}$), 2.53 (3H, s), 2.52-2.59 (1H, m), 2.90-3.00 (1H, m), 3.25-3.31 (2H, m), 3.57-3.61 (1H, m), 3.92-3.95 (1H, m), 4.30-4.34 (1H, m), 5.04-5.09 (1H, m), 6.73 (2H, dd, $J=9.0\text{Hz}, 4.3\text{Hz}$), 6.91 (2H, t, $J=9.0\text{Hz}$), 7.21-7.24 (1H, m), 7.36 (1H, s), 7.41-7.44 (2H, m), 9.88 (1H, br s), 10.22 (1H, br s).

(実施例 13)

酢酸 3-[3-(4-フルオロフェノキシ)-1-メチルアミノプロピル]フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2-4)

(a) 酢酸 3-[1-(N-*t*-ブトキシカルボニル-N-メチルアミノ)-3-(4-フルオロフェノキシ)プロピル]フェニル エステル
実施例 12a で得られた N-[3-(4-フルオロフェノキシ)-1-(3-ヒドロキシフェニル)プロピル]-N-メチルカルバミン酸 *t*-ブチル エステル 100mg (0.27mmol) を窒素気流下ジクロロメタン 1mL に溶解し、トリエチルアミン 0.045mL (0.32mmol) 及び無水酢酸 0.030mL (0.32mmol) を加え、室温で一晩撹拌した。反応溶液に水を加え、水層をジクロロメタンで抽出し、有機層を水及び飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を 98.7mg 得た。

(b) 酢酸 3-[3-(4-フルオロフェノキシ)-1-メチルアミノプロピル]フェニル エステル 塩酸塩

実施例 13a で得られた酢酸 3-[1-(N-*t*-ブトキシカルボニル-N-メチルアミノ)-3-(4-フルオロフェノキシ)プロピル]フェニル エステルを用い、実施例 6d と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0281】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.28 (3H, s), 2.53 (3H, s), 2.51-2.60 (1H, m), 2.95-3.01 (1H, m), 3.56-3.61 (1H, m), 3.92-3.96 (1H, m), 4.35 (1H, br s)

, 6.72 (2H,dd,J=8.8Hz,4.3Hz), 6.91 (2H,t,J=8.8Hz), 7.16 (1H,d,J=7.7Hz), 7.34 (1H,s), 7.43-7.50 (2H,m), 9.97 (1H,br s), 10.30 (1H,br s).

(実施例 1 4)

2, 2-ジメチルプロピオン酸 3-[3-(4-フルオロフェノキシ)-1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2-5)

2, 2-ジメチルプロピオン酸クロリドを用い、実施例 1 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 2 8 2 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz,CDCl₃) δ ppm : 1.33 (s, 9 H), 2.54 (3H,s), 2.48-2.57 (1 H,m), 2.96-3.01 (1H,m), 3.55-3.59 (1H,m), 3.91-3.96 (1H,m), 4.32-4.36 (1 H,m), 6.73 (2H,dd,J=9.1Hz,4.3Hz), 6.91 (2H,t,J=9.1Hz), 7.11 (1H,d,J=7.1Hz), 7.30 (1H,s), 7.43-7.50 (2H,m), 9.98 (1H,br s), 10.38 (1H,br s).

(実施例 1 5)

ジメチルカルバミン酸 3-[3-(4-クロロフェニル)-1-メチルアミノプロピル] -フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2-13)

4-クロロベンズアルデヒドを用い、実施例 1 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 2 8 3 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz,CDCl₃) δ ppm : 2.39 (3H,s), 2.39-2.56 (3H,m), 2.75 (1H,br s), 3.02 (3H,s), 3.12 (3H,s), 3.83 (1H,br s), 7.05 (2H,d,J=8.3Hz), 7.20 (2H,d,J=8.3Hz), 7.17-7.23 (2H,m), 7.40-7.49 (2H,m), 9.85 (1H,br s), 10.25 (1H,br s).

(実施例 1 6)

ジメチルカルバミン酸 4-[3-(4-クロロフェノキシ)-1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1-78)

(a) 3-[N-(t-ブトキシカルボニル)-N-メチルアミノ]-3-(4

ーヒドロキシフェニル) プロピオン酸 エチル エステル

4-ヒドロキシベンズアルデヒドを用い、実施例 7 a ~ c と同様に反応を行い目的化合物を得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.51 (9H, s), 1.91-1.98 (1H, m), 2.13-2.20 (1H, m), 2.43 (3H, s), 3.02 (3H, s), 3.10 (3H, s), 3.48-3.58 (2H, m), 3.74 (1H, br s), 5.57-5.61 (1H, m), 7.10 (2H, dt, $J=8.6, 1.9\text{Hz}$), 7.28 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$).

(b) N- [1- [(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3-ヒドロキシプロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル

実施例 16 a で得られた 3- [N- (t-ブトキシカルボニル) -N-メチルアミノ] -3- (4-ヒドロキシフェニル) プロピオン酸 エチル エステルを用い、実施例 7 d、e と同様に反応を行い目的化合物を得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.40 (9H, s), 2.29-2.44 (2H, m), 2.60 (3H, s), 3.01 (3H, s), 3.10 (3H, s), 3.98 (2H, br s), 5.56 (1H, br s), 6.81 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 7.10 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.22 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 7.28-7.30 (2H, m).

(c) ジメチルカルバミン酸 4- [3- (4-クロロフェノキシ) -1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩

実施例 16 b で得られた N- [1- [(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3-ヒドロキシプロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル及び 4-クロロフェノールを用い、実施例 7 f、6 d と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.51 (3H, s), 2.51-2.59 (1H, m), 2.94-3.01 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.55-3.59 (1H, m), 3.91-4.13 (1H, m), 4.30-4.34 (1H, m), 6.71 (2H, d, $J=9.0\text{Hz}$), 7.15-7.19 (4H, m), 7.59 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$).

IR(KBr) $\nu_{\text{max}} \text{cm}^{-1}$: 3430, 2942 2765, 2699, 1725.

MS m/z : 363 ($[\text{M}+\text{H}]^+$), 332, 273, 242, 207.

(実施例 1 7)

ジメチルカルバミン酸 4- [1-メチルアミノ-3- [(4-トリフルオロメチル) フェノキシ] プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1-85)

実施例 1 6 b で得られた N- [1- [(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3-ヒドロキシプロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル及び 4-トリフルオロメチルフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0 2 8 4】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.52 (3H, s), 2.58-2.64 (1H, m), 2.99-3.03 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.64-3.68 (1H, m), 3.99-4.03 (1H, m), 4.32-4.35 (1H, m), 6.85 (2H, d, $J=8.7\text{Hz}$), 7.19 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.48 (2H, d, $J=8.7\text{Hz}$), 7.59 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$).

(実施例 1 8)

ジメチルカルバミン酸 4- [3- (4-メトキシフェノキシ) -1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1-86)

実施例 1 6 b で得られた N- [1- [(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3-ヒドロキシプロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル及び 4-メトキシフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0 2 8 5】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.51 (3H, s), 2.51-2.54 (1H, m), 2.92-2.97 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.53-3.58 (1H, m), 3.73 (3H, s), 3.90-3.92 (1H, m), 4.34-4.36 (1H, m), 6.72-6.81 (4H, m), 7.18 (2H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 7.60 (2H, d, $J=8.4\text{Hz}$).

(実施例 1 9)

ジメチルカルバミン酸 3 - [1 - アミノ - 3 - (4 - フルオロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2 - 6 5)

(a) [1 - [(3 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - (4 - フルオロフェノキシ) プロピル] カルバミン酸 t - ブチル エステル

酢酸アンモニウムを用い、実施例 7 a ~ e と同様に反応を行い、目的化合物を得た。

$^1\text{H-NMR}(400\text{MHz}, \text{CDCl}_3)$ δ ppm : 1.40 (9H, br s) 2.22 (2H, br s), 3.00 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.84-3.96 (2H, m), 4.92 (1H, br s), 5.18 (1H, br s), 6.81 (2H, dd, J=8.8Hz, 4.3Hz), 6.95 (2H, t, J=8.8Hz), 7.00-7.05 (2H, m), 7.21 (1H, d, J=7.8Hz), 7.31 (1H, t, J=7.8Hz).

(b) ジメチルカルバミン酸 3 - [1 - アミノ - 3 - (4 - フルオロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩

実施例 19 a で得られた [1 - [(3 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - (4 - フルオロフェノキシ) プロピル] カルバミン酸 t - ブチル エステルを用い、実施例 6 d と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 2 8 6 】

$^1\text{H-NMR}(400\text{MHz}, \text{CDCl}_3)$ δ ppm : 2.35-2.39 (1H, m), 2.69-2.74 (1H, m), 2.88 (3H, s), 3.04 (3H, s), 3.64-3.71 (1H, m), 3.91-3.96 (1H, m), 4.53 (1H, br s), 6.74 (2H, dd, J=8.9Hz, 4.3Hz), 6.90 (2H, t, J=8.9Hz), 7.02 (1H, d, J=8.0Hz), 7.31-7.39 (3H, m), 8.71 (3H, br s).

(実施例 20)

ジメチルカルバミン酸 3 - [1 - エチルアミノ - 3 - (4 - フルオロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2 - 6 7)

(a) N - [1 - [(3 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - (4 - フルオロフェノキシ) プロピル] - N - エチルカルバミン酸 t - ブチル エステル

水素化ナトリウム12mg (0.28mmol)に窒素気流下N, N-ジメチルホルムアミド2 mLを加え、氷冷下実施例19aで得られた[1-[(3-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル]-3-(4-フルオロフェノキシ)プロピル]カルバミン酸 t-ブチル エステル100mg (0.23mmol)のN, N-ジメチルホルムアミド溶液を加え、20分間攪拌した後ヨウ化エチル0.022mL (0.28mmol)を滴下し、室温で一晩攪拌した。反応溶液に水を加え、水層を酢酸エチルで抽出し、有機層を水及び飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を63mg得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.42 (9H, br s), 2.39-2.47 (2H, m), 3.01 (3H, s), 3.02-3.09 (2H, m), 3.10 (3H, s), 3.96-4.05 (2H, m), 5.44 (1H, br s), 6.82 (2H, dd, $J=8.9\text{Hz}, 4.3\text{Hz}$), 6.96 (2H, t, $J=8.9\text{Hz}$), 7.04 (1H, t, $J=7.9\text{Hz}$), 7.09 (1H, s), 7.18 (1H, d, $J=7.9\text{Hz}$), 6.32 (1H, t, $J=7.9\text{Hz}$).

(b) ジメチルカルバミン酸 3-[1-エチルアミノ-3-(4-フルオロフェノキシ)プロピル]フェニル エステル 塩酸塩

実施例20aで得られたN-1-[(3-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル]-3-(4-フルオロフェノキシ)プロピル-N-エチルカルバミン酸 t-ブチル エステルを用い、実施例6dと同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0287】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.46 (3H, t, $J=7.2\text{Hz}$), 2.60-2.65 (1H, m), 2.83-3.00 (2H, m), 2.99 (3H, s), 3.08 (3H, s), 3.06-3.11 (1H, m), 3.52-3.57 (1H, m), 3.86-3.90 (1H, m), 4.40 (1H, br s), 6.71 (2H, dd, $J=9.0\text{Hz}, 4.3\text{Hz}$), 6.90 (2H, t, $J=9.0\text{Hz}$), 7.18 (1H, d, $J=7.8\text{Hz}$), 7.37 (1H, s), 7.43 (1H, t, $J=7.8\text{Hz}$), 7.51 (1H, d, $J=7.8\text{Hz}$), 9.97 (1H, br s), 10.34 (1H, br s).

(実施例21)

ジメチルカルバミン酸 3-[3-(4-フルオロフェノキシ)-1-プロピルアミノプロピル]フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号2-73)

1-ヨードプロパンを用い、実施例20と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0288】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 0.90 (3H, t, $J=7.4\text{Hz}$), 1.90-2.01 (2H, m), 2.60-2.67 (1H, m), 2.72 (2H, t, $J=8.1\text{Hz}$), 3.00 (3H, s), 3.08 (3H, s), 3.07-3.15 (1H, m), 3.52-3.57 (1H, m), 3.83-3.89 (1H, m), 4.36-4.40 (1H, m), 6.70 (2H, dd, $J=8.9\text{Hz}, 4.3\text{Hz}$), 6.90 (2H, t, $J=8.9\text{Hz}$), 7.19 (1H, d, $J=7.9\text{Hz}$), 7.37 (1H, s), 7.43 (1H, t, $J=7.9\text{Hz}$), 7.51 (1H, d, $J=7.9\text{Hz}$), 9.88 (1H, br s), 10.27 (1H, br s).

(実施例22)

ジメチルカルバミン酸 3-[4-(4-フルオロフェニル)-1-メチルアミノブチル]-フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号2-25)

(a) N-[1-[(3-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル]-3-オキソプロピル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル

実施例7eで得られたN-[1-[(3-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル]-3-ヒドロキシプロピル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル200mg (0.57mmol)を窒素気流下ジクロロメタン3mLに溶解しニクロム酸ピリジニウム320mg (0.85mmol)を加え、室温で一晩攪拌した。反応溶液にエーテルを加えた後、結晶をろ過し、ろ液の溶媒を減圧下留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を148mg得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.48 (9H, s), 2.59 (3H, br s), 2.95-3.01 (2H, m), 3.02 (3H, s), 3.11 (3H, s), 6.02 (1H, br s), 6.99 (1H, s), 7.05-7.08 (2H, m), 7.35 (1H, t, $J=7.9\text{Hz}$), 9.80 (1H, s).

(b) N-[1-[(3-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル]-4-(4-フルオロフェニル)-3-ブテニル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル

水素化ナトリウム14mg (0.31mmol)に窒素気流下テトラヒドロフラン1mLを加え、

(4-フルオロベンジル) トリフェニルホスホニウムブロミド110mg (0.27mmol) のテトラヒドロフラン溶液を加え、2時間攪拌した後実施例22aで得られたN-メチル-N-[1-(3-ニトロフェニル)-3-オキソプロピル] カルバミン酸 t-ブチル エステル72mg (0.21mmol)を加え、さらに室温で3時間攪拌した。反応溶液に飽和塩化ナトリウム水溶液を加え、水層を酢酸エチルで抽出し、有機層を水及び飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を80mg得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) (ppm : 1.41 (4.5H, s), 1.48 (4.5H, s), 2.47-2.90 (5H, m), 3.01 (1.5H, s), 3.02 (1.5H, s), 3.10 (1.5H, s), 3.11 (1.5H, s), 5.61-6.51 (3H, m), 6.96-7.36 (8H, m).

(c) N-[1-[(3-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル]-4-(4-フルオロフェニル)-ブチル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル

実施例22bで得られたN-[1-[(3-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル]-4-(4-フルオロフェニル)-3-ブテニル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル42mg (1.3mmol)をメタノール1mLに溶解し、5%パラジウム/炭素10mgを加え、水素気流下室温で1時間攪拌した。触媒をろ別し、ろ液の溶媒を減圧下留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を40mg得た。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.48 (9H, s), 1.60-1.69 (2H, m), 2.53 (3H, br s), 2.59-2.65 (1H, m), 2.69-2.75 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.10 (3H, s), 5.23 (0.5H, br s), 5.44 (0.5H, br s), 6.94-7.15 (7H, m), 7.30 (1H, t, $J=7.9\text{Hz}$).

(d) ジメチルカルバミン酸 3-[4-(4-フルオロフェニル)-1-メチルアミノブチル]-フェニル エステル 塩酸塩

実施例22cで得られたN-[1-[(3-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル]-4-(4-フルオロフェニル)-ブチル]-N-メチルカルバミン酸

t-ブチル エステルを用い、実施例 6 d と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0 2 8 9】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.39-1.47 (1H, m), 1.52-1.60 (1H, m), 2.18-2.27 (1H, m), 2.41 (3H, s), 2.40-2.62 (3H, m), 3.01 (3H, s), 3.11 (3H, s), 3.90 (1H, dd, $J=10.5\text{Hz}, 4.4\text{Hz}$), 6.90 (2H, t, $J=8.6\text{Hz}$), 7.02 (2H, dd, $J=8.6\text{Hz}, 5.5\text{Hz}$), 7.19 (1H, d, $J=7.3\text{Hz}$), 7.22 (1H, s), 7.41-7.48 (2H, m), 9.83 (1H, br s), 10.16 (1H, br s).

(実施例 2 3)

ジエチルカルバミン酸 3-[3-(4-フルオロフェノキシ)-1-メチルアミノプロピル]フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2-6)

(a) N-[1-[(3-ジエチルカルバモイルオキシ)フェニル]-3-(4-フルオロフェノキシ)プロピル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル

水素化ナトリウム14mg (0.32mmol)に窒素気流下N, N-ジメチルホルムアミド1 mLを加え、氷冷下実施例 1 2 a で得られたN-[3-(4-フルオロフェノキシ)-1-(3-ヒドロキシフェニル)プロピル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル100mg (0.27mmol)のN, N-ジメチルホルムアミドを加え30分間攪拌し、次いでジエチルカルバミン酸クロリド0.041mL (0.32mmol)を加え、1時間攪拌した。反応溶液に水を加え、水層を酢酸エチルで抽出し、有機層を水及び飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を108mg得た。

(b) ジエチルカルバミン酸 3-[3-(4-フルオロフェノキシ)-1-メチルアミノプロピル]フェニル エステル 塩酸塩

実施例 2 3 a で得られたN-[1-[(3-ジエチルカルバモイルオキシ)フェニル]-3-(4-フルオロフェノキシ)プロピル]-N-メチルカルバミン酸

t-ブチル エステルを用い、実施例 6 d と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 2 9 0 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.20-1.29 (6H, m), 2.55 (3H, s), 2.55-2.62 (1H, m), 2.98-3.04 (1H, m), 3.36-3.45 (4H, m), 3.59-3.64 (1H, m), 3.94-3.98 (1H, m), 4.33-4.36 (1H, m), 6.74-6.78 (2H, m), 6.92 (2H, t, $J=8.6\text{Hz}$), 7.21 (1H, d, $J=7.5\text{Hz}$), 7.34 (1H, s), 7.43-7.50 (2H, m).

(実施例 2 4)

ジイソプロピルカルバミン酸 3- [3- (4-フルオロフェノキシ) -1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2-9)

ジイソプロピルカルバミン酸クロリドを用いて実施例 2 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 2 9 1 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.28 (12H, brs), 2.54 (3H, s), 2.54-2.59 (1H, m), 2.95-3.02 (1H, m), 3.57-3.62 (1H, m), 3.92-3.99 (2H, m), 4.05 (1H, brs), 4.32-4.35 (1H, m), 6.76-6.78 (2H, m), 6.90 (2H, t, $J=8.6\text{Hz}$), 7.19 (1H, dd, $J=7.9\text{Hz}, 1.0\text{Hz}$), 7.28 (1H, d, $J=1.0\text{Hz}$), 7.42 (1H, t, $J=7.9\text{Hz}$), 7.49 (1H, d, $J=7.9\text{Hz}$).

(実施例 2 5)

モルホリン-4-カルボン酸 3- [3- (4-フルオロフェノキシ) -1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2-11)

モルホリン-4-カルボニルクロリドを用いて実施例 2 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 2 9 2 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.53 (3H, s), 2.53-2.59 (1H, m), 2.96-2.99 (1H, m), 3.54-3.64 (5H, m), 3.74 (4H, d, $J=4.7\text{Hz}$), 3.93-3.95 (1H, m), 4.31-4.35 (1H, m), 6.72-6.75 (2H, m), 6.91 (2H, t, $J=8.7\text{Hz}$), 7.19 (1H, d, $J=6.9\text{Hz}$),

7.35 (1H,s), 7.42-7.46 (2H,m).

(実施例 2 6)

ジメチルチオカルバミン酸 O- [3- [3- (4-フルオロフェノキシ) -1-メチルアミノプロピル] フェニル] エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2-12)

ジメチルチオカルバミン酸クロリドを用いて実施例 2 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0 2 9 3】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.55 (3H,s), 2.55-2.63 (1H,m), 2.99-3.02 (1H,m), 3.33 (3H,s), 3.43 (3H,s), 3.62-3.68 (1H,m), 3.91-3.95 (1H,m), 4.33-4.37 (1H,m), 6.72-6.75 (2H,m), 6.90 (2H,t, $J=8.7\text{Hz}$), 7.11 (1H,d, $J=7.8\text{Hz}$), 7.26 (1H,s), 7.47 (1H,t, $J=7.8\text{Hz}$), 7.53 (1H,t, $J=7.8\text{Hz}$).

(実施例 2 7)

ジメチルカルバミン酸 3- [1-ジメチルアミノ-3- [(4-トリフルオロメチル) フェノキシ] プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2-142)

実施例 7 g で得られたジメチルカルバミン酸 3- [1-メチルアミノ-3- [(4-トリフルオロメチル) フェノキシ] プロピル] フェニル エステルを用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0 2 9 4】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.64 (3H,s), 2.64-2.74 (1H,m), 2.87 (3H,s), 2.95-3.05 (1H,m), 3.00 (3H,s), 3.09 (3H,s), 3.64-3.70 (1H,m), 4.04-4.13 (1H,m), 4.29-4.31 (1H,m), 6.81 (2H,d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.22 (1H,m), 7.30 (1H,s), 7.38 (1H,d, $J=7.7\text{Hz}$), 7.43-7.50 (3H,m).

(実施例 2 8)

ジメチルカルバミン酸 3- [1-ジメチルアミノ-3- (4-フルオロフェノ

キシ) プロピル] フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 2 - 1 3 2)

実施例 1 1 b で得られたジメチルカルバミン酸 3 - [3 - (4 - フルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステルを用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0 2 9 5】

$^1\text{H-NMR}(400\text{MHz}, \text{CDCl}_3)$ δ ppm : 2.63-2.68 (4H, m), 2.87 (3H, s), 2.92-3.01 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.10 (3H, s), 3.54-3.60 (1H, m), 3.95-4.13 (1H, m), 4.28-4.30 (1H, m), 6.67-6.70 (2H, m), 6.91 (2H, t, J=8.6Hz), 7.23 (1H, d, J=7.8 Hz), 7.32 (1H, s), 7.39 (1H, d, J=7.8Hz), 7.45 (1H, t, J=7.8Hz).

(実施例 2 9)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - ジメチルアミノ - 3 - [(4 - トリフルオロメチル) フェノキシ] プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 4 2)

実施例 1 7 で得られたジメチルカルバミン酸 4 - [1 - メチルアミノ - 3 - [(4 - トリフルオロメチル) フェノキシ] プロピル] フェニル エステルを用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0 2 9 6】

$^1\text{H-NMR}(400\text{MHz}, \text{CDCl}_3)$ δ ppm : 2.61 (3H, s), 2.72-2.75 (1H, m), 2.91 (3H, s), 2.96-3.02 (1H, m), 3.02 (3H, s), 3.10 (3H, s), 3.58-3.63 (1H, m), 4.03-4.06 (1H, m), 4.27-4.31 (1H, m), 6.81 (2H, d, J=8.5Hz), 7.23 (2H, d, J=8.2Hz), 7.49 (2H, d, J=8.5Hz), 7.57 (2H, d, J=8.2Hz).

(実施例 3 0)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - フルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 7 5)

実施例 1 6 b で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 4 - フルオロフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目

的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 2 9 7 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.46-2.60 (1H, m), 2.51 (3H, s), 2.92-3.01 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.53-3.59 (1H, m), 3.90-3.94 (1H, m), 4.33-4.34 (1H, m), 6.70-6.73 (2H, m), 6.91 (2H, t, $J=8.7\text{Hz}$), 7.18 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.60 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$).

(実施例 3 1)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - ジメチルアミノ - 3 - (4 - フルオロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 3 2)
 実施例 3 0 で得られたジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - フルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステルを用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 2 9 8 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.54-2.69 (1H, m), 2.60 (3H, d, $J=4.0\text{Hz}$), 2.85-2.96 (1H, m), 2.91 (3H, d, $J=4.0\text{Hz}$), 3.02 (3H, s), 3.11 (3H, s), 3.47-3.52 (1H, m), 3.94-3.96 (1H, m), 4.27-4.30 (1H, m), 6.66-6.70 (2H, m), 6.92 (2H, t, $J=8.6\text{Hz}$), 7.23 (2H, d, $J=8.1\text{Hz}$), 7.58 (2H, d, $J=8.1\text{Hz}$).

(実施例 3 2)

ジメチルカルバミン酸 3 - [3 - (4 - フルオロフェニル) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2 - 1)
 4 - フルオロベンズアルデヒドを用い、実施例 1 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 2 9 9 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.39 (3H, s), 2.34-2.54 (3H, m), 2.70-2.78 (1H, m), 3.02 (3H, s), 3.12 (3H, s), 3.80-3.87 (1H, m), 6.91 (2H, t, $J=8.4\text{Hz}$), 7.07 (2H, dd, $J=8.4\text{Hz}, 5.6\text{Hz}$), 7.17-7.24 (2H, m), 7.40-7.49 (2H, m).

(実施例 3 3)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - フルオロフェニル) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1)

4 - アセチルフェノール及び 4 - フルオロベンズアルデヒドを用い、実施例 1 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 0 0 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.37 (3H, s), 2.33-2.54 (3H, m), 2.69-2.78 (1H, m), 3.03 (3H, s), 3.12 (3H, s), 3.85 (1H, br s), 6.88-6.96 (2H, m), 7.01-7.08 (2H, m), 7.22 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.52 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 9.79 (1H, br s), 10.12 (1H, br s).

(実施例 3 4)

ジメチルカルバミン酸 3 - [4 - (4 - クロロフェニル) - 1 - メチルアミノブチル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2 - 2 6)

実施例 2 2 a で得られた N - [1 - [(3 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - オキソプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び (4 - クロロベンジル) トリフェニルホスホニウムクロリドを用い、実施例 2 2 b ~ d と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 0 1 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.40-1.48 (1H, m), 1.58-1.66 (1H, m), 2.20-2.28 (1H, m), 2.42 (3H, s), 2.40-2.57 (3H, m), 3.01 (3H, s), 3.11 (3H, s), 3.94 (1H, br s), 6.99-7.28 (6H, m), 7.44-7.52 (2H, m), 9.77 (1H, br s), 10.15 (1H, br s).

(実施例 3 5)

ジメチルカルバミン酸 4 - [4 - (4 - クロロフェニル) - 1 - メチルアミノブチル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 2 6)

実施例 1 6 b で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エス

テル及び 3-メトキシフェノール及び (4-クロロベンジル) トリフェニルホスホニウムクロリドを用い、実施例 2 2 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 0 2 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.38-1.58 (2H, m), 2.20-2.26 (1H, m), 2.39 (3H, s), 2.38-2.62 (3H, m), 3.01 (3H, s), 3.10 (3H, s), 3.90 (1H, br s), 6.99 (1H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 7.06 (1H, d, $J=6.9\text{Hz}$), 7.11-7.24 (4H, m), 7.52 (1H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 9.77 (1H, br s), 10.15 (1H, br s).

(実施例 3 6)

ジメチルカルバミン酸 4- [3- (3-メトキシフェノキシ) -1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1-87)

実施例 1 6 b で得られた N- [1- [(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3-ヒドロキシプロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル及び 3-メトキシフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 0 3 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.52 (3H, s), 2.52-2.58 (1H, m), 2.92-3.00 (1H, m), 3.00 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.55-3.60 (1H, m), 3.75 (3H, s), 3.91-3.96 (1H, m), 4.32-4.36 (1H, m), 6.36-6.38 (2H, m), 6.47 (1H, dd, $J=8.9\text{Hz}$, 1.9Hz), 7.11 (1H, t, $J=8.9\text{Hz}$), 7.18 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.60 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$).

(実施例 3 7)

ジメチルカルバミン酸 4- [3- (2-メトキシフェノキシ) -1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1-88)

実施例 1 6 b で得られた N- [1- [(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3-ヒドロキシプロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル及び 2-メトキシフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 0 4 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.56 (3H,s), 2.56-2.62 (1H,m), 2.85-2.89 (1H,m), 3.00 (3H,s), 3.09 (3H,s), 3.86-3.93 (1H,m), 3.90 (3H,s), 4.08-4.11 (1H,m), 4.43-4.46 (1H,m), 6.81 (1H,d, $J=7.9\text{Hz}$), 6.86-6.91 (2H,m), 6.95-6.98 (1H,m), 7.18 (2H,d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.59 (2H,d, $J=8.6\text{Hz}$).

(実施例 3 8)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (3 - クロロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 7 9)

(a) [3 - (3 - クロロフェノキシ) - 1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] プロピル] - N - メチルカルバミン酸 *t* - ブチル エステル
実施例 1 6 b で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 *t* - ブチル エステル及び 3 - クロロフェノールを用い、実施例 7 f 同様に反応を行い目的化合物を得た。

(b) ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (3 - クロロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩

実施例 3 8 a で得られた [3 - (3 - クロロフェノキシ) - 1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] プロピル] - N - メチルカルバミン酸 *t* - ブチル エステルを用い、実施例 6 d と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 0 5 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.52 (3H,s), 2.52-2.61 (1H,m), 2.93-3.05 (1H,m), 3.00 (3H,s), 3.09 (3H,s), 3.55-3.60 (1H,m), 3.92-3.97 (1H,m), 4.31-4.35 (1H,m), 6.68 (1H,dd, $J=8.1\text{Hz}, 2.1\text{Hz}$), 6.78 (1H,t, $J=2.1\text{Hz}$), 6.90 (1H,dd, $J=8.1\text{Hz}, 2.1\text{Hz}$), 7.14 (1H,t, $J=8.1\text{Hz}$), 7.19 (2H,d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.60 (2H,d, $J=8.5\text{Hz}$).

(実施例 39)

ジメチルカルバミン酸 4-〔3-(2-クロロフェノキシ)-1-メチルアミノプロピル〕フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1-80)

実施例 16b で得られた N-〔1-〔(4-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル〕-3-ヒドロキシプロピル〕-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル及び 2-クロロフェノールを用い、実施例 7f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0306】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.55 (3H, s), 2.58-2.65 (1H, m), 2.98-3.06 (1H, m), 3.00 (3H, s), 3.08 (3H, s), 3.59-3.65 (1H, m), 4.11-4.16 (1H, m), 4.44-4.48 (1H, m), 6.75 (1H, dd, $J=8.1\text{Hz}, 1.3\text{Hz}$), 6.87 (1H, td, $J=8.1\text{Hz}, 1.3\text{Hz}$), 7.13 (1H, td, $J=8.1\text{Hz}, 1.6\text{Hz}$), 7.17 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.33 (1H, dd, $J=8.1\text{Hz}, 1.6\text{Hz}$), 7.66 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 9.90 (1H, br s), 10.20 (1H, br s).

(実施例 40)

ジメチルカルバミン酸 4-(1-メチルアミノ-3-p-トルイルオキシプロピル)フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1-82)

実施例 16b で得られた N-〔1-〔(4-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル〕-3-ヒドロキシプロピル〕-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル及び 4-メチルフェノールを用い、実施例 7f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0307】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.24 (3H, s), 2.46-2.54 (1H, m), 2.51 (3H, s), 2.95-3.00 (1H, m), 3.00 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.52-3.58 (1H, m), 3.90-3.94 (1H, m), 4.33-4.37 (1H, m), 6.68 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.01 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.17 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.61 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$).

(実施例 41)

ジメチルカルバミン酸 4-〔3-(4-クロロフェノキシ)-1-ジメチルア

ミノプロピル] フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 3 5)

実施例 1 6 d で得られたジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - クロロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステルを用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 0 8 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.60 (3H, s), 2.64-2.68 (1H, m), 2.90 (3H, s), 2.90-2.98 (1H, m), 3.02 (3H, s), 3.11 (3H, s), 3.50-3.54 (1H, m), 3.95-3.98 (1H, m), 4.26-4.28 (1H, m), 6.67 (2H, d, $J=8.9\text{Hz}$), 7.18 (2H, d, $J=8.9\text{Hz}$), 7.23 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.59 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$).

(実施例 4 2)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - クロロフェニル) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 3)

4 - アセチルフェノール及び 4 - クロロベンズアルデヒドを用い、実施例 1 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 0 9 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.37 (3H, s), 2.31-2.53 (3H, m), 2.68-2.79 (1H, m), 3.03 (3H, s), 3.12 (3H, s), 3.84 (1H, br s), 7.03 (2H, d, $J=8.2\text{Hz}$), 7.20 (2H, d, $J=8.2\text{Hz}$), 7.22 (2H, d, $J=8.1\text{Hz}$), 7.52 (2H, d, $J=8.1\text{Hz}$), 9.85 (1H, br s), 10.15 (1H, br s).

(実施例 4 3)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (2, 4 - ジフルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 0 1)
 実施例 1 6 b で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 2, 4 - ジフルオロフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 1 0 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.52 (3H, s), 2.50-2.61 (1H, m), 2.92-3.05 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.58-3.67 (1H, m), 4.02-4.08 (1H, m), 4.33-4.40 (1H, m), 6.67-6.85 (3H, m), 7.19 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.63 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$).

(実施例 4 4)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (2 - クロロ - 4 - フルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 0 6)

実施例 1 6 b で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 *t* - ブチル エステル 及び 2 - クロロ - 4 - フルオロフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 1 1 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.54 (3H, s), 2.55-2.65 (1H, m), 2.95-3.07 (1H, m), 3.00 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.55-3.65 (1H, m), 4.05-4.12 (1H, m), 4.38-4.45 (1H, m), 6.71 (1H, dd, $J=9.1\text{Hz}, 4.8\text{Hz}$), 6.83-6.89 (1H, m), 7.10 (1H, dd, $J=8.0\text{Hz}, 3.0\text{Hz}$), 7.18 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.64 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$).

(実施例 4 5)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - アセチルフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 8 9)

実施例 1 6 b で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 *t* - ブチル エステル 及び 4 - アセチルフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 1 2 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.52 (6H, s), 2.52-2.66 (1H, m), 2.97-3.07 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.63-3.73 (1H, m), 4.00-4.08 (1H, m), 4

.30-4.38 (1H,m), 6.82 (2H,d,J=8.9Hz), 7.19 (2H,d,J=8.6Hz), 7.59 (2H,d,J=8.6Hz), 7.87 (2H,d,J=8.9Hz).

(実施例 4 6)

ジメチルカルバミン酸 4- [3- (2, 4-ジクロロフェノキシ) -1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1-107)
 実施例 1 6 b で得られた N- [1- [(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3-ヒドロキシプロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル及び 2, 4-ジクロロフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0 3 1 3】

¹H-NMR(400MHz,CDCl₃) δ ppm : 2.53 (3H,s), 2.55-2.66 (1H,m), 2.95-3.07 (1H,m), 3.01 (3H,s), 3.09 (3H,s), 3.55-3.65 (1H,m), 4.07-4.13 (1H,m), 4.36-4.45 (1H,m), 6.67 (1H,d,J=8.8Hz), 7.10 (1H,dd,J=8.8Hz,2.5Hz), 7.18 (2H,d,J=8.6Hz), 7.33 (1H,d,J=2.5Hz), 7.64 (2H,d,J=8.6Hz), 10.05 (2H,br s)

(実施例 4 7)

ジメチルカルバミン酸 4- [3- (3, 4-ジクロロフェノキシ) -1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1-110)
 実施例 1 6 b で得られた N- [1- [(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3-ヒドロキシプロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル及び 3, 4-ジクロロフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0 3 1 4】

¹H-NMR(400MHz,CDCl₃) δ ppm : 2.51 (3H,s), 2.57 (1H,br s), 2.98 (1H,br s), 3.01 (3H,s), 3.10 (3H,s), 3.52-3.62 (1H,m), 3.90-3.98 (1H,m), 4.31 (1H,br s), 6.66 (1H,dd,J=8.8Hz,2.8Hz), 6.88 (1H,d,J=2.8Hz), 7.20 (2H,d,J=8.1Hz), 7.27 (1H,d,J=8.8Hz), 7.59 (2H,d,J=8.1Hz), 9.93 (1H,br s), 10.30

(1H, br s).

(実施例 48)

ジメチルカルバミン酸 4- [1-メチルアミノ-3-(4-ニトロフェノキシ)プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1-92)

(a) N- [1- [(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3-(4-ニトロフェノキシ) プロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル

トリフェニルホスフィン 420mg (1.6mmol) を窒素気流下テトラヒドロフラン 4mL に溶解し、40%アゾジカルボン酸ジエチル/トルエン溶液 0.72mL (1.6mmol) を加え、室温で 30 分間攪拌し、4-ニトロフェノール 190mg (1.4mmol) を加え、30 分間攪拌し、次いで実施例 16b で得られた N- [1- [(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3-ヒドロキシプロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル 400mg (1.1mmol) を加え、さらに 5 時間攪拌した。反応溶液に水を加え、水層をエーテルで抽出し、有機層を水及び飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を 392mg 得た。

【0315】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.39(9H, s), 2.39-2.49(2H, m), 2.60(3H, s), 3.02(3H, s), 3.11(3H, s), 4.11-4.13(2H, m), 5.60(1H, br s), 6.95(2H, d, $J=9.1$ Hz), 7.11(2H, d, $J=8.6$ Hz), 7.27-7.31(2H, m), 8.20(2H, d, $J=9.1$ Hz).

(b) ジメチルカルバミン酸 4- [1-メチルアミノ-3-(4-ニトロフェノキシ)プロピル] フェニル エステル 塩酸塩

実施例 48a で得られた N- [1- [(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3-(4-ニトロフェノキシ) プロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステルを用い、実施例 6d と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0316】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.52 (3H, s), 2.62-2.66 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.01-3.10 (1H, m), 3.10 (3H, s), 3.72-3.75 (1H, m), 4.07-4.11 (1H, m), 4.29-4.32 (1H, m), 6.86 (2H, d, $J=9.2\text{Hz}$), 7.20 (2H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 7.59 (2H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 8.15 (2H, d, $J=9.2\text{Hz}$).

IR(KBr) $\nu_{\text{max}}\text{cm}^{-1}$: 3430, 2941 2756, 2698, 2446, 1724.

MS m/z : 374 ($[\text{M}+\text{H}]^+$).

(実施例 4 9)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - アミノフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 2塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 9 5)

(a) N - [3 - (4 - アミノフェノキシ) - 1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] プロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル

実施例 4 8 a で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル 1.13g (2.4mmol) をメタノール 11mL に溶解し、5% パラジウム / 炭素 110mg を加え、水素気流下室温で 1 時間攪拌した。触媒をろ別し、ろ液の溶媒を減圧下留去した。これを酢酸エチル - ヘキサンから再結晶を行い、目的化合物を 820mg 結晶として得た。

融点 : 1 4 6 ~ 1 4 9 $^{\circ}\text{C}$

(b) ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - アミノフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 2塩酸塩

実施例 4 9 a で得られた N - [3 - (4 - アミノフェノキシ) - 1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] プロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステルを用い、実施例 6 d と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 1 7 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, DMSO-d_6) δ ppm : 2.27-2.36 (1H, m), 2.38 (3H, s), 2.60-2.

62 (1H,m), 2.90 (3H,s), 3.03 (3H,s), 3.61-3.63 (1H,m), 3.94-3.96 (1H,m), 4.38-4.41 (1H,m), 6.92 (2H,d,J=8.8Hz), 7.19-7.25 (4H,m), 7.55 (2H,d,J=8.6Hz).

(実施例 5 0)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - アセチルアミノフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 9 7)

(a) [3 - (4 - アセチルアミノフェノキシ) - 1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] プロピル] - メチル - カルバミン酸 t - ブチル エステル

実施例 4 9 a で得られた N - [3 - (4 - アミノフェノキシ) - 1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] プロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル 100mg (0.23mmol) を窒素気流下ピリジン 1mL に溶解し、無水酢酸 0.026mL (0.28mmol) を加え、室温で 3 0 分間攪拌した。反応溶液に 0.5 規定塩酸水溶液を加え、水層を酢酸エチルで抽出し、有機層を 0.5 規定塩酸水溶液、水及び飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を 106mg 得た。

(b) ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - アセチルアミノフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩

実施例 5 0 a で得られた [3 - (4 - アセチルアミノフェノキシ) - 1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] プロピル] - メチル - カルバミン酸 t - ブチル エステルを用い、実施例 6 d と同様に反応を行い目的化合物をアモルフラスとして得た。

[0 3 1 8]

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.13 (3H,s), 2.43-2.53 (1H,m), 2.47 (3H,s), 2.88-2.90 (1H,m), 3.01 (3H,s), 3.10 (3H,s), 3.57-3.62 (1H,m), 3.87-3.89 (1H,m), 4.32-4.34 (1H,m), 6.71 (2H,d,J=8.7Hz), 7.18 (2H,d,J=8.1Hz),

7.26-7.35 (2H,m), 7.59 (2H,d,J=8.1Hz), 7.63 (1H,s).

(実施例 5 1)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (3 - クロロフェノキシ) - 1 - ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 3 6)

実施例 3 8 b で得られたジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (3 - クロロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステルを用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 1 9 】

¹H-NMR(400MHz,CDCl₃) δ ppm : 2.60 (3H,brs), 2.60-2.71 (1H,m), 2.88-2.97 (1H,m), 3.02 (3H,s), 3.11 (3H,s), 3.49-3.55 (1H,m), 3.96-4.00 (1H,m), 4.24-4.29 (1H,m), 6.64 (1H,ddd,J=8.4Hz,2.2Hz,0.8Hz), 6.74 (1H,t,J=2.2Hz), 6.92 (1H,ddd,J=8.4Hz,2.2Hz,0.8Hz), 7.15 (1H,t,J=8.2Hz), 7.23 (2H,d,J=8.7Hz), 7.57 (2H,d,J=8.7Hz).

(実施例 5 2)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (2 - クロロフェノキシ) - 1 - ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 3 7)

実施例 3 9 で得られたジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (2 - クロロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステルを用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 2 0 】

¹H-NMR(400MHz,CDCl₃) δ ppm : 2.58 (3H,s), 2.69-2.77 (1H,m), 2.90-3.00 (4H,m), 3.01 (3H,s), 3.09 (3H,s), 3.47-3.53 (1H,m), 4.13-4.17 (1H,m), 4.32-4.35 (1H,m), 6.73 (1H,dd,J=7.9Hz,1.3Hz), 6.89 (1H,td,J=7.9Hz,1.3Hz), 7.15 (1H,td,J=7.9Hz,1.6Hz), 7.20 (2H,d,J=8.7Hz), 7.34 (1H,dd,J=7.9Hz,1.6Hz), 7.66 (2H,d,J=8.7Hz).

(実施例 5 3)

ジメチルカルバミン酸 4- [1-メチルアミノ-3- (3-ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1-94)

(a) N- [1- [(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3- (3-ニトロフェノキシ) プロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル

実施例 16 b で得られた N- [1- [(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3-ヒドロキシプロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル及び 3-ニトロフェノールを用い、実施例 7 f と同様に反応を行い目的化合物を得た。

(b) ジメチルカルバミン酸 4- [1-メチルアミノ-3- (3-ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩

実施例 53 a で得られた N- [1- [(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3- (3-ニトロフェノキシ) プロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステルを用い、実施例 6 d と同様に反応を行い目的化合物を得た。

【0321】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.53 (3H, s), 2.64-2.67 (1H, m), 2.96-3.09 (1H, m), 3.00 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.70-3.74 (1H, m), 4.06-4.10 (1H, m), 4.32-4.36 (1H, m), 7.15 (1H, dd, $J=8.2\text{Hz}, 2.4\text{Hz}$), 7.21 (1H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 7.39 (1H, t, $J=8.2\text{Hz}$), 7.59 (1H, s), 7.60 (2H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 7.80 (1H, dd, $J=8.2\text{Hz}, 2.4\text{Hz}$).

(実施例 54)

ジメチルカルバミン酸 4- [3- (3, 4-ジフルオロフェノキシ) -1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1-102)
 実施例 16 b で得られた N- [1- [(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3-ヒドロキシプロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル及び 3, 4-ジフルオロフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を

行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 2 2 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.52 (3H, br s), 2.55-2.62 (1H, m), 2.92-3.02 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.10 (3H, s), 3.52-3.59 (1H, m), 3.89-3.95 (1H, m), 4.28-4.35 (1H, m), 6.45-6.51 (1H, m), 6.61 (1H, ddd, $J=11.9\text{Hz}, 6.6\text{Hz}, 2.2\text{Hz}$), 7.00 (1H, q, $J=9.4\text{Hz}$), 7.19 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.59 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$) 9.93 (1H, br s), 10.30 (1H, br s).

(実施例 5 5)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - クロロ - 3 - フルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 0 4)

実施例 1 6 b で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル 及び 4 - クロロ - 3 - フルオロフェノール を用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 2 3 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.52 (3H, br s), 2.51-2.62 (1H, m), 2.91-3.04 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.10 (3H, s), 3.53-3.62 (1H, m), 3.90-3.98 (1H, m), 4.27-4.34 (1H, m), 6.52-6.55 (1H, m), 6.60 (1H, dd, $J=10.7\text{Hz}, 2.7\text{Hz}$), 7.18-7.25 (3H, m), 7.59 (2H, d, $J=8.3\text{Hz}$), 9.94 (1H, br s), 10.32 (1H, br s).

(実施例 5 6)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - シアノフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 9 1)

実施例 1 6 b で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル 及び 4 - ヒドロキシベンゾニトリル を用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 2 4 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.51 (3H, br s), 2.55-2.68 (1H, m), 2.95-3.05 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.10 (3H, s), 3.64-3.72 (1H, m), 3.98-4.07 (1H, m), 4.25-4.35 (1H, m), 6.84 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 7.19 (2H, d, $J=8.3\text{Hz}$), 7.53 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 7.58 (2H, d, $J=8.3\text{Hz}$) 9.96 (1H, br s), 10.36 (1H, br s).

(実施例 5 7)

ジメチルカルバミン酸 4- [3- (4- ブロモフェノキシ) - 1- メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1- 8 1)

実施例 1 6 b で得られた N- [1- [(4- ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3- ヒドロキシプロピル] - N- メチルカルバミン酸 t- ブチル エステル 及び 4- ブロモフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 2 5 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.51 (3H, br s), 2.52-2.62 (1H, m), 2.92-3.03 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.53-3.61 (1H, m), 3.88-3.97 (1H, m), 4.28-4.38 (1H, m), 6.66 (2H, d, $J=9.0\text{Hz}$), 7.18 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.31 (2H, d, $J=9.0\text{Hz}$), 7.59 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$) 9.91 (1H, br s), 10.22 (1H, br s).

(実施例 5 8)

ジメチルカルバミン酸 4- [3- (4- フルオロ- 2- メチルフェノキシ) - 1- メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1- 1 1)

実施例 1 6 b で得られた N- [1- [(4- ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3- ヒドロキシプロピル] - N- メチルカルバミン酸 t- ブチル エステル 及び 4- フルオロ- 2- メチルフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 2 6 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.19 (3H, s), 2.51 (3H, br s), 2.53-2.63 (

1H,m), 2.93-3.03 (1H,m), 3.01 (3H,s), 3.09 (3H,s), 3.54-3.62 (1H,m), 3.89-3.97 (1H,m), 4.28-4.37 (1H,m), 6.53 (1H,dd,J=8.7Hz,4.5Hz), 6.73 (1H,td,J=8.7Hz,3.0Hz), 6.82 (1H,dd,J=8.7Hz,3.0Hz), 7.19 (2H,d,J=8.5Hz), 7.60 (2H,d,J=8.5Hz) 9.94 (1H,br s), 10.32 (1H,br s).

(実施例 59)

ジメチルカルバミン酸 4 - (1 - メチルアミノ - 3 - m-トルイルオキシプロピル) フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 83)

実施例 16b で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル 及び 3 - メチルフェノールを用い、実施例 7f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0327】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.28 (3H,s) 2.52 (3H,s), 2.48-2.60 (1H,m), 2.90-3.03 (1H,m), 3.00 (3H,s), 3.09 (3H,s), 3.53-3.61 (1H,m), 3.89-3.97 (1H,m), 4.32-4.40 (1H,m), 6.56-6.62 (2H,m), 6.73 (1H,d,J=7.6Hz), 7.10 (1H,t,J=7.6Hz), 7.18 (2H,d,J=8.5Hz), 7.61 (2H,d,J=8.5Hz), 9.93 (1H,br s), 10.25 (1H,br s).

(実施例 60)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (3, 4 - ジメチルフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 114)

実施例 16b で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル 及び 3, 4 - ジメチルフェノールを用い、実施例 7f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0328】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.15 (3H,s), 2.18 (3H,s), 2.51 (3H,br s), 2.45-2.58 (1H,m), 2.87-3.00 (1H,m), 3.00 (3H,s), 3.08 (3H,s), 3.48-3.5

7 (1H,m), 3.86-3.94 (1H,m), 4.34 (1H,br s), 6.51 (1H,dd,J=8.2Hz,2.6Hz), 6.59 (1H,d,J=2.6Hz), 6.95 (1H,d,J=8.2Hz), 7.17 (2H,d,J=8.6Hz), 7.60 (2H,d,J=8.6Hz), 9.90 (1H,br s), 10.24(1H,br s).

(実施例 61)

ジメチルカルバミン酸 (R) - 4 - [3 - (3 - クロロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 79)

(a) (R) - 3 - t - ブトキシカルボニルアミノ - 3 - (4 - ヒドロキシフェニル) プロピオン酸 メチル エステル

Tetrahedron: Asymmetry, 1991, 2, 183に記載されている手法によって合成した (R) - 3 - アミノ - 3 - (4 - ヒドロキシフェニル) プロピオン酸 メチル エステルを用い、実施例 6 aと同様に反応を行い目的化合物を得た。これを酢酸エチル - ヘキサンから再結晶を行い、目的化合物を光学純度 99%以上の結晶として得た。なお、光学純度の測定にはダイセル化学工業社製のCHIRALCEL OD カラムを用いたHPLC (ヘキサン : イソプロピルアルコール = 95 : 5) を用いた。

融点 : 130 ~ 132℃

(b) (R) - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] カルバミン酸 t - ブチル エステル

実施例 61 aで得られた (R) - 3 - t - ブトキシカルボニルアミノ - 3 - (4 - ヒドロキシフェニル) プロピオン酸 メチル エステルを用い、実施例 7 d、eと同様に反応を行い目的化合物を得た。

(c) (R) - [3 - (3 - クロロフェノキシ) - 1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] プロピル] カルバミン酸 t - ブチル エステル

実施例 61 bで得られた (R) - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] カルバミン酸 t - ブチル エステル及び 3 - クロロフェノールを用い、実施例 7 fと同様に反応を行い目的化合物を得た。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.41 (9H, s), 2.34-2.44 (2H, m), 3.02 (3H, s), 3.11 (3H, s), 4.00 (2H, br s), 5.54 (2H, br s), 6.78 (1H, d, $J=8.1\text{Hz}$), 6.89 (1H, s), 6.94 (1H, d, $J=8.1\text{Hz}$), 7.12 (2H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 7.17 (1H, t, $J=8.1\text{Hz}$), 7.29 (2H, br s).

(d) (R) -N- [3- (3-クロロフェノキシ) -1- [(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] プロピル] -N-メチルカルバミン酸 *t*-ブチル エステル

水素化ナトリウム1.75g (40mmol)に窒素気流下N, N-ジメチルホルムアミド30 mLを加え、氷冷下実施例61cで得られた(R) - [3- (3-クロロフェノキシ) -1- [(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] プロピル] カルバミン酸 *t*-ブチル エステル7.00g (16mmol)のN, N-ジメチルホルムアミドを加え30分間攪拌し、次いでヨウ化メチル1.9mL (30mmol)を加え、室温に昇温し一晩攪拌した。反応溶液に水を加え、水層を酢酸エチルで抽出し、有機層を水及び飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を6.14g得た。

(e) ジメチルカルバミン酸 (R) -4- [3- (3-クロロフェノキシ) -1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩

実施例61dで得られた(R) -N- [3- (3-クロロフェノキシ) -1- [(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] プロピル] -N-メチルカルバミン酸 *t*-ブチル エステルを用い、実施例6dと同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0329】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.52 (3H, s), 2.52-2.61 (1H, m), 2.93-3.05 (1H, m), 3.00 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.55-3.60 (1H, m), 3.92-3.97 (1H, m), 4.31-4.35 (1H, m), 6.68 (1H, dd, $J=8.1\text{Hz}, 2.1\text{Hz}$), 6.78 (1H, t, $J=2.1\text{Hz}$), 6.90 (1H, dd, $J=8.1\text{Hz}, 2.1\text{Hz}$), 7.14 (1H, t, $J=8.1\text{Hz}$), 7.19 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.60 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$).

(実施例 62)

ジメチルカルバミン酸 (R) - 4 - [3 - (4 - クロロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 78)
 実施例 61 b で得られた (R) - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] カルバミン酸 t - ブチル エステル及び 4 - クロロフェノールを用い、実施例 61 c ~ e と同様に反応を行い目的化合物を得た。

【0330】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.51 (3H, s), 2.51-2.59 (1H, m), 2.94-3.01 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.55-3.59 (1H, m), 3.91-4.13 (1H, m), 4.30-4.34 (1H, m), 6.71 (2H, d, $J=9.0\text{Hz}$), 7.15-7.19 (4H, m), 7.59 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$).

(実施例 63)

ジエチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - クロロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 7)

(a) N - [3 - (4 - クロロフェノキシ) - 1 - (3 - ヒドロキシフェニル) プロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル

実施例 16 c で得られた [3 - (4 - クロロフェノキシ) - 1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] プロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステルを用い、実施例 6 b と同様に反応を行い目的化合物を得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.41 (9H, s), 2.29-2.39 (2H, m), 2.57 (3H, s), 3.97 (2H, br s), 5.21 (1H, br s), 5.51 (1H, br s), 6.79-6.82 (4H, m), 7.17 (2H, d, $J=7.4\text{Hz}$), 7.22 (2H, d, $J=8.9\text{Hz}$).

(b) ジエチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - クロロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩

実施例 63 a で得られた N - [3 - (4 - クロロフェノキシ) - 1 - (3 - ヒド

ロキシフェニル) プロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステルを用い、実施例 2 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 3 1 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.18-1.27 (6H, m), 2.50 (3H, s), 2.49-2.58 (1H, m), 2.94-3.01 (1H, m), 3.34-3.45 (4H, m), 3.54-3.59 (1H, m), 3.90-3.96 (1H, m), 4.32 (1H, br s), 6.71 (2H, d, $J=9.2\text{Hz}$), 7.17 (2H, d, $J=8.9\text{Hz}$), 7.19 (2H, d, $J=9.2\text{Hz}$), 7.59 (2H, d, $J=8.9\text{Hz}$), 9.95 (1H, br s), 10.31 (1H, br s).

(実施例 6 4)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (3 - アミノフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 2塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 9 6)

(a) N - [3 - (3 - アミノフェノキシ) - 1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] プロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル

実施例 5 3 a で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - (3 - ニトロフェノキシ) プロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステルを用い、実施例 4 9 a と同様に反応を行い目的化合物を得た。

(b) ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (3 - アミノフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 2塩酸塩

実施例 6 4 a で得られた N - [3 - (3 - アミノフェノキシ) - 1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] プロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステルを用い、実施例 6 d と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 3 2 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, DMSO-d_6) δ ppm : 2.28-2.39 (1H, m), 2.39 (3H, t, $J=5.0\text{Hz}$), 2.59-2.64 (1H, m), 2.90 (3H, s), 3.03 (3H, s), 3.56-3.63 (1H, m), 3.90-3.95 (1H, m), 4.38-4.42 (1H, m), 6.66-6.75 (3H, m), 7.19-7.27 (3H, m), 7.56 (2H,

d, J=8.4Hz).

(実施例 6 5)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (3 - アセチルアミノフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 9 8)

(a) [3 - (3 - アセチルアミノフェノキシ) - 1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] プロピル] -メチル-カルバミン酸 t - ブチル エステル

実施例 6 4 a で得られた N - [3 - (3 - アミノフェノキシ) - 1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] プロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステルを用い、実施例 5 0 a と同様に反応を行い目的化合物を得た。

(b) ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (3 - アセチルアミノフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩

実施例 6 5 a で得られた [3 - (3 - アセチルアミノフェノキシ) - 1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] プロピル] -メチル-カルバミン酸 t - ブチル エステルを用い、実施例 6 d と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 3 3 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.13 (3H, s), 2.48 (4H, br s), 2.86 (1H, br s), 3.03 (3H, s), 3.12 (3H, s), 3.74 (1H, br s), 3.86 (1H, br s), 4.28 (1H, br s), 6.50 (1H, d, J=5.9Hz), 6.59 (1H, br s), 7.13-7.16 (3H, m), 7.36-7.37 (1H, m), 7.57 (2H, br s), 8.41 (1H, br s), 9.82 (1H, br s), 10.01 (1H, br s).

(実施例 6 6)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - メチルアミノ - 3 - (2 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 9 3)

実施例 1 6 b で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェ

ニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 2 - ニトロフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 3 4 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.56 (3H, s), 2.62-2.70 (1H, m), 2.95-3.03 (1H, m), 3.00 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.75-3.81 (1H, m), 4.28-4.33 (1H, m), 4.46-4.50 (1H, m), 6.96 (1H, dd, $J=8.0\text{Hz}, 1.0\text{Hz}$), 7.02 (1H, td, $J=8.0\text{Hz}, 1.0\text{Hz}$), 7.17 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.48 (1H, td, $J=8.0\text{Hz}, 1.6\text{Hz}$), 7.69 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.87 (1H, dd, $J=8.0\text{Hz}, 1.6\text{Hz}$).

(実施例 6 7)

ジメチルカルバミン酸 4 - (1 - メチルアミノ - 3 - フェノキシプロピル) フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 7 4)

実施例 1 6 b で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及びフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 3 5 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.48-2.59 (1H, m), 2.52 (3H, s), 2.93-3.00 (1H, m), 3.00 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.56-3.62 (1H, m), 3.94-3.98 (1H, m), 4.34-4.38 (1H, m), 6.79 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 6.91 (1H, t, $J=7.3\text{Hz}$), 7.17-7.24 (4H, m), 7.61 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$).

(実施例 6 8)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (3 - フルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 7 6)

実施例 1 6 b で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 3 - フルオロフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目

的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 3 6 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.52 (3H, s), 2.52-2.61 (1H, m), 2.93-3.00 (1H, m), 3.00 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.55-3.61 (1H, m), 3.93-3.97 (1H, m), 4.32-4.35 (1H, m), 6.50 (1H, dt, $J=10.8\text{Hz}, 2.3\text{Hz}$), 6.57 (1H, dd, $J=7.3\text{Hz}, 2.3\text{Hz}$), 6.62 (1H, td, $J=8.3\text{Hz}, 2.3\text{Hz}$), 7.13-7.20 (3H, m), 7.60 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$) 9.93 (1H, br s), 10.28 (1H, br s).

(実施例 6 9)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (2 - フルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 7 7)

実施例 1 6 b で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 2 - フルオロフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 3 7 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.53 (3H, s), 2.53-2.63 (1H, m), 2.97-3.09 (1H, m), 3.00 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.61-3.67 (1H, m), 4.06-4.13 (1H, m), 4.39-4.41 (1H, m), 6.79-6.90 (2H, m), 6.96-7.06 (2H, m), 7.18 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.65 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$) 9.91 (1H, br s), 10.23 (1H, br s).

(実施例 7 0)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - ジメチルアミノ - 3 - (3 - フルオロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 3 3)

実施例 6 8 で得られたジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (3 - フルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステルを用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 3 8 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.60 (3H, s), 2.60-2.73 (1H, m), 2.91 (3H,

s), 2.91-3.02 (1H,m), 3.02 (3H,s), 3.11 (3H,s), 3.49-3.55 (1H,m), 3.96-4.00 (1H,m), 4.26-4.29 (1H,m), 6.46 (1H,dt,J=10.7Hz,2.3Hz), 6.53 (1H,dd,J=8.3Hz,2.3Hz), 6.64 (1H,td,J=8.3Hz,2.3Hz), 7.14-7.24 (3H,m), 7.58 (2H,d,J=8.5Hz).

(実施例 7 1)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - ジメチルアミノ - 3 - (2 - フルオロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 3 4)

実施例 6 9 で得られたジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (2 - フルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステルを用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 3 9 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.58 (3H,s), 2.68-2.73 (1H,m), 2.95 (4H,br s), 3.01 (3H,s), 3.10 (3H,s), 3.49-3.56 (1H,m), 4.09-4.15 (1H,m), 4.31 (1H,br s), 6.78 (1H,t,J=8.3Hz), 6.87-6.92 (1H,m), 6.97-7.08 (2H,m), 7.21 (2H,d,J=7.9Hz), 7.64 (2H,d,J=7.9Hz).

(実施例 7 2)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (3 - アセチルフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 9 0)

実施例 1 6 b で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 3 - アセチルフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 4 0 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.47-2.66 (1H,m), 2.53 (3H,s), 2.56 (3H,s), 2.93-3.06 (1H,m), 3.00 (3H,s), 3.09 (3H,s), 3.61-3.70 (1H,m), 3.98-4.07 (1H,m), 4.32-4.40 (1H,m), 7.02 (1H,dd,J=7.9Hz,2.5Hz), 7.18 (2H,d,J=8.5Hz), 7.32 (1H,t,J=7.9Hz), 7.34 (1H,br s), 7.51 (1H,d,J=7.9Hz), 7.60 (2

H,d,J=8.5Hz), 10.10 (2H,br s).

(実施例 7 3)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - クロロ - 3 - メチルフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 1 3)

実施例 1 6 b で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 4 - クロロ - 3 - メチルフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 4 1 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.28 (3H,s), 2.50-2.62 (1H,m), 2.51 (3H,br s), 2.89-3.05 (1H,m), 3.01 (3H,s), 3.09 (3H,s), 3.50-3.59 (1H,m), 3.86-3.95 (1H,m), 4.27-4.37 (1H,m), 6.55 (1H,dd,J=8.7Hz,2.9Hz), 6.65 (1H,d,J=2.9Hz), 7.15 (1H,d,J=8.7Hz), 7.18 (2H,d,J=8.5Hz), 7.59 (2H,d,J=8.5Hz), 9.96 (1H,br s), 10.33 (1H,br s).

(実施例 7 4)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (3 - クロロ - 4 - フルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 0 9)

実施例 1 6 b で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 3 - クロロ - 4 - フルオロフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 4 2 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.51 (3H,br s), 2.50-2.63 (1H,m), 2.91-3.04 (1H,m), 3.01 (3H,s), 3.10 (3H,s), 3.51-3.60 (1H,m), 3.88-3.97 (1H,m), 4.25-4.36 (1H,m), 6.65 (1H,dt,J=8.9Hz,3.0Hz), 6.81 (1H,dd,J=6.0Hz,3.0Hz)

z), 6.99 (1H, t, J=8.9Hz), 7.20 (2H, d, J=8.6Hz), 7.59 (2H, d, J=8.6Hz), 9.98 (1H, br s), 10.34 (1H, br s).

(実施例 7 5)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - アセチルフェノキシ) - 1 - ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 4 6)

実施例 4 5 で得られたジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - アセチルフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステルを用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 4 3 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.53 (3H, s), 2.62 (3H, br s), 2.67-2.79 (1H, br s), 2.90 (3H, br s), 2.99 (1H, br s), 3.02 (3H, s), 3.10 (3H, s), 3.63 (1H, br s), 4.06 (1H, br s), 4.30 (1H, br s), 6.78 (2H, d, J=8.7Hz), 7.22 (2H, d, J=8.2Hz), 7.57 (2H, d, J=8.2Hz), 7.87 (2H, d, J=8.7Hz).

(実施例 7 6)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (3, 4 - ジフルオロフェノキシ) - 1 - ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 5 9)

実施例 5 4 で得られたジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (3, 4 - ジフルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステルを用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 4 4 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.61 (3H, br s), 2.60-2.75 (1H, m), 2.90 (3H, br s), 2.88-3.00 (1H, m), 3.02 (3H, s), 3.11 (3H, s), 3.45-3.55 (1H, m), 3.88-3.98 (1H, m), 4.22-4.31 (1H, br s), 6.40-6.47 (1H, m), 6.56 (1H, ddd, J=11.7Hz, 6.5Hz, 2.9Hz), 7.01 (1H, q, J=9.4Hz), 7.23 (2H, d, J=8.4Hz), 7.56 (2H, d, J=8.4Hz).

(実施例 7 7)

ジエチルカルバミン酸 4 - [3 - (3 - クロロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 8)

実施例 3 8 a で得られた [3 - (3 - クロロフェノキシ) - 1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] プロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステルを用い、実施例 6 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 4 5 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.18-1.28 (6H, m), 2.51 (3H, s), 2.50-2.61 (1H, m), 2.94-3.02 (1H, m), 3.36-3.44 (4H, m), 3.54-3.59 (1H, m), 3.91-3.96 (1H, m), 4.34 (1H, br s), 6.68 (1H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 6.77 (1H, s), 6.89 (1H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.13 (1H, t, $J=8.5\text{Hz}$), 7.20 (2H, d, $J=8.2\text{Hz}$), 7.60 (2H, d, $J=8.2\text{Hz}$), 9.95 (1H, br s), 10.28 (1H, br s).

(実施例 7 8)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - クロロ - 3 - フルオロフェノキシ) - 1 - ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 6 1)

実施例 5 5 で得られたジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - クロロ - 3 - フルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステルを用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 4 6 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.61 (3H, br s), 2.62-2.75 (1H, m), 2.90 (3H, br s), 2.96 (1H, br s), 3.02 (3H, s), 3.11 (3H, s), 3.46-3.55 (1H, m), 3.91-4.01 (1H, m), 4.26 (1H, br s), 6.49 (1H, dd, $J=8.8\text{Hz}, 1.8\text{Hz}$), 6.55 (1H, dd, $J=10.6\text{Hz}, 2.6\text{Hz}$), 7.21 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.23 (1H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 7.55 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$).

(実施例 7 9)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (3 , 5 - ジフルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 0 3)
 実施例 1 6 b で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 3 , 5 - ジフルオロフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 4 7 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.52 (3H, br s), 2.52-2.63 (1H, m), 2.91-3.03 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.10 (3H, s), 3.52-3.61 (1H, m), 3.90-3.98 (1H, m), 4.30 (1H, br s), 6.32 (2H, dd, $J=8.8\text{Hz}, 2.1\text{Hz}$), 6.38 (1H, tt, $J=9.0\text{Hz}, 2.1\text{Hz}$), 7.20 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.59 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 9.99 (1H, br s), 10.38 (1H, br s).

(実施例 8 0)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - メチルアミノ - 3 - (3 , 4 , 5 - トリフルオロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 1 7)

実施例 1 6 b で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 3 , 4 , 5 - トリフルオロフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 4 8 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.51 (3H, br s), 2.52-2.63 (1H, m), 2.92-3.03 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.10 (3H, s), 3.49-3.58 (1H, m), 3.87-3.95 (1H, m), 4.28 (1H, br s), 6.37-6.47 (2H, m), 7.20 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.59 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 9.99 (1H, br s), 10.34 (1H, br s).

(実施例 8 1)

ジメチルカルバミン酸 (S) - 4 - [3 - (3 - クロロフェノキシ) - 1 - メ

チルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1-79)

(a) (S)-[1-[(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3-ヒドロキシプロピル] カルバミン酸 t-ブチル エステル

Tetrahedron: Asymmetry, 1991, 2, 183に記載されている手法によって合成した (S)-3-アミノ-3-(4-ヒドロキシフェニル) プロピオン酸 メチル エステルを用い、実施例 61 a、b と同様に反応を行い目的化合物を得た。

【 0 3 4 9 】

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.42 (9H, s), 2.78-2.90 (2H, m), 3.00 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.62 (3H, s), 5.09 (1H, br s), 5.42 (1H, br s), 7.07 (2H, d, $J=9.0\text{Hz}$), 7.28 (2H, d, $J=9.0\text{Hz}$).

(b) ジメチルカルバミン酸 (S)-4-[3-(3-クロロフェノキシ)-1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩

実施例 81 a で得られた (S)-[1-[(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3-ヒドロキシプロピル] カルバミン酸 t-ブチル エステル及び 3-クロロフェノールを用い、実施例 7 f、実施例 61 d、e と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 5 0 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.52 (3H, s), 2.52-2.61 (1H, m), 2.93-3.05 (1H, m), 3.00 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.55-3.60 (1H, m), 3.92-3.97 (1H, m), 4.31-4.35 (1H, m), 6.68 (1H, dd, $J=8.1\text{Hz}, 2.1\text{Hz}$), 6.78 (1H, t, $J=2.1\text{Hz}$), 6.90 (1H, dd, $J=8.1\text{Hz}, 2.1\text{Hz}$), 7.14 (1H, t, $J=8.1\text{Hz}$), 7.19 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.60 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$).

(実施例 82)

ジメチルカルバミン酸 (S)-4-[3-(4-クロロフェノキシ)-1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1-78)

実施例 81 a で得られた (S)-[1-[(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3-ヒドロキシプロピル] カルバミン酸 t-ブチル エステル及び

4-クロロフェノールを用い、実施例7f、実施例61d、eと同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0351】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.51 (3H, s), 2.51-2.59 (1H, m), 2.94-3.01 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.55-3.59 (1H, m), 3.91-4.13 (1H, m), 4.30-4.34 (1H, m), 6.71 (2H, d, $J=9.0\text{Hz}$), 7.15-7.19 (4H, m), 7.59 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$).

(実施例83)

N-エチル-N-メチルカルバミン酸 4-[3-(4-クロロフェノキシ)-1-メチルアミノプロピル]フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号1-10)

(a) N-[3-(4-クロロフェノキシ)-1-[4-(N-エチル-N-メチルカルバモイルオキシ)フェニル]プロピル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル

実施例63aで得られたN-[3-(4-クロロフェノキシ)-1-(3-ヒドロキシフェニル)プロピル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル200mg (0.51mmol)をジクロロメタン3mLに溶解し、N,N-カルボニルジイミダゾール165mg (1.0mmol)を加え室温で一晩攪拌した後、エチルメチルアミン0.09mL (1.0mmol)を加え、さらに1日間攪拌した。反応溶液に水を加え、水層をジクロロメタンで抽出し、有機層を無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を96mg得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.17-1.26 (6H, m), 1.41 (9H, s), 2.33-2.57 (2H, m), 2.59 (3H, s), 2.99 (3H, s), 3.07 (3H, s), 3.41 (2H, q, $J=7.1\text{Hz}$), 3.46 (2H, q, $J=7.1\text{Hz}$), 3.98 (2H, br s), 5.56 (1H, br s), 6.81 (2H, d, $J=9.0\text{Hz}$), 7.10 (2H, d, $J=6.4\text{Hz}$), 7.22 (2H, d, $J=9.0\text{Hz}$), 7.29 (2H, d, $J=6.4\text{Hz}$).

(b) N-エチル-N-メチルカルバミン酸 4-[3-(4-クロロフェノキ

シ) -1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩

実施例 8 3 a で得られた N - [3 - (4 - クロロフェノキシ) - 1 - [4 - (N - エチル - N - メチルカルバモイルオキシ) フェニル] プロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステルを用い、実施例 6 d と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 5 2 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.19 and 1.23 (3H, t, $J=7.1\text{Hz}$), 2.50 (3H, s), 2.49-2.60 (1H, m), 2.92-3.00 (1H, m), 2.98 and 3.06 (3H, s), 3.40 and 3.46 (2H, q, $J=7.1\text{Hz}$), 3.53-3.60 (1H, m), 3.89-3.96 (1H, m), 4.32 (1H, br s), 6.71 (2H, d, $J=8.9\text{Hz}$), 7.15-7.20 (4H, m), 7.59 (2H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 9.93 (1H, br s), 10.30 (1H, br s).

(実施例 8 4)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (3, 5 - ジフルオロフェノキシ) - 1 - ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 6 0)

実施例 7 9 で得られたジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (3, 5 - ジフルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステルを用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 5 3 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.60 (3H, br s), 2.63-2.75 (1H, m), 2.90 (3H, br s), 2.92-3.03 (1H, m), 3.02 (3H, s), 3.11 (3H, s), 3.44-3.55 (1H, m), 3.92-4.00 (1H, m), 4.20-4.28 (1H, m), 6.23-6.32 (2H, m), 6.40 (1H, tt, $J=8.9\text{Hz}$, $z, 2.2\text{Hz}$), 7.24 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.56 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$).

(実施例 8 5)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (2, 4 - ジフルオロフェノキシ) - 1 - ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 5 8)

実施例 4 3 で得られたジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (2, 4 - ジフルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステルを用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 5 4 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.59 (3H, br s), 2.63-2.75 (1H, m), 2.94 (3H, br s), 2.90-3.01 (1H, m), 3.02 (3H, s), 3.10 (3H, s), 3.47-3.57 (1H, m), 4.02-4.08 (1H, m), 4.25-4.34 (1H, m), 6.68-6.78 (2H, m), 6.79-6.87 (1H, m), 7.23 (2H, d, $J=8.3\text{Hz}$), 7.63 (2H, d, $J=8.3\text{Hz}$).

(実施例 8 6)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - ジメチルアミノ - 3 - (3 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 5 1)

実施例 5 3 で得られたジメチルカルバミン酸 4 - [1 - メチルアミノ - 3 - (3 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステルを用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 5 5 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.62 (3H, d, $J=4.7\text{Hz}$), 2.70-2.78 (1H, m), 2.89 (3H, d, $J=4.7\text{Hz}$), 2.99-3.09 (1H, m), 3.02 (3H, s), 3.11 (3H, s), 3.63-3.69 (1H, m), 4.06-4.09 (1H, m), 4.29-4.34 (1H, m), 7.10 (1H, dd, $J=8.2\text{Hz}, 2.3\text{Hz}$), 7.24 (2H, d, $J=8.7\text{Hz}$), 7.40 (1H, t, $J=8.2\text{Hz}$), 7.55-7.57 (3H, m), 7.81 (1H, d, $J=8.2\text{Hz}, 2.3\text{Hz}$).

(実施例 8 7)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (3 - クロロフェニルアミノ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 2塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 5 2)

(a) N - [3 - [N - t - ブトキシカルボニル) - N - メチルアミノ] - 3 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] プロピル] - N - (3 - クロロフェニル) カルバミン酸 t - ブチル エステル

実施例 1 6 b で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェ

ニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル 100mg (0.28mmol) を窒素気流下テトラヒドロフラン 1.5mL に溶解し、トリエチルアミン 0.07mL (0.50mmol) を加えた後、氷冷下メタンスルホンクロリド 0.03mL (0.34mmol) を加え、室温で 45 分間攪拌した。反応溶液に水を加え、水層を酢酸エチルで抽出し、有機層を飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去し、メタンスルホン酸エステルを得た。水素化ナトリウム 15mg (0.33mmol) に窒素気流下 N, N - ジメチルホルムアミド 1.5mL を加え、氷冷下 (3 - クロロフェニル) カルバミン酸 t - ブチル エステル 75mg (0.33mmol) の N, N - ジメチルホルムアミド溶液を加え 30 分間攪拌し、先に得たメタンスルホン酸エステルの N, N - ジメチルホルムアミド溶液を加え室温でさらに 2 日間攪拌した。反応溶液に水を加え、水層をエーテルで抽出し、有機層を飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を 106mg 得た。

(b) ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (3 - クロロフェニルアミノ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 2塩酸塩

実施例 87a で得られた N - [3 - [N - t - ブトキシカルボニル) - N - メチルアミノ] - 3 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] プロピル] - N - (3 - クロロフェニル) カルバミン酸 t - ブチル エステルを用い、実施例 6d と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0356】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.46 (3H, s), 2.77-2.82 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.10 (3H, s), 3.21 (1H, t, $J=10.7\text{Hz}$), 3.36 (2H, br s), 4.08 (1H, br s), 7.25 (2H, d, $J=8.0\text{Hz}$), 7.33 (2H, d, $J=6.7\text{Hz}$), 7.46 (1H, br s), 7.56 (1H, s), 7.63 (2H, br s).

(実施例 88)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (3 - フルオロ - 4 - ニトロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1

95)

3-フルオロ-4-ニトロフェノールを用い、実施例48と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0357】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.52 (3H, s), 2.62-2.68 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.01-3.07 (1H, m), 3.10 (3H, s), 3.72-3.76 (1H, m), 4.08-4.10 (1H, m), 4.23-4.31 (1H, m), 6.63-6.68 (2H, m), 7.21 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.59 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 8.05 (1H, t, $J=8.9\text{Hz}$).

(実施例89)

ジメチルカルバミン酸 4-[1-ジメチルアミノ-3-(4-ニトロフェノキシ)プロピル]フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号1-149)

実施例48bで得られたジメチルカルバミン酸 4-[1-メチルアミノ-3-(4-ニトロフェノキシ)プロピル]フェニル エステルを用い、実施例3と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0358】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.62 (3H, br s), 2.72-2.79 (1H, m), 2.88 (3H, br s), 2.99-3.07 (1H, m), 3.02 (3H, s), 3.11 (3H, s), 3.67-3.73 (1H, m), 4.08-4.13 (1H, m), 4.28-4.31 (1H, m), 6.81 (2H, d, $J=9.2\text{Hz}$), 7.24 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.55 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 8.15 (2H, d, $J=9.2\text{Hz}$).

(実施例90)

ジメチルカルバミン酸 4-[3-(4-クロロ-3-ニトロフェノキシ)-1-メチルアミノプロピル]フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号1-116)

実施例16bで得られたN-[1-[(4-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル]-3-ヒドロキシプロピル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル及び4-クロロ-3-ニトロフェノールを用い、実施例7f、gと同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 5 9 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.51 (3H, s), 2.59-2.67 (1H, m), 2.97-3.10 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.10 (3H, s), 3.67-3.73 (1H, m), 4.02-4.07 (1H, m), 4.28-4.31 (1H, m), 6.98 (1H, dd, $J=8.9\text{Hz}$, 3.0Hz), 7.21 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.28 (1H, d, $J=3.0\text{Hz}$), 7.39 (1H, d, $J=8.9\text{Hz}$), 7.59 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$).

(実施例 9 1)

ジメチルカルバミン酸 4- [1-メチルアミノ-3-(2, 3, 5-トリフルオロフェノキシ)プロピル]フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1-118)

実施例 16b で得られた N- [1- [(4-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル]-3-ヒドロキシプロピル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル及び 2, 3, 5-トリフルオロフェノールを用い、実施例 7f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 6 0 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.54 (3H, s), 2.62-2.68 (1H, m), 3.02 (3H, s), 3.02-3.11 (1H, m), 3.11 (3H, s), 3.62-3.66 (1H, m), 4.09-4.12 (1H, m), 4.35-4.38 (1H, m), 6.35-6.39 (1H, m), 6.49-6.54 (1H, m), 7.22 (2H, d, $J=8.3\text{Hz}$), 7.65 (2H, d, $J=8.3\text{Hz}$).

(実施例 9 2)

ジメチルカルバミン酸 4- [3-(3-フルオロフェニルアミノ)-1-メチルアミノプロピル]フェニル エステル 2塩酸塩 (例示化合物番号 1-51)

(3-フルオロフェニル)カルバミン酸 t-ブチル エステルを用い、実施例 87 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 6 1 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.46 (3H, s), 2.76-2.82 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.10 (3H, s), 3.20-3.26 (1H, m), 3.34-3.45 (2H, m), 4.07-4.13 (1H, m), 7.06-7.11 (1H, m), 7.24-7.26 (1H, m), 7.30-7.42 (4H, m), 7.64 (2H, br s).

(実施例 9 3)

ジメチルカルバミン酸 4 - [2 - (4 - クロロフェノキシ) - 1 - メチルアミノエチル] - フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 3 4)

(a) 2 - (4 - クロロフェノキシ) - 1 - [(4 - メトキシメトキシ) フェニル] エタノン

Chem. Abstr. 1968, 68, 87026 に記載されている手法によって合成した 1 - ヨード - 4 - メトキシメトキシベンゼン 1.72g (6.5mmol) を窒素気流下テトラヒドロフラン 40mL に溶解し、 -78°C に冷却し、1.5 規定ブチルリチウム / ヘキサン溶液 4.3mL (6.5mmol) をゆっくり滴下し、30 分間攪拌した後、Tetrahedron, 1998, 54, 15861 に記載されている手法によって合成した 2 - (4 - クロロフェノキシ) - N - メトキシ - N - メチルアセタミド 1.00g (4.4mmol) のテトラヒドロフラン溶液を加え、さらに 2 時間攪拌した。反応溶液に飽和塩化ナトリウム水溶液を加え、水層をエーテルで抽出し、有機層を無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を 1.02g 得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 3.49 (3H, s), 5.20 (2H, s), 5.25 (2H, s), 6.87 (2H, d, $J=9.0\text{Hz}$), 7.11 (2H, d, $J=8.9\text{Hz}$), 7.23 (2H, d, $J=9.0\text{Hz}$), 7.97 (2H, d, $J=8.9\text{Hz}$).

(b) 2 - (4 - クロロフェノキシ) - 1 - (4 - ヒドロキシフェニル) エタノン

実施例 9 3 a で得られた 2 - (4 - クロロフェノキシ) - 1 - [(4 - メトキシメトキシ) フェニル] エタノン 1.01g (3.3mmol) をアセトン 10mL に溶解し、4 規定塩酸水溶液 10mL を加え室温で一晩攪拌した。反応溶液を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液で中和し、水層を酢酸エチルで抽出し、有機層を無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を 0.85g 得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 5.34 (2H, s), 6.63 (1H, s), 6.89 (2H, d, $J=8.8$

Hz), 6.93 (2H,d,J=9.1Hz), 7.24 (2H,d,J=9.1Hz), 7.94 (2H,d,J=8.8Hz).

(c) ジメチルカルバミン酸 4 - [2 - (4 - クロロフェノキシ) - 1 - メチルアミノエチル] - フェニル エステル 塩酸塩

実施例 9 3 b で得られた 2 - (4 - クロロフェノキシ) - 1 - (4 - ヒドロキシフェニル) エタノンを用い、実施例 1 a、d ~ f と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0 3 6 2】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.36 (3H,s), 3.02 (3H,s), 3.11 (3H,s), 4.27-4.36 (2H,m), 4.60 (1H,dd,J=11.3Hz,9.2Hz), 6.96 (2H,d,J=8.9Hz), 7.16 (2H,d,J=8.9Hz), 7.21 (2H,d,J=8.6Hz), 7.67 (2H,d,J=8.6Hz), 10.21 (2H,br s).

(実施例 9 4)

ジメチルカルバミン酸 3 - [3 - (3 - フルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2 - 7 6)

3 - フルオロフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0 3 6 3】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.41-2.61 (1H,m), 2.53 (3H,br s), 2.90-3.02 (1H,m), 2.99 (3H,s), 3.08 (3H,s), 3.59-3.65 (1H,m), 3.94-3.99 (1H,m), 4.32 (1H,br s), 6.51 (1H,dt,J=11.0Hz,2.2Hz), 6.57-6.64 (2H,m), 7.13-7.20 (2H,m), 7.33(1H,s), 7.41-7.47 (2H,m), 9.94 (1H,br s), 10.36 (1H,br s)

(実施例 9 5)

ジメチルカルバミン酸 3 - [1 - メチルアミノ - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2 - 9 2)

実施例 7 e で得られた N - [1 - [(3 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニ

ル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 α - ブチル エステルを用い、実施例 4 8 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 6 4 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.54 (3H, s), 2.65-2.70 (1H, m), 2.98 (3H, s), 3.01-3.10 (1H, m), 3.07 (3H, s), 3.75-3.81 (1H, m), 4.08-4.13 (1H, m), 4.30 (1H, dd, $J=9.9\text{Hz}, 4.1\text{Hz}$), 6.87 (2H, d, $J=9.3\text{Hz}$), 7.17-7.21 (1H, m), 7.31 (1H, s), 7.43-7.48 (2H, m), 8.15 (2H, d, $J=9.3\text{Hz}$), 10.05 (1H, br s), 10.48 (1H, br s).

(実施例 9 6)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (2 - フルオロ - 4 - ニトロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 0 5)

2 - フルオロ - 4 - ニトロフェノールを用い、実施例 4 8 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 6 5 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.53 (3H, s), 2.66-2.74 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.05-3.14 (1H, m), 3.09 (3H, s), 3.76-3.82 (1H, m), 4.21-4.26 (1H, m), 4.34-4.37 (1H, m), 6.88 (1H, t, $J=8.7\text{Hz}$), 7.21 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.63 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.95-8.00 (2H, m).

(実施例 9 7)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - フルオロフェニルアミノ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 2塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 4 9)

(4 - フルオロフェニル) カルバミン酸 α - ブチル エステルを用い、実施例 8 7 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 6 6 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.46 (3H, s), 2.72-2.77 (1H, m), 3.01 (3H,

s), 3.09 (3H,s), 3.17-3.22 (1H,m), 3.38-3.49 (2H,m), 4.01-4.09 (1H,br s), 7.10 (2H,t,J=8.4Hz), 7.24-4.26 (2H,m), 7.62-7.65 (4H,m).

(実施例 9 8)

ジメチルカルバミン酸 (S) - 4 - [1 - メチルアミノ - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 9 2)

(a) (S) - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] カルバミン酸 t - ブチル エステル

実施例 8 1 a で得られた (S) - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] カルバミン酸 t - ブチル エステル及び 4 - ニトロフェノールを用い、実施例 4 8 a と同様に反応を行い目的化合物を得た。

【0 3 6 7】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.40 (9H,s), 2.17-2.40 (2H,m), 3.01 (3H,s), 3.10 (3H,s), 3.96-4.10 (2H,m), 4.90-5.01 (2H,br s), 6.91 (2H,d,J=8.8 Hz), 7.09 (2H,d,J=8.8Hz), 7.27 (2H,d,J=8.8Hz), 8.19 (2H,d,J=8.8Hz).

(b) ジメチルカルバミン酸 (S) - 4 - [1 - メチルアミノ - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩

実施例 9 8 a で得られた (S) - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] カルバミン酸 t - ブチル エステルを用い、実施例 6 1 d、e と同様に反応を行い目的化合物を得た。

【0 3 6 8】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.52 (3H,s), 2.62-2.66 (1H,m), 3.01 (3H,s), 3.01-3.10 (1H,m), 3.10 (3H,s), 3.72-3.75 (1H,m), 4.07-4.11 (1H,m), 4.29-4.32 (1H,m), 6.86 (2H,d,J=9.2Hz), 7.20 (2H,d,J=8.4Hz), 7.59 (2H,d,J=8.4Hz), 8.15 (2H,d,J=9.2Hz).

$[\alpha]_D^{22} +143.6(\text{CHCl}_3, \text{C}=1.01)$

(実施例 9 9)

ジメチルカルバミン酸 (S) - 4 - [1 - ジメチルアミノ - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 4 9)

実施例 9 8 で得られたジメチルカルバミン酸 (S) - 4 - [1 - メチルアミノ - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステルを用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物を得た。これを酢酸エチル-ヘキサンから再結晶を行い、目的化合物を結晶として得た。

融点: 1 8 0 . 5 ~ 1 8 1 . 5 °C

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) (ppm : 2.62 (3H, br s), 2.72-2.79 (1H, m), 2.88 (3H, br s), 2.99-3.07 (1H, m), 3.02 (3H, s), 3.11 (3H, s), 3.67-3.73 (1H, m), 4.0 8-4.13 (1H, m), 4.28-4.31 (1H, m), 6.81 (2H, d, $J=9.2\text{Hz}$), 7.24 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.55 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 8.15 (2H, d, $J=9.2\text{Hz}$).

$[\alpha]_{\text{D}}^{22} +116.0(\text{CHCl}_3, C=0.94)$

(実施例 1 0 0)

ジメチルカルバミン酸 (R) - 4 - [1 - アミノ - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 6 6)

(a) (R) - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] カルバミン酸 *t*-ブチル エステル

実施例 6 1 b で得られた (R) - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] カルバミン酸 *t*-ブチル エステル及び 4 - ニトロフェノールを用い、実施例 4 8 a と同様に反応を行い目的化合物を得た。

(b) ジメチルカルバミン酸 (R) - 4 - [1 - アミノ - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩

実施例 1 0 0 a で得られた (R) - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] カルバミン酸 *t*-ブ

チル エステルを用い、実施例 6 d と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 6 9 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.36-2.46 (1H, m), 2.66-2.75 (1H, m), 2.95 (3H, s), 3.07 (3H, s), 3.81-3.89 (1H, m), 4.06-4.14 (1H, m), 4.46 (1H, dt, $J=5.6\text{Hz}, 3.2\text{Hz}$), 6.87 (2H, d, $J=9.6\text{Hz}$), 7.06 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 7.52 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 8.14 (2H, d, $J=9.6\text{Hz}$).

$[\alpha]_{\text{D}}^{22} -110.5(\text{CHCl}_3, C=1.04)$

(実施例 1 0 1)

ジメチルカルバミン酸 (R) - 4 - [1 - メチルアミノ - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 9 2)

実施例 1 0 0 a で得られた (R) - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] カルバミン酸 α - ブチル エステルを用い、実施例 6 1 d、e と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 7 0 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.52 (3H, s), 2.62-2.66 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.01-3.10 (1H, m), 3.10 (3H, s), 3.72-3.75 (1H, m), 4.07-4.11 (1H, m), 4.29-4.32 (1H, m), 6.86 (2H, d, $J=9.2\text{Hz}$), 7.20 (2H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 7.59 (2H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 8.15 (2H, d, $J=9.2\text{Hz}$).

$[\alpha]_{\text{D}}^{22} -142.1(\text{CHCl}_3, C=1.00)$

(実施例 1 0 2)

ジメチルカルバミン酸 (R) - 4 - [1 - ジメチルアミノ - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 4 9)

実施例 1 0 1 で得られたジメチルカルバミン酸 (R) - 4 - [1 - メチルアミノ - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステルを用い、実施

例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 7 1 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.62 (3H, br s), 2.72-2.79 (1H, m), 2.88 (3H, br s), 2.99-3.07 (1H, m), 3.02 (3H, s), 3.11 (3H, s), 3.67-3.73 (1H, m), 4.08-4.13 (1H, m), 4.28-4.31 (1H, m), 6.81 (2H, d, $J=9.2\text{Hz}$), 7.24 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.55 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 8.15 (2H, d, $J=9.2\text{Hz}$).

$[\alpha]_{\text{D}}^{22} -115.2(\text{CHCl}_3, C=0.92)$

(実施例 1 0 3)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - メチルアミノ - 3 - (ピリジン - 3 - イルオキシ) プロピル] フェニル エステル 2塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 1 9)

実施例 1 6 b で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 α - ブチル エステル及び 3 - ヒドロキシピリジンを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 7 2 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.45-2.56 (1H, m), 2.58 (3H, s), 2.65-3.73 (1H, m), 3.07 (3H, s), 3.99-4.04 (1H, m), 4.21-4.26 (1H, m), 4.49 (1H, dd, $J=10.4\text{Hz}, 4.4\text{Hz}$), 7.19 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 7.48 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 7.85-7.89 (1H, m), 8.00 (1H, d, $J=7.2\text{Hz}$), 8.37 (1H, d, $J=6.0\text{Hz}$), 8.39 (1H, a).

(実施例 1 0 4)

ジメチルカルバミン酸 3 - [1 - ジメチルアミノ - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2 - 1 4 9)

実施例 9 5 で得られたジメチルカルバミン酸 3 - [1 - メチルアミノ - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステルを用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 7 3 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.53-2.9 (7H, m), 3.00 (3H, s), 2.98-3.12

(1H,m), 3.09 (3H,s), 3.75-3.81 (1H,m), 4.10-4.15 (1H,m), 4.34 (1H,dd,J=11.0Hz,3.7Hz), 6.82 (2H,d,J=8.8Hz), 7.24 (1H,d,J=7.7Hz), 7.3 (1H,s), 7.36 (1H,d,J=7.7Hz), 7.46(1H,t,J=7.7Hz), 8.14 (2H,d,J=8.8Hz).

(実施例 1 0 5)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - エチルアミノ - 3 - (3 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 7 0)

(a) N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - エチルカルバミン酸 t - ブチル エステル
4 - ヒドロキシベンズアルデヒド及びエチルアミン酢酸塩を用い、実施例 7 a ~ e と同様に反応を行い目的化合物を得た。

(b) ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - エチルアミノ - 3 - (3 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩
実施例 1 0 5 a で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - エチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 3 - ニトロフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 7 4 】

¹H-NMR(400MHz,CDCI₃) δ ppm : 1.46 (3H,t,J=7.3Hz), 2.67-2.75 (1H,m), 2.82-2.90 (1H,m), 2.93 (3H,s), 3.05-3.19 (1H,m), 3.09 (3H,s), 3.64-3.70 (1H,m), 4.00-4.05 (1H,m), 4.42 (1H,dd,J=10.7Hz,3.4Hz), 7.12 (1H,dd,J=8.2Hz,2.0Hz), 7.19 (2H,d,J=8.6Hz), 7.38 (1H,t,J=8.2Hz), 7.56 (1H,t,J=2.0Hz), 7.65 (2H,d,J=8.6Hz), 7.78 (1H,dd,J=8.2Hz,2.0Hz), 9.95 (1H,br s), 10.28 (1H,br s).

(実施例 1 0 6)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - エチルアミノ - 3 - (4 - フルオロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 6 7)

実施例 1 0 5 a で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - エチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 4 - フルオロフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 7 5 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.46 (3H, t, $J=7.0\text{Hz}$), 2.56-2.66 (1H, m), 2.79-2.92 (2H, m), 3.01 (3H, s), 3.00-3.10 (1H, m), 3.09 (3H, s), 3.49-3.54 (1H, m), 3.84-3.89 (1H, m), 4.43 (1H, d, $J=8.1\text{Hz}$), 6.67-6.70 (2H, m), 6.87-6.91 (2H, m), 7.18 (2H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 7.65 (2H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 9.92 (1H, br s), 10.21 (1H, br s).

(実施例 1 0 7)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - エチルアミノ - 3 - (3 - フルオロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 6 8)

実施例 1 0 5 a で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - エチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 3 - フルオロフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 7 6 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.45 (3H, t, $J=7.3\text{Hz}$), 2.60-2.70 (1H, m), 2.83-2.93 (2H, m), 3.01 (3H, s), 3.01-3.13 (1H, m), 3.09 (3H, s), 3.50-3.56 (1H, m), 3.87-3.92 (1H, m), 4.42 (1H, brd, $J=8.1\text{Hz}$), 6.47 (1H, dt, $J=11.0\text{Hz}, 2.2\text{Hz}$), 6.54 (1H, dd, $J=8.1\text{Hz}, 2.2\text{Hz}$), 6.60 (1H, td, $J=8.1\text{Hz}, 2.2\text{Hz}$), 7.13 (1H, dd, $J=8.1\text{Hz}, 6.6\text{Hz}$), 7.18 (2H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 7.65 (2H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 9.95 (1H, br s), 10.26 (1H, br s)

(実施例 1 0 8)

ジメチルカルバミン酸 3 - [1 - メチルアミノ - 3 - (3 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2 - 9 4)

実施例 7 e で得られた N - [1 - [(3 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 3 - ニトロフェノールを用い、実施例 4 8 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 7 7 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.25 (3H, s), 2.61-2.69 (1H, m), 2.98 (3H, s), 2.97-3.10 (1H, m), 3.08 (3H, s), 3.73-3.79 (1H, m), 4.07-4.12 (1H, m), 4.35 (1H, dd, $J=10.3\text{Hz}, 4.4\text{Hz}$), 7.14-7.20 (2H, m), 7.35-7.48 (4H, m), 7.60 (1H, t, $J=2.0\text{Hz}$), 7.79 (1H, dd, $J=8.1\text{Hz}, 2.2\text{Hz}$), 10.10 (2H, br)

(実施例 1 0 9)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - クロロフェニルアミノ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 2塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 5 0)

(4 - クロロフェニル) カルバミン酸 t - ブチル エステルを用い、実施例 8 7 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 7 8 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.46 (3H, s), 2.71-2.76 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.16-3.23 (1H, m), 3.38-3.49 (2H, m), 4.05-4.08 (1H, m), 7.23-7.26 (2H, m), 7.39 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 7.58 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 7.63 (2H, br s).

(実施例 1 1 0)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - [N - アセチル - N - (3 - フルオロフェニル) アミノ] - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 6 0)

N - (3 - フルオロフェニル) アセタミドを用い、実施例 8 7 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 7 9 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.94 (3H, s), 2.10-2.15 (1H, m), 2.45 (3H,

s), 2.71-2.77 (1H,m), 3.02 (3H,s), 3.11 (3H,s), 3.58-3.63 (1H,m), 3.91-3.95 (1H,m), 4.13-4.18 (1H,m), 6.99 (1H,d,J=8.1Hz), 7.08-7.14 (2H,m), 7.20 (2H,d,J=8.0Hz), 7.41-7.47 (1H,m), 7.69 (2H,d,J=8.0Hz).

(実施例 1 1 1)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - メチルアミノ - 3 - (3 - メチル - 4 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 1 5)

3 - メチル - 4 - ニトロフェノールを用い、実施例 4 8 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 8 0 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.52 (3H,s), 2.58 (3H,s), 2.58-2.66 (1H,m), 3.01 (3H,s), 3.01-3.10 (1H,m), 3.10 (3H,s), 3.67-3.73 (1H,m), 4.03-4.07 (1H,m), 4.29-4.34 (1H,m), 6.68-6.70 (2H,m), 7.20 (2H,d,J=8.3Hz), 7.59 (2H,d,J=8.3Hz), 8.01 (1H,d,J=9.1Hz).

(実施例 1 1 2)

ジメチルカルバミン酸 4 - (1 - メチルアミノ - 3 - o - トルイルオキシプロピル) フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 8 4)

実施例 1 6 b で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 2 - メチルフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 8 1 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.21 (3H,s), 2.52 (3H,s), 2.57-2.63 (1H,m), 2.95-3.09 (1H,m), 3.00 (3H,s), 3.09 (3H,s), 3.59-3.65 (1H,m), 3.96-4.00 (1H,m), 4.30-4.36 (1H,m), 6.61 (1H,d,J=8.1Hz), 6.82 (1H,t,J=8.1Hz), 7.03-7.11 (2H,m), 7.18 (2H,d,J=8.0Hz), 7.61 (2H,d,J=8.0Hz).

(実施例 1 1 3)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - クロロ - 2 - メチルフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 1 2)

実施例 1 6 b で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 4 - クロロ - 2 - メチルフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 8 2 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.17 (3H, s), 2.51 (3H, t, $J=2.7\text{Hz}$), 2.56-2.63 (1H, m), 2.94-3.09 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.57-3.63 (1H, m), 3.92-3.97 (1H, m), 4.27-4.32 (1H, m), 6.52 (1H, d, $J=8.7\text{Hz}$), 7.01 (1H, dd, $J=8.7\text{Hz}, 2.5\text{Hz}$), 7.07 (1H, d, $J=2.5\text{Hz}$), 7.19 (2H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 7.59 (2H, d, $J=8.4\text{Hz}$).

(実施例 1 1 4)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - ジメチルアミノ - 3 - (3, 4, 5 - トリフルオロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 7 4)

実施例 8 0 で得られたジメチルカルバミン酸 4 - [1 - メチルアミノ - 3 - (3, 4, 5 - トリフルオロフェノキシ) プロピル] フェニル エステルを用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 8 3 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.60 (3H, d, $J=5.0\text{Hz}$), 2.65-2.74 (1H, m), 2.88 (3H, d, $J=4.7\text{Hz}$), 2.91-3.02 (1H, m), 3.02 (3H, s), 3.11 (3H, s), 3.48 (1H, td, $J=9.6\text{Hz}, 3.6\text{Hz}$), 3.89-3.95 (1H, m), 4.21-4.28 (1H, m), 6.34-6.39 (2H, m), 7.24 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.55 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$).

(実施例 1 1 5)

ジメチルカルバミン酸 4 - [4 - (4 - クロロフェノキシ) - 1 - メチルアミノブチル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 9 3)

(a) 3 - (4 - ベンジロキシフェニル) - 3 - [N - (t - ブトキシカルボニル) - N - メチルアミノ] プロピオン酸 エチル エステル

実施例 1 6 a で得られた 3 - [N - (t - ブトキシカルボニル) - N - メチルアミノ] - 3 - (4 - ヒドロキシフェニル) プロピオン酸 エチル エステル 5.10g (16mmol) 及び炭酸カリウム 3.27g (24mmol) に N , N - ジメチルホルムアミドを加え、次いでベンジルブロミド 2.3mL (19mmol) を加え、室温で 4 時間攪拌した。反応溶液に水を加え、水層を酢酸エチルで抽出し、有機層を水及び飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を 5.57g 得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.23 (3H, t, $J=7.2\text{Hz}$), 1.48 (9H, s), 2.61 (3H, br s), 2.88-2.92 (2H, m), 4.21 (2H, q, $J=7.2\text{Hz}$), 5.05 (2H, s), 5.66 (1H, br s), 6.94 (2H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 7.18 (2H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 7.31-7.44 (5H, m).

(b) N - [1 - (4 - ベンジロキシフェニル) - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル

水素化アルミニウムリチウム 1.02g (27mmol) に窒素気流下テトラヒドロフラン 10 mL を加え、 -78°C に冷却し、実施例 1 1 5 a で得られた 3 - (4 - ベンジロキシフェニル) - 3 - [N - (t - ブトキシカルボニル) - N - メチルアミノ] プロピオン酸 エチル エステル 5.56g (13mmol) のテトラヒドロフラン溶液を加え、30 分間攪拌した後 0°C までゆっくり昇温し、さらに 30 分間攪拌した。反応溶液に水 1mL、15 % 水酸化ナトリウム水溶液 1mL、水 3mL を順次加え、室温で 30 分間攪拌し、無水硫酸マグネシウムを加えた後結晶をろ過し、ろ液の溶媒を減圧下留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を 4.78g 得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.51 (9H, s), 1.92-2.15 (2H, m), 2.42 (3H, br s), 3.50-3.74 (3H, m), 5.06 (2H, s), 5.54 (1H, br s), 6.95 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.21 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.31-7.45 (5H, m).

(c) N-[1-(4-ベンジロキシフェニル)-3-シアノプロピル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル

実施例 115b で得られた N-[1-(4-ベンジロキシフェニル)-3-ヒドロキシプロピル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル 1.50g (4.0mmol) を窒素気流下テトラヒドロフラン 20mL に溶解し、トリエチルアミン 0.84mL (6.0mmol) を加えた後、氷冷下メタンスルホンクロリド 0.37mL (4.8mmol) を加え、室温で 30 分間攪拌した。反応溶液に水を加え、水層を酢酸エチルで抽出し、有機層を飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去した。得られた残留物を N,N-ジメチルホルムアミド 20mL に溶解し、15-クラウン-5 1.2mL (6.0mmol) を加え、さらにシアン化ナトリウム 294mg (6.0mmol) を加え、室温で一晩攪拌した。反応溶液に水を加え、水層を酢酸エチルで抽出し、有機層を飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を 1.41g 得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.51 (9H, br s), 2.20-2.28 (1H, m), 2.41 (3H, br s), 5.06 (2H, s), 5.35 (1H, br s), 6.96 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.17 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.31-7.44 (5H, m).

(d) N-[1-(4-ベンジロキシフェニル)-4-ヒドロキシブチル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル

実施例 115c で得られた N-[1-(4-ベンジロキシフェニル)-3-シアノプロピル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル 1.00g (2.6mmol) を窒素気流下ジクロロメタン 20mL に溶解し、 -78°C に冷却し、0.95M 水素化ジイソブチルアルミニウム/ヘキサン溶液 5.5mL (5.3mmol) を加え、ゆっくり室温に昇温して 2 時間攪拌した。硫酸ナトリウム 2.6g を加え室温でさらに 1 時間攪拌し、結晶をろ過し、ろ液の溶媒を減圧下留去した。得られた残留物をメタノール 10mL に溶解し、水素化ホウ素ナトリウム 98mg (2.6mmol) をゆっくり加え、室温で 1 時間攪拌した。反応溶液に水を加え、溶媒を減圧下留去した後、水層を酢

酸エチルで抽出し、無水硫酸マグネシウムで乾燥し、減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を830mg得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.49 (9H, s), 1.59-1.65 (2H, m), 1.89-2.01 (2H, m), 2.53 (3H, br s), 3.73 (2H, t, $J=6.2\text{Hz}$), 5.05 (2H, s), 5.20 (0.5H, br s), 5.39 (0.5H, br s), 6.94 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.21 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.31-7.44 (5H, m).

(e) N-[4-ヒドロキシブチル-1-(4-ヒドロキシフェニル)]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル

実施例 1 2 6 d で得られた N-[1-(4-ベンジロキシフェニル)-4-ヒドロキシブチル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル 278mg (0.72mmol) をメタノール 5mL に溶解し、5%パラジウム/炭素 30mg を加え、水素気流下室温で 2 時間攪拌した。触媒をろ別し、ろ液の溶媒を減圧下留去し、目的化合物の粗生成物を得た。これは精製することなく次の反応に用いた。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.49 (9H, s), 1.54-1.67 (2H, m), 1.87-2.06 (2H, m), 2.54 (3H, br s), 3.01 (3H, s), 3.10 (3H, s), 3.73 (2H, t, $J=6.2\text{Hz}$), 5.22 (0.5H, br s), 5.43 (0.5H, br s), 7.07 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.27 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$).

(f) N-[1-[(4-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル]-4-ヒドロキシブチル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル

実施例 1 2 6 e で得られた N-[4-ヒドロキシブチル-1-(4-ヒドロキシフェニル)]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステルの粗生成物及び炭酸カリウム 150mg (1.1mmol) を窒素気流下 N, N-ジメチルホルムアミド 5mL に溶解し、ジメチルカルバミン酸クロリド 0.079mL (0.86mmol) を加え、室温で一晩攪拌した。反応溶液に水を加え、水層を酢酸エチルで抽出し、有機層を水及び飽和食塩水で洗浄し、無水硫酸マグネシウムで乾燥した後減圧下溶媒を留去した。これをカラムクロマトグラフィーにより精製し、目的化合物を 220mg 得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.48 (9H, s), 1.80-1.84 (2H, m), 1.99-2.10 (

2H,m), 2.56 (3H,br s), 3.01 (3H,s), 3.10 (3H,s), 4.00 (2H,t,J=6.1Hz), 5.24 (0.5H,br s), 5.45 (0.5H,br s), 6.82 (2H,d,J=8.9Hz), 7.08 (2H,d,J=8.6Hz), 7.23 (2H,d,J=8.9Hz), 7.28 (2H,d,J=8.6Hz).

(g) ジメチルカルバミン酸 4 - [4 - (4 - クロロフェノキシ) - 1 - メチルアミノブチル] フェニル エステル 塩酸塩

実施例 1 1 5 f で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 4 - ヒドロキシブチル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 4 - クロロフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0 3 8 4】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.52-1.76 (2H,m), 2.30-2.42 (1H,m), 2.43 (3H,s), 2.47-2.63 (1H,m), 3.02 (3H,s), 3.11 (3H,s), 3.81 (2H,t,J=6.1Hz), 4.00 (1H,dd,J=10.5Hz,4.3Hz), 6.72 (2H,d,J=9.0Hz), 7.17 (2H,d,J=9.0Hz), 7.21 (2H,d,J=8.6Hz), 7.57 (2H,d,J=8.6Hz), 9.86 (1H,br s), 10.16 (1H,br s).

(実施例 1 1 6)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - メチルアミノ - 4 - (4 - ニトロフェノキシ) ブチル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 9 4)

実施例 1 1 5 f で得られた N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 4 - ヒドロキシブチル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステルを用い、実施例 4 8 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0 3 8 5】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.53-1.83 (2H,m), 2.32-2.45 (1H,m), 2.44 (3H,s), 2.55-2.65 (1H,m), 3.02 (3H,s), 3.11 (3H,s), 3.94 (2H,t,J=6.0Hz), 4.00 (1H,br s), 6.85 (2H,d,J=9.1Hz), 7.21 (2H,d,J=8.4Hz), 7.58 (2H,d,J=8.4Hz), 8.14 (2H,d,J=9.1Hz), 9.86 (1H,br s), 10.21 (1H,br s).

(実施例 117)

ジメチルカルバミン酸 4- [1-メチルアミノ-2-(4-ニトロフェノキシ)-エチル]-フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1-39)

N-メトキシ-N-メチル-2-(4-ニトロフェノキシ) アセタミドを用い、実施例 93 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0386】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.34 (3H, s), 3.03 (3H, s), 3.12 (3H, s), 4.37 (1H, br s), 4.48 (1H, dd, $J=10.0\text{Hz}, 4.2\text{Hz}$), 4.74 (1H, dd, $J=10.0\text{Hz}, 7.9\text{Hz}$), 7.13 (2H, d, $J=9.2\text{Hz}$), 7.23 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.67 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 8.13 (2H, d, $J=9.2\text{Hz}$), 10.33 (2H, br s).

(実施例 118)

ジメチルカルバミン酸 4- [3- [N-アセチル-N-(4-クロロフェニル)アミノ]-1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1-59)

N-(4-クロロフェニル) アセタミドを用い、実施例 87 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0387】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.90 (3H, s), 2.12-2.18 (1H, m), 2.43 (3H, t, $J=2.6\text{Hz}$), 2.66-2.73 (1H, m), 3.02 (3H, s), 3.11 (3H, s), 3.61-3.67 (1H, m), 3.95-3.97 (1H, m), 4.02-4.08 (1H, m), 7.19-7.23 (4H, m), 7.42 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.67 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$).

(実施例 119)

ジメチルカルバミン酸 4- [3- [N-アセチル-N-(4-ニトロフェニル)アミノ]-1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1-61)

N-(4-ニトロフェニル) アセタミドを用い、実施例 87 と同様に反応を行い

目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 8 8 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 1.94 (3H, s), 2.22-2.26 (1H, m), 2.44 (3H, t, $J=2.6\text{Hz}$), 2.68-2.86 (1H, m), 3.02 (3H, s), 3.11 (3H, s), 3.77-3.83 (1H, m), 3.97-4.05 (2H, m), 7.20 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.50 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 7.63 (2H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 8.31 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$).

(実施例 1 2 0)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - メチルアミノ - 3 - (4 - ニトロフェニルアミノ) プロピル] フェニル エステル 2塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 5 3)

(4 - ニトロフェニル) カルバミン酸 *t* - ブチル エステルを用い、実施例 8 7 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 8 9 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.47 (3H, s), 2.74 (1H, br s), 2.88 (1H, br s), 3.02 (3H, s), 3.11 (3H, s), 3.18 (1H, br s), 4.13 (1H, br s), 6.82 (2H, br s), 7.19-7.24 (2H, m), 7.57 (2H, br s), 8.10 (2H, d, $J=6.8\text{Hz}$).

(実施例 1 2 1)

ジメチルカルバミン酸 (S) - 4 - [1 - メチルアミノ - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 1/2 フマル酸塩 (例示化合物番号 1 - 9 2)

実施例 9 8 で得られたジメチルカルバミン酸 (S) - 4 - [1 - メチルアミノ - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステルを1/2フマル酸塩とし、イソプロパノールから再結晶を行い、目的化合物を結晶として得た。

融点 : 1 6 4 ~ 1 6 6 $^{\circ}\text{C}$

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CD_3OD) δ ppm : 2.32-2.39 (1H, m), 2.48 (3H, s), 2.57-2.64 (1H, m), 2.99 (3H, s), 3.11 (3H, s), 3.88 (1H, dt, $J=9.5\text{Hz}, 5.0\text{Hz}$), 4.13 (1H, dt, $J=10.5\text{Hz}, 5.0\text{Hz}$), 4.30 (1H, dd, $J=10.0\text{Hz}, 4.0\text{Hz}$), 6.68 (1H, s), 6.99 (2H, d, $J=9.3\text{Hz}$), 7.19 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 7.46 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 8.17 (2H, d, $J=9.3\text{Hz}$).

IR(KBr) $\nu_{\max} \text{cm}^{-1}$: 3423, 3108, 1717, 1591, 1511, 1389, 1341, 1257, 1216, 1175, 1110, 859, 753.

元素分析 : Calcd for $\text{C}_{21}\text{H}_{25}\text{N}_3\text{O}_7$: C, 58.46; H, 5.84; N, 9.74; O, 25.96. Found : C, 58.19; H, 5.68; N, 9.69; O, 26.20.

$[\alpha]_D^{22} +119.5 (\text{MeOH}, C=1.00)$

(実施例 1 2 2)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - メチルアミノ - 3 - (4 - ニトロフェニル) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 9).

4 - ニトロベンズアルデヒドを用い、実施例 1 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0 3 9 0】

$^1\text{H-NMR} (400\text{MHz}, \text{CDCl}_3)$ δ ppm : 2.38 (3H, s), 2.51-2.58 (3H, m), 2.80-2.84 (1H, m), 3.03 (3H, s), 3.12 (3H, s), 3.89 (1H, br s), 7.23 (2H, d, $J=8.0\text{Hz}$), 7.27 (2H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 7.53 (2H, d, $J=8.0\text{Hz}$), 8.08 (2H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 9.88 (1H, br s), 10.24 (1H, br s).

(実施例 1 2 3)

ジメチルカルバミン酸 (S) - 4 - [1 - アミノ - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 6 6)

実施例 9 8 a で得られた (S) - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] カルバミン酸 t - ブチル エステルを用い、実施例 6 d と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0 3 9 1】

$^1\text{H-NMR} (400\text{MHz}, \text{CDCl}_3)$ δ ppm : 2.36-2.46 (1H, m), 2.66-2.75 (1H, m), 2.95 (3H, s), 3.07 (3H, s), 3.81-3.89 (1H, m), 4.06-4.14 (1H, m), 4.46 (1H, dt, $J=5.6\text{Hz}, 3.2\text{Hz}$), 6.87 (2H, d, $J=9.6\text{Hz}$), 7.06 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 7.52 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 8.14 (2H, d, $J=9.6\text{Hz}$).

$[\alpha]_D^{22} +111.3(\text{CHCl}_3, C=1.01)$

(実施例 124)

ジメチルカルバミン酸 4-[3-(2-クロロ-4-ニトロフェノキシ)-1-メチルアミノプロピル]フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1-108)

2-クロロ-4-ニトロフェノールを用い、実施例 48 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0392】

$^1\text{H-NMR}(400\text{MHz}, \text{CDCl}_3) \delta \text{ ppm} : 2.54 (3\text{H}, \text{s}), 2.66-2.73 (1\text{H}, \text{m}), 3.00 (3\text{H}, \text{s}), 3.06-3.12 (1\text{H}, \text{m}), 3.09 (3\text{H}, \text{s}), 3.73-3.79 (1\text{H}, \text{m}), 4.26-4.30 (1\text{H}, \text{m}), 4.37-4.41 (1\text{H}, \text{m}), 6.83 (1\text{H}, \text{d}, J=9.1\text{Hz}), 7.19 (2\text{H}, \text{d}, J=8.6\text{Hz}), 7.64 (2\text{H}, \text{d}, J=8.6\text{Hz}), 8.08 (1\text{H}, \text{dd}, J=9.1\text{Hz}, 2.8\text{Hz}), 8.27 (1\text{H}, \text{d}, J=2.8\text{Hz}).$

(実施例 125)

ジメチルカルバミン酸 (S)-3-[3-(4-ニトロフェノキシ)-1-メチルアミノプロピル]フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2-92)

(a) (S)-[1-[(3-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル]-3-ヒドロキシプロピル]カルバミン酸 t-ブチル エステル

Tetrahedron: Asymmetry, 1991, 2, 183に記載されている手法によって合成した (S)-3-アミノ-3-(3-ヒドロキシフェニル)プロピオン酸 メチル エステルを用い、実施例 61 a、b と同様に反応を行い目的化合物を得た。

(b) ジメチルカルバミン酸 (S)-3-[3-(4-ニトロフェノキシ)-1-メチルアミノプロピル]フェニル エステル 塩酸塩

実施例 125 a で得られた (S)-[1-[(3-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル]-3-ヒドロキシプロピル]カルバミン酸 t-ブチル エステル及び 4-ニトロフェノールを用い、実施例 7 f、実施例 61 d、e と同様に反応を

行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm: 2.54 (3H, s), 2.67 (1H, m), 2.99 (3H, s), 3.05 (1H, m), 3.07 (3H, s), 3.78 (1H, m), 4.11 (1H, m), 4.30 (1H, m), 6.87 (2H, d, $J=9.2\text{Hz}$), 7.20 (1H, m), 7.31 (1H, s), 7.45 (2H, m), 8.15 (2H, d, $J=9.2\text{Hz}$), 9.97 (1H, br s), 10.48 (1H, br s),
ms (FAB) m/z : 374 ($(\text{M}+\text{H})^+$)

(実施例 1 2 6)

ジメチルカルバミン酸 (S) - 3 - [3 - (4 - ニトロフェノキシ) - 1 - ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2 - 1 4 9)

実施例 1 2 5 b で得られたジメチルカルバミン酸 (S) - 3 - [3 - (4 - ニトロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩を用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm: 2.65 (3H, s), 2.74 (1H, m), 2.85 (3H, s), 3.00 (3H, s), 3.07 (1H, m), 3.09 (3H, s), 3.77 (1H, m), 4.12 (1H, m), 4.30 (1H, m), 6.82 (2H, d, $J=9.0\text{Hz}$), 7.24 (1H, m), 7.30 (1H, m), 7.36 (1H, m), 7.46 (1H, m), 8.15 (2H, d, $J=9.0\text{Hz}$),
ms (FAB) m/z : 388 ($(\text{M}+\text{H})^+$)

(実施例 1 2 7)

ジメチルカルバミン酸 (S) - 4 - [3 - (2 - クロロ - 4 - ニトロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 0 8)

実施例 8 1 a で得られた (S) - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] カルバミン酸 *t*-ブチル エステル及び 2 - クロロ - 4 - ニトロフェノールを用い、実施例 7 f、実施例 6 1 d、e と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CDCl_3) δ ppm: 2.54 (3H, s), 2.67-2.72 (1H, m), 3.00 (3H, s)

, 3.05- 3.14 (1H,m), 3.09 (3H,s), 3.73-3.77 (1H,m), 4.27-4.30 (1H,m), 4.37-4.41 (1H,m), 6.83 (1H,d,J=9.0Hz), 7.19 (2H,d,J=9.0Hz), 7.64 (2H,d,J=9.0Hz), 8.08 (1H,dd,J=9.0Hz,3.0Hz), 8.27 (1H,d,J=3.0Hz).

IR(CHCl₃) 2977, 2710, 1587, 1515, 1492, 1392, 1346, 1277, 1176, 1054, 1027, 1019.

$[\alpha]_D^{22} +135.1(\text{CHCl}_3, C=0.72)$

(実施例 1 2 8)

ジメチルカルバミン酸 (R) - 4 - [3 - (2 - クロロ - 4 - ニトロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 0 8)

実施例 6 1 a で得られた (R) - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] カルバミン酸 t - ブチル エステル及び 2 - クロロ - 4 - ニトロフェノールを用い、実施例 7 f、実施例 6 1 d、e と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 9 3 】

¹H-NMR(500MHz,CDCl₃) δ ppm : 2.54 (3H,s), 2.67-2.72 (1H,m), 3.00 (3H,s), 3.05-3.14 (1H,m), 3.09 (3H,s), 3.73-3.77 (1H,m), 4.27-4.30 (1H,m), 4.37-4.41 (1H,m), 6.83 (1H,d,J=9.0Hz), 7.19 (2H,d,J=9.0Hz), 7.64 (2H,d,J=9.0Hz), 8.08 (1H,dd,J=9.0Hz,3.0Hz), 8.27 (1H,d,J=3.0Hz).

IR(CHCl₃) 2977, 2710, 1587, 1515, 1492, 1392, 1346, 1277, 1176, 1054, 1027, 1019.

$[\alpha]_D^{22} -131.0(\text{CHCl}_3, C=0.86)$

(実施例 1 2 9)

ジメチルカルバミン酸 (S) - 4 - [3 - (2 - クロロ - 4 - ニトロフェノキシ) - 1 - ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 6 5)

実施例 1 2 7 で得られた化合物ジメチルカルバミン酸 (S) - 4 - [3 - (2

ークロロー４ーニトロフェノキシ)ー１ーメチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩を用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 9 4 】

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.61 (3H, d, $J=5.0\text{Hz}$), 2.80-2.89 (1H, m), 2.95 (3H, d, $J=5.0\text{Hz}$), 3.01 (3H, s), 3.02-3.10 (1H, m), 3.10 (3H, s), 3.66-3.74 (1H, m), 4.23-4.30 (1H, m), 4.31-4.37 (1H, m), 6.82 (1H, d, $J=9.0\text{Hz}$), 7.22 (2H, d, $J=9.0\text{Hz}$), 7.62 (2H, d, $J=9.0\text{Hz}$), 8.09 (1H, dd, $J=9.0\text{Hz}, 2.5\text{Hz}$), 8.27 (1H, d, $J=2.5\text{Hz}$).

IR(CHCl_3) 2970, 2317, 1725, 1587, 1517, 1492, 1467, 1392, 1346, 1277, 1176, 1054, 1029, 1018.

$[\alpha]_D^{22} +142.0(\text{CHCl}_3, C=0.96)$

(実施例 1 3 0)

ジメチルカルバミン酸 (R)ー４ー[３ー(２ークロロー４ーニトロフェノキシ)ー１ージメチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1ー165)

実施例 1 2 8 で得られた化合物ジメチルカルバミン酸 (R)ー４ー[３ー(２ークロロー４ーニトロフェノキシ)ー１ーメチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩を用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 9 5 】

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.61 (3H, d, $J=5.0\text{Hz}$), 2.80-2.89 (1H, m), 2.95 (3H, d, $J=5.0\text{Hz}$), 3.01 (3H, s), 3.02-3.10 (1H, m), 3.10 (3H, s), 3.66-3.74 (1H, m), 4.23-4.30 (1H, m), 4.31-4.37 (1H, m), 6.82 (1H, d, $J=9.0\text{Hz}$), 7.22 (2H, d, $J=9.0\text{Hz}$), 7.62 (2H, d, $J=9.0\text{Hz}$), 8.09 (1H, dd, $J=9.0\text{Hz}, 2.5\text{Hz}$), 8.27 (1H, d, $J=2.5\text{Hz}$).

IR(CHCl_3) 2970, 2317, 1725, 1587, 1517, 1492, 1467, 1392, 1346, 1277, 1176, 1054, 1029, 1018.

$[\alpha]_D^{22} -141.6(\text{CHCl}_3, C=1.16)$

(実施例 1 3 1)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (2 - クロロ - 4 - ニトロフェノキシ) - 1 - ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 6 5)

実施例 1 2 4 で得られた化合物ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (2 - クロロ - 4 - ニトロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩を用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 9 6 】

$^1\text{H-NMR}(400\text{MHz}, \text{CDCl}_3) \delta \text{ ppm} : 2.61(3\text{H}, \text{d}, J=5.1\text{Hz}), 2.81-2.89(1\text{H}, \text{m}), 2.95(3\text{H}, \text{d}, J=5.1\text{Hz}), 3.01(3\text{H}, \text{s}), 3.01-3.10(1\text{H}, \text{m}), 3.10(3\text{H}, \text{s}), 3.67-3.72(1\text{H}, \text{m}), 4.26-4.33(2\text{H}, \text{m}), 6.81(1\text{H}, \text{d}, J=9.0\text{Hz}), 7.22(2\text{H}, \text{d}, J=8.4\text{Hz}), 7.61(2\text{H}, \text{d}, J=8.4\text{Hz}), 8.09(1\text{H}, \text{dd}, J=9.0, 2.7\text{Hz}), 8.28(1\text{H}, \text{d}, J=2.7\text{Hz}).$

$\text{IR}(\text{KBr}) \nu_{\text{max}} \text{cm}^{-1} : 3427, 2934, 2555, 2457, 1726, 1516.$

$\text{MS } m/z : 422([M+H]^+), 406, 377, 221, 204.$

(実施例 1 3 2)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - メチルアミノ - 3 - (5 - クロロピリジン - 3 - イルオキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 2 0)

実施例 1 6 b で得られた化合物 N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 5 - クロロピリジン - 3 - オールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 9 7 】

$^1\text{H-NMR}(400\text{MHz}, \text{CDCl}_3) \delta \text{ ppm} : 2.49(3\text{H}, \text{brs}), 2.62(1\text{H}, \text{brs}), 3.02(3\text{H}, \text{s}), 3.12(3\text{H}, \text{s}), 4.39(2\text{H}, \text{br s}), 4.83(1\text{H}, \text{br s}), 7.22(2\text{H}, \text{br s}), 7.67(2\text{H}, \text{br s}),$

7.84(1H, br s), 8.41(1H, br s), 9.05(1H, br s), 10.14(1H, br s), 10.39(1H, br s).

IR(KBr) $\nu_{\max} \text{cm}^{-1}$: 2941, 2738, 2473, 2023, 1732, 1549.

MS m/z : 364($[M+H]^+$), 333, 273, 259, 242, 207.

(実施例 1 3 3)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - メチルアミノ - 3 - (6 - メチルピリジン - 3 - イルオキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 2 2)

実施例 1 6 b で得られた化合物 N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル 及び 6 - メチルピリジン - 3 - オール を用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 9 8 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.47(3H, t, $J=5.2\text{Hz}$), 2.58(3H, s), 2.58-2.66(1H, m), 2.83(3H, s), 3.02(3H, s), 3.02-3.11(1H, m), 3.11(3H, s), 4.31-4.36(1H, m), 4.41-4.43(1H, m), 4.56-4.61(1H, m), 7.19(2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.53(1H, d, $J=8.9\text{Hz}$), 7.68(2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.80(1H, dd, $J=8.9, 2.0\text{Hz}$), 8.57(1H, d, $J=2.0\text{Hz}$), 10.23(2H, br s).

IR(KBr) $\nu_{\max} \text{cm}^{-1}$: 3427, 2937, 2682, 1739, 1555.

MS m/z : 344($[M+H]^+$), 313, 273, 242, 207.

(実施例 1 3 4)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - メチルアミノ - 3 - (2 - メチルピリジン - 3 - イルオキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 2 1)

実施例 1 6 b で得られた化合物 N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル 及び 2 - メチルピリジン - 3 - オール を用い、実施例 7 f、g と同様

に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 3 9 9 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.47(3H, s), 2.68(1H, brs), 2.80(3H, s), 3.01(3H, s), 3.01-3.09(1H, m), 3.11(3H, s), 4.21(1H, br s), 4.38(1H, br s), 4.41(1H, br s), 7.22(2H, d, $J=8.0\text{Hz}$), 7.68-7.69(3H, m), 7.84(1H, br s), 8.25(1H, br s), 10.19(1H, br s), 10.26(1H, br s).

IR(KBr) $\nu_{\text{max}} \text{cm}^{-1}$: 3423, 2938, 2759, 2690, 1722, 1550.

MS m/z : 344 ($[\text{M}+\text{H}]^+$), 313, 273, 242, 207.

(実施例 1 3 5)

ジメチルカルバミン酸 (R) - 3 - [3 - (4 - ニトロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2 - 1 9 4)

(a) (R) - [1 - [(3 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] カルバミン酸 *t*-ブチル エステル

Tetrahedron: Asymmetry, 1991, 2, 183に記載されている手法によって合成した (R) - 3 - アミノ - 3 - (3 - ヒドロキシフェニル) プロピオン酸 メチル エステルを用い、実施例 6 1 a、bと同様に反応を行い目的化合物を得た。

(b) ジメチルカルバミン酸 (R) - 3 - [3 - (4 - ニトロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩

実施例 1 3 5 aで得られた (R) - [1 - [(3 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] カルバミン酸 *t*-ブチル エステル及び 4 - ニトロフェノールを用い、実施例 7 f、実施例 6 1 d、eと同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm: 2.54 (3H, s), 2.66 (1H, m), 2.99 (3H, s), 3.05 (1H, m), 3.07 (3H, s), 3.79 (1H, m), 4.11 (1H, m), 4.31 (1H, m), 6.87 (2H, d, $J=9.2\text{Hz}$), 7.19 (1H, m), 7.32 (1H, s), 7.45 (2H, m), 8.16 (2H, d, $J=9.2\text{Hz}$),

ms (FAB) m/z : 374 ($[\text{M}+\text{H}]^+$)

(実施例 136)

ジメチルカルバミン酸 (R) - 3 - [3 - (4 - ニトロフェノキシ) - 1 - ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2 - 149)
 実施例 135 で得られた化合物ジメチルカルバミン酸 (R) - 3 - [3 - (4 - ニトロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩を用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm: 2.66 (3H, m), 2.73 (1H, m), 2.86 (3H, m), 3.00 (3H, s), 3.07 (1H, m), 3.09 (3H, m), 3.78 (1H, m), 4.13 (1H, m), 4.34 (1H, m), 6.82 (2H, $J=9.2\text{Hz}$), 7.24 (1H, dd, $J=8.1\text{Hz}$, 1.5Hz), 7.31 (1H, s), 7.37 (1H, d, $J=8.1$), 7.46 (1H, t, $J=8.1$), 8.14 (2H, $J=9.2$),
 ms (FAB) m/z : 388 ($(\text{M}+\text{H})^+$)

(実施例 137)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - エチルアミノ - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 71)

実施例 105a で得られた化合物 N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - エチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 4 - ニトロフェノールを用い、実施例 48a、b と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm: 1.46 (3H, t, $J=7.3\text{Hz}$), 2.71 (1H, m), 2.88 (2H, m), 3.01 (3H, s), 3.10 (3H, s), 3.14 (1H, m), 3.70 (1H, m), 4.04 (1H, m), 4.40 (1H, m), 6.83 (2H, d, $J=9.5\text{Hz}$), 7.19 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 7.63 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 8.14 (2H, d, $J=9.5\text{Hz}$),
 ms (FAB) m/z : 388 ($(\text{M}+\text{H})^+$)

(実施例 138)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - エチルメチルアミノ - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 189)

実施例 1 4 3 で得られた化合物ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - エチルアミノ - 3 - (4 - ニトロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩を用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CDCl_3) δ ppm: 1.37 (1.5H, t, $J=6.8\text{Hz}$), 1.52 (1.5H, t, $J=6.8\text{Hz}$), 2.63 (3H, d, $J=3.4\text{Hz}$), 2.76 (2H, m), 2.93 (3H, d, $J=3.4\text{Hz}$), 3.02 (3H, s), 3.04 (1H, m), 3.11 (3H, s), 3.27 (0.5H, m), 3.39 (0.5H, m), 3.77 (0.5H, m), 3.78 (0.5H, m), 4.11 (1H, m), 4.40 (0.5H, m), 4.54 (0.5H, m), 6.81 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 7.22 (2H, m), 7.56 (1H, dd, $J=8.8\text{Hz}$), 7.64 (1H, dd, $J=7.8\text{Hz}$), 8.13 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$),
ms (FAB) m/z : 402 ($(\text{M}+\text{H})^+$)

(実施例 1 3 9)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - エチルアミノ - 3 - (4 - クロロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 6 9)

実施例 1 0 5 a で得られた化合物 N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - エチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 4 - クロロフェノールを用い、実施例 4 8 a、b と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm: 1.44 (3H, t, $J=7.3\text{Hz}$), 2.63 (1H, m), 2.89 (2H, m), 3.01 (3H, s), 3.08 (1H, m), 3.09 (3H, s), 3.52 (1H, m), 3.88 (1H, m), 4.43 (1H, m), 6.69 (2H, m), 7.17 (4H, m), 7.63 (2H, m),
ms (FAB) m/z : 377 ($(\text{M}+\text{H})^+$)

(実施例 1 4 0)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - エチルメチルアミノ - 3 - (4 - クロロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 9 0)

実施例 1 3 9 で得られた化合物ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - エチルアミノ - 3 - (4 - クロロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩を用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm: 1.51 (1.5H, m), 1.34 (1.5H, m), 2.58 (3H, br s), 2.93 (3H, br s), 3.02 (3H, s), 3.11 (3H, s), 3.23-2.62 (4H, m), 3.42 (0.5H, m), 3.53 (0.5H, m), 3.86 (0.5H, m), 3.95 (0.5H, m), 4.31 (0.5H, m), 4.44 (0.5H, m), 6.67 (2H, m), 7.18 (4H, m), 7.57 (1H, d, $J=7.8\text{Hz}$), 7.64 (1H, d, $J=7.8\text{Hz}$)
 ms (FAB) m/z : 391 ($(\text{M}+\text{H})^+$)

(実施例 1 4 1)

ジメチルカルバミン酸 4- [1-エチルアミノ-3-(3,4-ジフルオロフェノキシ)プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1-72)

実施例 1 0 5 a で得られた化合物 N- [1- [(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3-ヒドロキシプロピル] -N-エチルカルバミン酸 t-ブチル エステル及び 3、4-ジフルオロフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm: 1.45 (3H, t, $J=7.3\text{Hz}$), 2.62 (1H, m), 2.87 (2H, m), 3.01 (3H, s), 3.08 (1H, m), 3.10 (3H, s), 3.52 (1H, m), 3.87 (1H, m), 4.39 (1H, m), 6.45 (1H, m), 6.58 (1H, m), 6.99 (1H, m), 7.19 (2H, d, $J=8.4\text{Hz}$), 7.63 (2H, d, $J=8.4\text{Hz}$),
 ms (FAB) m/z : 379 ($(\text{M}+\text{H})^+$)

(実施例 1 4 2)

ジメチルカルバミン酸 4- [1-エチルメチルアミノ-3-(3,4-ジフルオロフェノキシ)プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1-191)

実施例 1 4 1 で得られた化合物ジメチルカルバミン酸 4- [1-エチルアミノ-3-(3,4-ジフルオロフェノキシ)プロピル] フェニル エステル 塩酸塩を用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CDCl_3) δ ppm: 1.34 (1.5H, t, $J=7.3\text{Hz}$), 1.52 (1.5H, t, $J=7.3\text{Hz}$), 2.57 (1.5H, d, $J=4.9\text{Hz}$), 2.91 (1.5H, d, $J=4.9\text{Hz}$), 3.02 (3H, d,

J=2.0Hz), 3.11 (3H, d, J=2.0Hz), 3.56-2.65 (5H, m), 3.92 (1H, m), 4.26 (0.5H, m), 4.39 (0.5H, m), 6.43 (1H, m), 6.56 (1H, m), 7.00 (1H, m), 7.21 (1H, d, J=8.8Hz), 7.23 (1H, d, J=8.8Hz), 7.56 (1H, d, J=8.8Hz), 7.64 (1H, d, J=8.8Hz),
ms (FAB) m/z: 393 ((M+H)⁺)

(実施例 1 4 3)

ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - エチルメチルアミノ - 3 - (4 - フルオロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 8 8)
実施例 1 0 6 で得られた化合物ジメチルカルバミン酸 4 - [1 - エチルアミノ - 3 - (4 - フルオロフェノキシ) プロピル] フェニル エステル 塩酸塩を用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

¹H-NMR (500MHz, CDCl₃) δ ppm: 1.33 (1.5H, m), 1.51 (1.5H, m), 2.09 (1.5H, s), 2.91 (1.5H, s), 3.02 (3H, s), 3.10 (3H, s), 3.53-2.66 (5H, m), 3.93 (1H, m), 4.27 (0.5H, m), 4.39 (0.5H, m), 6.68 (2H, dd, J=3.9Hz, 8.8Hz), 6.91 (2H, t, J=8.8Hz), 7.21 (2H, m), 7.56 (1H, d, J=7.8Hz), 7.66 (1H, d, J=7.8Hz),

ms (FAB) m/z: 375 ((M+H)⁺)

(実施例 1 4 4)

ジメチルカルバミン酸 3 - [3 - (3 - クロロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 2 - 7 9)

実施例 7 e で得られた化合物 N - [1 - [(3 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 3 - クロロフェノールを用い、実施例 4 8 a、b と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 4 0 0 】

¹H-NMR (400MHz, CDCl₃) δ ppm: 2.54 (3H, s), 2.56-2.62 (1H, m), 2.93-2.99 (1H, m), 2.99 (3H, s), 3.08 (3H, s), 3.60-3.66 (1H, m), 3.94-3.99 (1H, m),

4.29-4.33 (1H,m), 6.70 (1H,d,J=8.1Hz), 6.79 (1H,s), 6.90 (1H,d,J=8.1Hz),
7.14 (1H,tri,J=8.1Hz), 7.17-7.20 (1H,m), 7.33 (1H,s), 7.43-7.44 (2H,m).
ms(FAB)m/z:(FAB+):363((M+H)⁺)

(実施例 1 4 5)

ジメチルカルバミン酸 3 - [3 - (4 - クロロフェノキシ) - 1 - ジメチルア
ミノプロピル] フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 2 - 1 3 5)

実施例 1 0 で得られた化合物ジメチルカルバミン酸 3 - [3 - (4 - クロロフ
ェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル塩酸塩を用い、実
施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 4 0 1 】

¹H-NMR(400MHz,CDCl₃) δ ppm : 2.60-2.73 (1H,m), 2.73 (6H,br), 2.91-2.9
9 (1H,m), 3.01 (3H,s), 3.10 (3H,s), 3.55-3.61 (1H,m), 3.96-4.00 (1H,m),
4.27-4.31 (1H,m), 6.67 (2H,d,J=9.0Hz), 7.18 (2H,d,J=9.0Hz), 7.22 (1H,dt,
J=7.9Hz,1.8Hz), 7.30 (1H,tri,J=1.8Hz), 7.38 (1H,d,J=7.9Hz), 7.45 (1H,tri
,J=7.9Hz)

ms(FAB)m/z:(FAB+):377((M+H)⁺)

(実施例 1 4 6)

ジメチルカルバミン酸 3 - [3 - (3 - クロロ - 4 - フルオロフェノキシ) -
1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 2 - 1
0 9)

実施例 7 e で得られた化合物 N - [1 - [(3 - ジメチルカルバモイルオキシ)
フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル
エステル及び 3 - クロロ - 4 - フルオロフェノールを用い、実施例 4 8 a、b と
同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 4 0 2 】

¹H-NMR(400MHz,CDCl₃) δ ppm : 2.54 (3H,s), 2.56-2.62 (1H,m), 2.92-2.98
(1H,m), 3.00 (3H,s), 3.09 (3H,s), 3.56-3.64 (1H,m), 3.92-3.97 (1H,m), 4

.28-4.32 (1H,m), 6.65-6.68 (1H,m), 6.82-6.84 (1H,m), 6.99 (1H,tri,J=8.8Hz), 7.17-7.20 (1H,m), 7.31 (1H,s), 7.44 (2H,d,J=5.1Hz).

ms(FAB)m/z: (FAB+): 381((M+H)⁺)

(実施例 147)

ジメチルカルバミン酸 3-[3-(4-クロロ-3-フルオロフェノキシ)-1-メチルアミノプロピル]フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 2-104)

実施例 7e で得られた化合物 N-[1-[(3-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル]-3-ヒドロキシプロピル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル及び 4-クロロ-3-フルオロフェノールを用い、実施例 48a、b と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0403】

¹H-NMR(400MHz,CDCl₃) δ ppm: 2.54 (3H,s), 2.56-2.62 (1H,m), 2.93-2.98 (1H,m), 2.99 (3H,s), 3.08 (3H,s), 3.60-3.65 (1H,m), 3.94-3.99 (1H,m), 4.29-4.31 (1H,m), 6.56 (1H,dd,J=2.9Hz,1.5Hz), 6.62 (1H,dd,J=2.9Hz,1.5Hz), 7.17-7.23 (2H,m), 7.31 (1H,m), 7.44 (2H,d,J=5.1Hz)

ms(FAB)m/z: (FAB+): 381((M+H)⁺)

(実施例 148)

ジメチルカルバミン酸 3-[3-(3-クロロフェノキシ)-1-ジメチルアミノプロピル]-フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 2-136)

実施例 144 で得られた化合物ジメチルカルバミン酸 3-[3-(3-クロロフェノキシ)-1-メチルアミノプロピル]フェニル エステル塩酸塩を用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0404】

¹H-NMR(400MHz,CDCl₃) δ ppm: 2.64 (3H,d,J=4.8Hz), 2.60-2.71 (1H,m), 2.88 (3H,d,J=4.8Hz), 2.93-3.00 (1H,m), 3.01 (3H,s), 3.10(3H,s), 3.56-3.62 (1H,m), 3.97-4.02 (1H,m), 4.28-4.34 (1H,m), 6.64 (1H,dd,J=8.0Hz,2.0Hz),

6.74 (1H, tri, J=2.0Hz), 6.91 (1H, dd, J=8.0Hz, 2.0Hz), 7.14 (1H, tri, J=8.1Hz), 7.23 (1H, d, J=8.0), 7.32 (1H, s), 7.38 (1H, d, J=8.0Hz), 7.46 (1H, tri, J=8.1 Hz)

ms(FAB)m/z: (FAB+): 377((M+H)⁺)

(実施例 1 4 9)

ジメチルカルバミン酸 3 - [3 - (3 - クロロ - 4 - フルオロフェノキシ) - 1 - ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 2 - 1 6 6)

実施例 1 4 6 で得られた化合物ジメチルカルバミン酸 3 - [3 - (3 - クロロ - 4 - フルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル塩酸塩を用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0 4 0 5】

¹H-NMR(400MHz, CDCl₃) δ ppm : 2.60-2.70 (1H, m), 2.73 (6H, br), 2.90-3.00 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.10 (3H, s), 3.54-3.60 (1H, m), 3.94-3.99 (1H, m), 4.26-4.29 (1H, m), 6.59-6.63 (1H, m), 6.76-6.78 (1H, m), 6.99 (1H, tri, J=8.8 Hz), 7.26 (1H, dd, J=8.1Hz, 2.2Hz), 7.30 (1H, d, J=2.2Hz), 7.37 (1H, dd, J=8.1Hz, 2.2Hz), 7.46 (1H, tri, J=7.7Hz).

ms(FAB)m/z: (FAB+): 395((M+H)⁺)

(実施例 1 5 0)

ジメチルカルバミン酸 3 - [3 - (4 - クロロ - 3 - フルオロフェノキシ) - 1 - ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 2 - 1 6 1)

実施例 1 4 7 で得られた化合物ジメチルカルバミン酸 3 - [3 - (4 - クロロ - 3 - フルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル塩酸塩を用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 4 0 6 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.63-2.70 (1H,m), 2.75 (6H,br), 2.93-2.99 (1H,m), 3.01 (3H,s), 3.10 (3H,s), 3.56-3.62 (1H,m), 3.96-4.01 (1H,m), 4.27-4.31 (1H,m), 6.48-6.57 (2H,m), 7.20 (1H,d,J=8.1Hz), 7.23 (1H,d,J=6.6Hz), 7.30 (1H,s), 7.37 (1H,d,J=8.1Hz), 7.46 (1H,tri,J=8.1Hz).
 $\text{ms(FAB)m/z: (FAB+): 395((M+H)^+)$

(実施例 1 5 1)

ジメチルカルバミン酸 (R) - 4 - [3 - (3 , 4 - ジフルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 0 2)

実施例 6 1 b で得られた化合物 (R) - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] カルバミン酸 t - ブチル エステル 及び 3 , 4 - ジフルオロフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 4 0 7 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.51(3H,s), 2.45-2.64(1H,m), 2.90-3.05(1H,m), 3.01(3H,s), 3.10(3H,s), 3.50-3.60(1H,m), 3.87-3.97(1H,m), 4.27-4.36(1H,m), 6.44-6.52(1H,m), 6.61(1H,ddd,J=11.7Hz,6.6Hz,2.9Hz), 7.00(1H,q,J=9.5Hz), 7.19(2H,d,J=8.8Hz), 7.59(2H,d,J=8.8Hz) 9.5-10.6(br).

MS (FAB $^+$): 365(M+H) $^+$.

$[\alpha]_D^{22} -94.8(\text{CHCl}_3, C=0.92)$

(実施例 1 5 2)

ジメチルカルバミン酸 (R) - 4 - [3 - (3 , 4 - ジフルオロフェノキシ) - 1 - ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 5 9)

実施例 1 5 1 で得られた化合物ジメチルカルバミン酸 (R) - 4 - [3 - (3 , 4 - ジフルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル

塩酸塩を用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0 4 0 8】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.60(3H, brs), 2.55-2.73(1H, br), 2.89(3H, brs), 2.82-2.98(1H, br), 3.02(3H, s), 3.11(3H, s), 3.45-3.56(1H, br), 3.90-4.00(1H, br), 4.22-4.34(1H, br), 6.40-6.49(1H, m), 6.51-6.62(1H, m), 7.01(1H, q, $J=9.5\text{Hz}$), 7.23(2H, d, $J=6.6\text{Hz}$), 7.56(2H, d, $J=6.6\text{Hz}$).

MS (FAB+): 379(M+H)+

$[\alpha]_D^{22} -88.9(\text{CHCl}_3, C=0.98)$

(実施例 1 5 3)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - ニトロフェニルスルファニル) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 4 3)
 実施例 1 6 b で得られた化合物 N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 4 - ニトロチオフェノールを用い、実施例 7 f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm: 2.43 (3H, s), 2.56 (1H, m), 2.82 (2H, m), 3.01 (1H, m), 3.02 (3H, s), 3.12 (3H, s), 4.13 (1H, m), 7.23 (4H, m), 7.58 (2H, d, $J=8.1\text{Hz}$), 8.09 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$)

ms (FAB) m/z: 390 ((M+H)⁺)

(実施例 1 5 4)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - ニトロフェニルスルファニル) - 1 - ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 4 7)

実施例 1 5 3 で得られた化合物ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (4 - ニトロフェニルスルファニル) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル塩酸塩を用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm: 2.59 (3H, m), 2.67 (1H, m), 2.76 (3H, m), 2.80 (1H, m), 3.01 (1H, m), 3.04 (3H, s), 3.10 (1H, m), 3.13 (3H, s), 4.25 (1H, m), 7.25 (4H, m), 7.53 (2H, d, $J=8.1\text{Hz}$), 8.12 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$),
ms (FAB) m/z : 404 ($(\text{M}+\text{H})^+$)

(実施例 155)

ジメチルカルバミン酸 4- [3- (4-クロロフェニルスルファニル) -1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 1-42)
実施例 16b で得られた化合物 N- [1- [(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3-ヒドロキシプロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル及び 4-クロロチオフェノールを用い、実施例 7f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm: 2.40 (3H, s), 2.46 (1H, m), 2.63 (2H, m), 2.86 (1H, m), 3.02 (3H, s), 3.11 (3H, s), 4.17 (1H, m), 7.22 (6H, m), 7.54 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$),
ms (FAB) m/z : 379 ($(\text{M}+\text{H})^+$)

(実施例 156)

ジメチルカルバミン酸 4- [3- (4-クロロフェニルスルファニル) -1-ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 1-46)

実施例 155 で得られた化合物ジメチルカルバミン酸 4- [3- (4-クロロフェニルスルファニル) -1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル塩酸塩を用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm: 2.54 (3H, d, $J=4.8\text{Hz}$), 2.60-2.50 (3H, m), 2.73 (3H, d, $J=4.8\text{Hz}$), 2.90 (1H, m), 3.03 (3H, s), 3.12 (3H, s), 4.21 (1H, m), 7.24 (6H, m), 7.51 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$),
ms (FAB) m/z : 393 ($(\text{M}+\text{H})^+$)

(実施例 157)

ジメチルカルバミン酸 4-[3-(4-フルオロフェニルスルファニル)-1-メチルアミノプロピル]フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 1-41)

実施例 16b で得られた化合物 N-[1-[(4-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル]-3-ヒドロキシプロピル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル及び 4-フルオロチオフェノールを用い、実施例 7f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CDCl_3) δ ppm: 2.40 (3H, s), 2.43 (1H, m), 2.60 (2H, m), 2.84 (1H, m), 3.02 (3H, s), 3.11 (3H, s), 4.19 (1H, m), 6.98 (2H, t, $J=8.8\text{Hz}$), 7.19 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 7.30 (2H, dd, $J=8.8\text{Hz}$, 5.9Hz), 7.54 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$),

ms (FAB) m/z : 363 ($(\text{M}+\text{H})^+$)

(実施例 158)

ジメチルカルバミン酸 4-[3-(4-フルオロフェニルスルファニル)-1-ジメチルアミノプロピル]フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 1-45)

実施例 157 で得られた化合物ジメチルカルバミン酸 4-[3-(4-フルオロフェニルスルファニル)-1-メチルアミノプロピル]フェニル エステル塩酸塩を用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm: 2.63-2.42 (3H, m), 2.54 (3H, br s), 2.73 (3H, br s), 2.86 (1H, m), 3.03 (3H, s), 3.12 (3H, s), 4.21 (1H, m), 7.01 (2H, t, $J=8.8\text{Hz}$), 7.24 (2H, d, $J=7.7\text{Hz}$), 7.32 (2H, dd, $J=8.8\text{Hz}$, 5.1Hz), 7.50 (2H, d, $J=7.7\text{Hz}$),

ms (FAB) m/z : 377 ($(\text{M}+\text{H})^+$)

(実施例 159)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (ピリジン - 2 - イルオキシ) - 1 - ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 8 0)

実施例 1 6 b で得られた化合物 N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及びピリジン - 2 - オールを用い、実施例 4 8 a、b、3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CDCl_3) δ ppm: 2.60 (3H, d, $J=4.4\text{Hz}$), 2.95 (2H, m), 3.01 (3H, s), 3.05 (3H, d, $J=4.4\text{Hz}$), 3.10 (3H, s), 4.17 (1H, br s), 4.63 (1H, br s), 4.99 (1H, br s), 7.13 (1H, br d), 7.19 (2H, d, $J=7.7\text{Hz}$), 7.37 (1H, br t), 7.82 (2H, d, $J=7.7\text{Hz}$), 8.21 (1H, br t), 8.31 (1H, d, $J=5.4\text{Hz}$)

ms (FAB) m/z : 344 ($(\text{M}+\text{H})^+$)

(実施例 1 6 0)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (6 - クロロピリジン - 2 - イルオキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 2 4)

実施例 1 6 b で得られた化合物 N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 6 - クロロピリジン - 2 - オールを用い、実施例 4 8 a、b と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CDCl_3) δ ppm: 2.49 (1H, m), 2.98 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.10 (3H, s), 4.41 (1H, br s), 4.47 (1H, br s), 4.61 (1H, br s), 7.05 (1H, m), 7.19 (2H, d, $J=6.9\text{Hz}$), 7.54 (2H, br d), 7.86 (1H, br s), 8.14 (1H, br s),

ms (FAB) m/z : 364 ($(\text{M}+\text{H})^+$)

(実施例 1 6 1)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (6 - クロロピリジン - 2 - イルオキシ) -

1-ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 1-181)

実施例 160 で得られた化合物ジメチルカルバミン酸 4-[3-(6-クロロピリジン-2-イルオキシ)-1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル塩酸塩を用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CDCl_3) δ ppm: 2.60 (3H, d, $J=3.2\text{Hz}$), 2.70 (1H, m), 2.84 (3H, d, $J=3.2\text{Hz}$), 2.97 (1H, m), 3.02 (3H, s), 3.11 (3H, s), 3.94 (1H, m), 4.32 (2H, br s), 6.65 (1H, br d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.22 (2H, d, $J=7.9\text{Hz}$), 7.55 (3H, m), 8.02 (1H, br s),
ms (FAB) m/z : 378 ($(\text{M}+\text{H})^+$)

(実施例 162)

ジメチルカルバミン酸 (S)-4-[3-(3,4-ジフルオロフェノキシ)-1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1-102)

実施例 81b で得られた化合物 (S)-[1-[(4-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル]-3-ヒドロキシプロピル] カルバミン酸 t-ブチル エステル及び 3,4-ジフルオロフェノールを用い、実施例 7f、g と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0409】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm: 2.51 (3H, s), 2.48-2.62 (1H, m), 2.90-3.05 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.10 (3H, s), 3.50-3.61 (1H, m), 3.88-3.97 (1H, m), 4.27-4.37 (1H, m), 6.45-6.55 (1H, m), 6.61 (1H, ddd, $J=11.9\text{Hz}, 6.5\text{Hz}, 3.0\text{Hz}$), 7.00 (1H, q, $J=9.4\text{Hz}$), 7.19 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$), 7.59 (2H, d, $J=8.5\text{Hz}$) 9.4-10.7 (br).

MS (FAB $^+$): 365 ($\text{M}+\text{H}$) $^+$.

$[\alpha]_{\text{D}}^{22} +94.6$ (CHCl_3 , $C=1.05$)

(実施例 163)

ジメチルカルバミン酸 (S) - 4 - [3 - (3 , 4 - ジフルオロフェノキシ) - 1 - ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 5 9)

実施例 1 6 2 で得られた化合物ジメチルカルバミン酸 (S) - 4 - [3 - (3 , 4 - ジフルオロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 塩酸塩を用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【 0 4 1 0 】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.61(3H, brs), 2.60-2.74(1H, br), 2.90(3H, brs), 2.84-3.00(1H, br), 3.02(3H, s), 3.11(3H, s), 3.42-3.58(1H, br), 3.88-4.00(1H, br), 4.20-4.34(1H, br), 6.40-6.48(1H, m), 6.52-6.62(1H, m), 7.01(1H, q, $J=9.5\text{Hz}$), 7.23(2H, d, $J=6.4\text{Hz}$), 7.56(2H, d, $J=6.4\text{Hz}$).

MS (FAB+) : 379(M+H)⁺

$[\alpha]_{\text{D}}^{22} +86.5(\text{CHCl}_3, \text{C}=1.06)$

(実施例 1 6 4)

ジメチルカルバミン酸 (S) - 4 - [3 - (4 - クロロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル 1/2 フマル酸塩 (例示化合物番号 1 - 7 8)

実施例 8 2 で得られたジメチルカルバミン酸 (S) - 4 - [3 - (4 - クロロフェノキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステルを用い、実施例 1 2 1 と同様にして目的化合物を結晶として得た。

【 0 4 1 1 】

融点 : 173-174°C

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.16-2.29(1H, m), 2.39(3H, s), 2.46-2.59(1H, m), 2.99(3H, s), 3.08(3H, s), 3.61-3.71(1H, m), 3.84-3.94(1H, m), 4.03-4.12(1H, m), 6.71(2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 6.78(1H, s), 7.13(2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 7.16(2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 7.39(2H, d, $J=8.8\text{Hz}$).

MS (FAB+) : 363(M+H)⁺

$[\alpha]_D^{22} +78.4(\text{CHCl}_3, C=1.03)$

(実施例 1 6 5)

4 - [3 - (4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル - 3 - メチルアミノプロピルオキシ] 安息香酸 (例示化合物番号 1 - 9 9)

(a) 4 - [3 - (4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル - 3 - メチルアミノプロピルオキシ] 安息香酸 ベンジルエステル

実施例 1 6 b で得られた化合物 N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t - ブチル エステル及び 4 - ヒドロキシ安息香酸 ベンジルエステルを用い、実施例 4. 8 a、b と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}(500\text{MHz}, \text{CDCl}_3)$ δ ppm : 2.00-2.07 (1H, m), 2.22-2.29 (1H, m), 2.29 (3H, s), 3.01 (3H, s), 3.09 (3H, s), 3.76 (1H, t, J=7.5Hz), 3.84-3.89 (1H, m), 4.00 (1H, dt, J=5.5Hz, 10.0Hz), 5.33 (2H, s), 6.85 (2H, d, J=9.0Hz), 7.07 (2H, d, J=8.5Hz), 7.27 (2H, d, J=8.5Hz), 7.32-7.34 (3H, m), 7.44 (2H, d, J=8.0Hz), 8.00 (2H, d, J=9.0Hz).

(b) 4 - [3 - (4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル - 3 - メチルアミノプロピルオキシ] 安息香酸

実施例 1 6 5 a で得られた化合物 4 - [3 - t - ブトキシカルボニルアミノ - 3 - (4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニルプロピルオキシ] 安息香酸 ベンジルエステルを用い、実施例 1 c と同様に反応を行い、カラムクロマトグラフィーで精製して目的化合物を得た。

【0 4 1 2】

$^1\text{H-NMR}(400\text{MHz}, \text{CDCl}_3)$ δ ppm : 2.18-2.28 (1H, m), 2.38 (3H, s), 2.52-2.62 (1H, m), 3.02 (3H, s), 3.11 (3H, s), 3.90-3.98 (1H, m), 4.13-4.22 (2H, m), 6.77 (2H, d, J=8.8Hz), 7.17 (2H, d, J=8.8Hz), 7.47 (2H, d, J=8.8Hz), 7.74 (2H, d, J=8.8Hz).

IR(CHCl₃) 2952, 2470, 1716, 1605, 1511, 1389, 1250, 1169, 1036, 1018, 85

1.

(実施例 1 6 6)

4 - [3 - (4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル - 3 - ジメチルアミノプロピルオキシ] 安息香酸 (例示化合物番号 1 - 1 5 6)

実施例 1 6 5 a で得られた化合物 4 - [3 - t-ブトキシカルボニルアミノ - 3 - (4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニルプロピルオキシ] 安息香酸 ベンジルエステルを用い、実施例 6 b、3、1 6 5 b と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

【0 4 1 3】

$^1\text{H-NMR}$ (400MHz, CDCl_3) δ ppm : 2.23-2.36 (1H, m), 2.41 (6H, s), 2.65-2.74 (1H, m), 3.03 (3H, s), 3.12 (3H, s), 3.88-3.94 (1H, m), 4.08-4.14 (1H, m), 4.27 (1H, dd, $J=9.4\text{Hz}, 5.0\text{Hz}$), 6.79 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 7.20 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 7.38 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$), 7.71 (2H, d, $J=8.8\text{Hz}$).

IR(CHCl_3) 2962, 1719, 1605, 1510, 1470, 1391, 1251, 1168, 1037, 1017, 851.

(実施例 1 6 7)

ジメチルカルバミン酸 4 - [3 - (6 - ニトロピリジン - 2 - イルオキシ) - 1 - メチルアミノプロピル] フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 1 - 1 2 6)

実施例 1 6 b で得られた化合物 N - [1 - [(4 - ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] - 3 - ヒドロキシプロピル] - N - メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル及び 6 - ニトロピリジン - 2 - オールを用い、実施例 4 8 a、b と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CDCl_3) δ ppm: 2.50 (3H, s), 2.68 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.05 (1H, m), 3.10 (3H, s), 4.14 (1H, m), 4.25 (1H, m), 4.47 (1H, m), 6.78 (1H, d, $J=8.6\text{Hz}$), 7.19 (2H, d, $J=7.8\text{Hz}$), 7.58 (2H, d, $J=7.8\text{Hz}$), 8.33 (1H, dd, $J=8.6\text{Hz}, 2.9\text{Hz}$), 8.96 (1H, d, $J=2.9\text{Hz}$), 9.95 (1H, br s), 10.30

(1H, br s),

ms (FAB) m/z: 375 ((M+H)⁺)

(実施例 168)

ジメチルカルバミン酸 4-[3-(6-ニトロピリジン-2-イルオキシ)-1-ジメチルアミノプロピル]フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 1-183)

実施例 167 で得られた化合物ジメチルカルバミン酸 4-[3-(6-ニトロピリジン-2-イルオキシ)-1-メチルアミノプロピル]フェニル エステル塩酸塩を用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

¹H-NMR (500MHz, CDCl₃) δ ppm: 2.63 (3H, d, J=4.7Hz), 2.75 (1H, m), 2.82 (3H, d, J=4.7Hz), 3.01 (1H, m), 3.02 (3H, s), 3.11 (3H, s), 4.13 (1H, m), 4.33 (1H, m), 4.45 (1H, m), 6.73 (1H, d, J=9.0Hz), 7.23 (2H, d, J=8.4 Hz), 7.51 (2H, d, J=8.4Hz), 8.32 (1H, dd, J=9.0Hz, 2.8Hz), 8.96 (1H, d, J=2.8Hz),

ms (FAB) m/z: 389 ((M+H)⁺)

(実施例 169)

ジメチルカルバミン酸 4-[3-(6-トリフルオロメチルピリジン-2-イルオキシ)-1-メチルアミノプロピル]フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 1-125)

実施例 16b で得られた化合物 N-[1-[(4-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル]-3-ヒドロキシプロピル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル及び 6-トリフルオロメチルピリジン-2-オールを用い、実施例 48a、b と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

¹H-NMR (500MHz, CDCl₃) δ ppm: 2.50 (3H, m), 2.64 (1H, m), 2.99 (1H, m), 3.01 (3H, s), 3.10 (3H, s), 4.06 (1H, m), 4.19 (1H, m), 4.40 (1H, m), 6.78 (1H, d, J=8.8Hz), 7.19 (2H, d, J=8.5Hz), 7.59 (2H, d, J=8.5Hz), 7.75

(1H, dd, J=8.8Hz, 2.0Hz), 8.83 (1H, s), 9.97 (1H, br s), 10.26 (1H, br s),

IR (KBr) cm^{-1} : 2950, 2770, 2700, 1730, 1610, 1390, 1330, 1290, 1220, 1180, 1160, 1130

(実施例 170)

ジメチルカルバミン酸 4- [3- (6-トリフルオロメチルピリジン-2-イルオキシ) -1-ジメチルアミノプロピル] フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 1-182)

実施例 169 で得られた化合物ジメチルカルバミン酸 4- [3- (6-トリフルオロメチルピリジン-2-イルオキシ) -1-メチルアミノプロピル] フェニル エステル塩酸塩を用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CDCl_3) δ ppm: 2.88-2.63 (7H, m), 3.00 (1H, m), 3.02 (3H, s), 3.11 (3H, s), 4.02 (1H, m), 4.30 (1H, m), 4.38 (1H, m), 5.73 (1H, d, J=7.8Hz), 7.22 (2H, d, J=8.8Hz), 7.52 (2H, d, J=8.8Hz), 7.74 (1H, m), 8.33 (1H, s),

IR (KBr) cm^{-1} : 2930, 2630, 2580, 2510, 2460, 1730, 1610, 1390, 1330, 1290, 1220, 1180, 1160, 1130

(実施例 171)

3- [3- (4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル-3-メチルアミノプロピルオキシ] -チオフエンカルボン酸メチルエステル塩酸塩 (例示化合物番号 1-130)

実施例 16b で得られた化合物 N- [1- [(4-ジメチルカルバモイルオキシ) フェニル] -3-ヒドロキシプロピル] -N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル及び 3-ヒドロキシチオフエンカルボン酸 メチル エステルを用い、実施例 48a、b と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

$^1\text{H-NMR}$ (500MHz, CDCl_3) δ ppm: 2.55 (1H, m), 2.64 (3H, m), 3.01 (3H, s),

3.08 (1H, m), 3.09 (3H, s), 3.87 (3H, s), 4.04 (1H, m), 4.30 (1H, m), 4.53 (1H, m), 6.78 (1H, d, J=4.9Hz), 7.18 (2H, d, J=7.8Hz), 7.48 (3H, m), 9.84 (1H, br s), 10.65 (1H, br s),
ms (FAB) m/z: 393 ((M+H)⁺)

(実施例 172)

3-[3-(4-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル-3-ジメチルアミノプロピルオキシ]-チオフェンカルボン酸メチルエステル塩酸塩 (例示化合物番号 1-187)

実施例 171 で得られた化合物 3-[3-(4-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル-3-メチルアミノプロピルオキシ]-チオフェンカルボン酸メチルエステルを用い、実施例 3 と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

¹H-NMR (500MHz, CDCl₃) δ ppm: 2.58 (3H, d, J=4.9Hz), 2.68 (1H, m), 2.93 (1H, m), 3.00 (3H, m), 3.01 (3H, s), 3.10 (3H, s), 3.56 (1H, m), 3.86 (3H, s), 4.24 (1H, m), 4.55 (1H, m), 6.67 (1H, d, J=5.4Hz), 7.19 (2H, d, J=8.8Hz), 7.36 (1H, d, J=5.4Hz), 7.69 (2H, d, J=8.8Hz),
IR (film) cm⁻¹: 3420, 3100, 3020, 2950, 2660, 2580, 2510, 2460, 1720, 1540, 1440, 1390, 1220, 1070

(実施例 173)

ジメチルカルバミン酸 4-[3-(2-ニトロピリジン-4-イルオキシ)-1-メチルアミノプロピル]フェニル エステル塩酸塩 (例示化合物番号 1-128)

実施例 16b で得られた化合物 N-[1-[(4-ジメチルカルバモイルオキシ)フェニル]-3-ヒドロキシプロピル]-N-メチルカルバミン酸 t-ブチル エステル及び 2-ニトロピリジン-4-オールを用い、実施例 48a、b と同様に反応を行い目的化合物をアモルファスとして得た。

¹H-NMR (500MHz, DMSO-d₆) δ ppm: 2.39 (1H, m), 2.50 (3H, d, J=2.0Hz), 2.

64 (1H, m), 2.88 (3H, s), 3.01 (3H, s), 3.94 (1H, m), 4.32 (2H, m), 7.18 (2H, d, J=8.8Hz), 7.32 (1H, d, J=5.9Hz), 7.51 (2H, d, J=8.8Hz), 8.70 (1H, m), 9.01 (1H, s),

ms (FAB) m/z: 375 ((M+H)⁺)

(試験例)

(試験例1) in vitro 活性試験

(試験例1a) アセチルコリンエステラーゼ阻害活性試験

アセチルコリンエステラーゼ源として、マウス全脳ホモジネートを用いて、文献 [Biochem.Pharmacol., 7, 88 (1961).] に記載の方法に準拠して、アセチルコリンエステラーゼ阻害活性を測定した。すなわち、ジメチルスルホキシド (DMSO) に溶解させた検体 10 μ l をホモジネート入り磷酸バッファー 3ml [100mM 磷酸バッファー (Na₂HPO₄, 100mM 及び NaH₂PO₄, 100mM より調製: pH=7.0) 2990 μ l + 脳ホモジネート 10 μ l] に加え、室温で 10 分間プレインキュベートさせた。ジチオビスニトロ安息香酸 (DTNB) 溶液 50 μ l (DTNB 395mg と NaHCO₃ 150.5mg を 100mM 磷酸バッファー 100ml に溶解) を加え、再び室温で 20 分間プレインキュベートさせた。ヨウ化アセチルチオコリン (ATC) 溶液 50 μ l (ATC 8.676mg を蒸留水 1ml に溶解) を加え、反応開始直後及び 8 分後の溶液の吸光度 (412nm) を測定し、阻害率 (%) を求め、アセチルコリンエステラーゼ阻害活性を 50 % 阻害する試験化合物の濃度 (IC₅₀) を求めた。

(試験例1b) セロトニン再取り込み阻害活性試験

ラットの小脳を除く全脳より調製したシナプトソームを用いてセロトニン再取り込み阻害活性を測定した。すなわち DMSO に溶解させた検体 10 μ l (コントロールは DMSO のみ) をシナプトソーム 1ml に加え、37 °C で 5 分間インキュベートした (ブランクは DMSO のみを添加し、4 °C でインキュベートした)。 [³H] 5-HT : 10 μ l (最終濃度: total 5-HT として 10 μ M, [³H] 5-HT として 100nM) を加え、37 °C で 5 分間反応させた。氷冷した生理食塩水 4ml を添加し、反応を停止させた。反応液をフィルターで濾過し

、さらに生理食塩水4 ml を反応管に加え、濾過した。ピコフロー5 ml を添加し、ろ紙上の ^3H を液体シンチレーションカウンターで測定し、セロトニン再取り込みを50 %阻害する試験化合物の濃度 (IC_{50}) を求めた。

【0414】

試験結果を表4に示す。

【0415】

【表4】

IC_{50} (nM)		
被検化合物 セロトニン再取り込み阻害アセチルコリンエステラーゼ阻害番号		
実施例16	210	493
実施例30	790	594
実施例31	440	323
実施例38	175	199
実施例41	75	507
実施例54	670	166
実施例55	280	60
実施例61	230	182
実施例62	270	343
実施例68	580	145
実施例70	90	86
実施例76	300	124
実施例81	320	228
実施例82	83	377
実施例89	87	319
実施例95	52	221
実施例102	170	167

実施例 1 0 4	53	176
実施例 1 2 4	64	110
実施例 1 2 5	19	841
実施例 1 2 7	40	856
実施例 1 2 8	15	70
実施例 1 2 9	64	650
実施例 1 3 0	42	88
実施例 1 3 1	57	129
実施例 1 3 6	980	236
実施例 1 5 2	310	67
実施例 1 6 2	400	188

表 4 より明らかであるように、本発明の上記実施例化合物は、顕著なアセチルコリンエステラーゼ阻害活性、及び、顕著なセロトニン再取込阻害活性を同時に示した。本発明の化合物は、安全で有効な医薬品として有用である。

(試験例 2) ex vivo 活性試験

(試験例 2 a) アセチルコリンエステラーゼ阻害試験

マウスに被検薬を経口投与後 60 分に小脳を除く全脳を摘出する。摘出した脳に対し、脳重量の 1.6 倍量のリン酸バッファー (pH 8.0) を加えてホモジネートを調整する。ホモジネート 100 μ L とアセチルチオコリン (60mM, 10 μ L) を混和し、26°C で 60 秒間インキュベートする。10,000rpm で 10 分間遠心して得られた上清 10 μ L を dithionitrobenzoic Acid (10mM, 200 μ L) と混和し、室温で 20 分間発色させた後、マイクロプレートリーダーにて吸光度 (415nm) を測定する。被検薬を投与しないコントロール脳の thiocholine 生成量を 100% として阻害率を算出する。

(試験例 2 b) セロトニントランスポータ蛋白結合阻害試験

マウスに被験薬を経口投与後 60 分に小脳を除く全脳を摘出する。摘出した脳に対し、脳重量の 3 倍量の 50mM Tris 塩酸バッファー (pH 7.7) を加えてホモジネートを調整する。ホモジネート 250 μ L に [3 H] citalopram (NEN Life Science Products 社製：最終濃度 0.77nM) を (1) フルボキサミン (最終濃度 1mM) の存在下 (2

）フルボキサミンの非存在下混和し、25℃で60分間インキュベートする。Tris塩酸バッファー2.5mlを加え3,000rpmで6分間遠心して沈殿を回収する操作を2回繰り返した後、得られた沈殿を1mLのバッファーに懸濁しピコフロー40（4mL）を加えて液体シンチレーションカウンター（アロカLSC-3500）で放射活性を測定する。フルボキサミン存在下の放射活性（2）に対するフルボキサミン非存在下の放射活性（1）の差分により $[^3\text{H}]$ citalopramのセロトニントランスポータ蛋白結合量を算出する。

【 0 4 1 6 】

本発明の化合物は、経口投与後のマウスの脳内において、顕著なアセチルコリンエステラーゼ阻害活性、及び、顕著なセロトニントランスポータ蛋白結合阻害活性を同時に示し、安全且つ薬効の期待できる医薬品として有用である。

（製剤例）

（製剤例 1）ハードカプセル剤

標準二分式ハードゼラチンカプセルの各々に、100 mgの粉末状の実施例1の化合物、150 mgのラクトース、50 mg のセルロース及び6 mgのステアリン酸マグネシウム

を充填することにより、単位カプセルを製造し、洗浄後、乾燥する。

（製剤例 2）ソフトカプセル剤

消化性油状物、例えば、大豆油、綿実油又はオリーブ油中に入れた、実施例2の化合物の混合物を調製し、正置換ポンプでゼラチン中に注入して、100 mgの活性成分を含有するソフトカプセルを得、洗浄後、乾燥する。

（製剤例 3）錠剤

常法に従って、100 mgの実施例3の化合物、0.2 mgのコロイド性二酸化珪素、5 mgのステアリン酸マグネシウム、275 mgの微結晶性セルロース、11 mg のデンプン及び98.8 mg のラクトースを用いて製造する。

【 0 4 1 7 】

尚、所望により、剤皮を塗布する。

（製剤例 4）懸濁剤

5 ml中に、100 mgの微粉化した実施例4の化合物、100 mgのナトリウムカルボ

キシ基メチルセルロース、5 mgの安息香酸ナトリウム、1.0 g のソルビトール溶液（日本薬局方）及び0.025 mlのバニリンを含有するように製造する。

（製剤例 5）クリーム

40% のホワイトペトロラトム、3%の微結晶性ワックス、10% のラノリン、5%のスパン20、0.3%のトウイーン20及び41.7% の水からなる5 g のクリーム中に100 mgの微粉化した実施例 5 の化合物を混入することにより製造する。

【 0 4 1 8 】

【発明の効果】

本願発明の化合物は、優れたアセチルコリンエステラーゼ阻害作用及び選択的セロトニン再取込阻害作用を併せ持ち、アルツハイマー病、鬱病、ハンチントン舞踏病、ピック病、晩発性運動異常症、脅迫性障害又はパニック障害の治療薬又は予防薬として有用である。

【書類名】 要約書

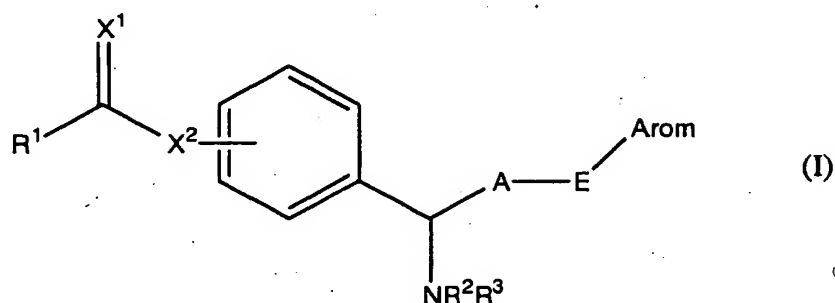
【要約】

【課題】 優れたアセチルコリンエステラーゼ阻害作用と選択的セロトニン再取込阻害作用を併せ持つ化合物を提供することを目的とする。

【解決手段】

一般式 (I)

【化1】



〔式中、 R^1 は、 C_1 - C_6 アルキル基等を示し、 R^2 及び R^3 は、同一又は異なって、水素原子等を示し、Aromは、アリール基等を示し、Aは、 C_1 - C_6 アルキレン基を示し、Eは、単結合、酸素原子、硫黄原子等を示し、 X^1 及び X^2 は同一又は異なって、酸素原子又は硫黄原子を示す。〕で表される化合物、又は、その薬理学上許容される塩若しくはエステル。

【選択図】 なし

特2001-018386

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2001-018386
受付番号	50100109283
書類名	特許願
担当官	第六担当上席 0095
作成日	平成13年 1月29日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成13年 1月26日
-------	-------------

特2001-018386

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[000001856]

1. 変更年月日 1990年 8月15日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都中央区日本橋本町3丁目5番1号

氏 名 三共株式会社